

ラオス人民民主共和国
ラオス日本人材開発センタープロジェクト
(フェーズ2)
終了時評価調査報告書

平成 22 年 4 月
(2010 年)

独立行政法人国際協力機構
公共政策部

公 共
J R
10-024

ラオス人民民主共和国
ラオス日本人材開発センタープロジェクト
(フェーズ2)
終了時評価調査報告書

平成 22 年 4 月
(2010 年)

独立行政法人国際協力機構
公共政策部

序 文

ラオス人民民主共和国（以下、「ラオス」と記す）は、1986年に採択された新経済メカニズム（New Economic Mechanism : NEM）のもと、市場経済移行のための経済改革が進行中であり、第4次5カ年計画（1996～2000年社会・経済開発計画）の中で、経済改革を推進する担い手の育成が重要な課題と位置づけられています。また、2001年3月の第7回ラオス人民革命党大会政治報告の中で、2020年までに貧困を撲滅し、開発途上国から脱却することを中心とした長期目標を発表し、第5年次国家社会経済開発計画では、持続的な経済成長の確保や貧困層の半減と並んで、全分野における人材開発の促進、近代的産業開発の支援体制の確立等を目標としています。

一方、我が国においては、市場経済移行国に対する人材育成支援の一環として「日本人材開発センター」の設立が1998年に構想されました。ラオス政府より同国内における同構想実現に向けた強力な要請が示されたことを受け、当機構はラオス国立大学を協力相手方機関として、ラオス国立大学経済経営学部支援及び日本人材開発センター設立への協力を、「ラオス国立大学経済経営学部支援及びラオス日本人材開発センタープロジェクト」という一つのプロジェクト方式協力（当時）として、2000年9月に開始しました。

2005年1月に実施した終了時評価調査では、プロジェクトの協力実績及び成果についてラオス政府と検証を行い、ラオス日本人材開発センタープロジェクトが高い成果を上げたことが確認されました。このため、ラオス政府は、「ラオス日本人材開発センタープロジェクト（フェーズ2）」の実施を我が国に要請し、ラオス政府と日本側との協議の結果、5年間の計画でフェーズ2を実施することが合意され、2005年9月からフェーズ2として技術協力プロジェクトが開始しました。

今般、プロジェクト終了まで残り約半年となったため、第1次（2009年11月8日から11月21日）、第2次（2010年1月27日から2月11日）にかけて、終了時評価調査団を現地に派遣し、ラオス側と合同で終了時評価を実施しました。第1次は、フェーズ1及び2の計10年間にわたる活動実績の取りまとめ、第2次調査は5項目評価に基づく評価を行いました。

本報告書は同調査・評価結果をまとめたものであり、今後のプロジェクトの展開、更には類似プロジェクトに活用されることを願うものです。

終わりに、この調査にご協力とご支援をいただいた関係各位に対し、心より感謝申し上げます。

平成22年4月

独立行政法人国際協力機構

公共政策部長 中川 寛章

目 次

序 文
地 図
略語一覧

評価結果要約表

第1章 終了時評価調査の概要	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 調査団の構成	1
1-3 調査期間	2
1-4 主要面談者	3
第2章 終了時評価の方法	4
2-1 評価方法	4
2-2 主な調査項目とデータ収集方法	4
2-3 評価5項目	5
第3章 プロジェクトの実績	6
3-1 投入実績	6
3-2 投入の成果・事業実績	6
3-3 プロジェクト目標達成度	10
第4章 評価結果	13
4-1 妥当性	13
4-2 有効性	14
4-3 効率性	15
4-4 インパクト	16
4-5 自立発展性	16
4-6 プロジェクトの貢献要因	17
4-7 効果発現を阻害した要因	17
4-8 結 論	18
第5章 提言と教訓	19
5-1 提 言	19
5-2 教 訓	20
5-3 今後の対応	20

第6章 団長所感	21
----------	----

付属資料

1. 評価調査結果要約表（英文）	27
2. Minutes of Meeting	37
3. 第1次調査結果報告書	93
4. ラオス日本人材開発センター日本語教育事業（フェーズ2）最終報告	139
5. PDM	143
6. 新聞記事（ビエンチャンタイムス 2010年2月12日）	145

地図



出典： <http://www.eastedge.com/laos/map.html>

略 語 一 覧

ADB	Asian Development Bank	アジア開発銀行
AFTA	Asean Free Trade Area	ASEAN 自由貿易圏
ASEAN	Association of Southeast Asian Nations	東南アジア諸国連合
C/P	Counterpart	カウンターパート
FEBM	Faculty of Economics Business and Management	(ラオス国立大学) 経済経営学部
IT	Information Technology	情報技術
JCC	Joint Coordination Committee	合同調整委員会
JDS	Japanese Grant Aid for Human Resource Development Scholarship	人材育成支援無償事業
JENESYS	Japan-East Asia Network of Exchange for Students and Youth	東アジア青少年大交流計画
JOCV	Japan Overseas Cooperation Volunteer	青年海外協力隊
LDC	Least Developed Country	後発開発途上国
LJC	Lao-Japan Human Resource Cooperation Center	ラオス日本人材開発センター
LJI	Laos-Japan Human Resource Development Institute	(2010年5月にセンターからインスティテュートに格上げされたが、日本名は「ラオス日本センター」を使用)
MBA	Master of Business Administration	経営学修士
M/M	Minutes of Meetings	協議議事録
NUOL	National University of Laos	ラオス国立大学
PDCA	Plan, Do, Check, Action	計画・実行・行動
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリクス
PhD	Doctor of Philosophy	博士号
R/D	Record of Discussions	討議議事録
SMEs	Small and Medium Enterprises	中小企業
ToT	Training of Trainers	指導者養成
5 S	Seiri, Seiton, Seiketsu, Seisou, Shukanka (Shitsuke)	整理、整頓、清潔、清掃、習慣化 (躰)

評価結果要約表

1. 案件の概要	
対象国：ラオス人民民主共和国	案件名：ラオス日本人材開発センタープロジェクト（フェーズ2）
分野：その他	援助形態：技術協力
所轄部署：公共政策部日本センター課	協力金額（評価時点）：7.7 億円
協力期間： (R/D)：2005 年 9 月 1 日～ 2010 年 8 月 31 日 (E/N)（無償）2000 年 1 月 12 日	先方関係機関：教育省、ラオス国立大学 日本側協力機関：独立行政法人国際交流基金
<p>1-1 協力の背景と概要</p> <p>ラオス人民民主共和国（以下、「ラオス」と記す）では 1986 年以降、市場経済移行のための経済改革、及びそれに対応させた人材育成が重要課題として位置づけられている。高度人材育成の一環として、1995 年にアジア開発銀行の支援でラオス国立大学（National University of Laos : NUOL）が設立され、これに伴い経済経営学部（Faculty of Economics Business and Management : FEBM）が新設、高等教育人材の育成が開始された。しかし 2001 年 9 月、同プロジェクトは終了に至ったため、同国政府は日本政府に対して技術協力を要請した。</p> <p>一方我が国においては、市場経済移行国に対応する人材育成支援の一環として、「日本人材開発センター」の設立が構想され、1998 年 7 月、ラオス政府と同構想を協議したところ、ラオス国立大学経済経営学部支援及び日本人材開発センター設立への協力を一つの技術協力プロジェクトとして実施することが合意された。</p> <p>その後、2000 年 7 月に両国間で討議議事録（Record of Discussions : R/D）が締結され、2000 年 9 月から 5 年間の技術協力プロジェクトが開始された。前述のとおり、当初、ラオス日本人材開発センター（Lao-Japan Human Resource Cooperation Center : LJC）プロジェクトと NUOL-FEBM 支援は一つのプロジェクトとして運営されていたが、それぞれの活動の活発化、規模の拡大により、最終年度にあたる 2004 年から別々のプロジェクトとして実施されることになった。プロジェクトの終了にあたり、カウンターパート（C/P）機関である NUOL は、LJC プロジェクトによる協力を高く評価し、支援継続の要請がなされた結果、2005 年 9 月より 5 年のプロジェクトとして「ラオス日本人材開発センタープロジェクト（フェーズ2）」が実施されることとなった。</p> <p>1-2 協力内容</p> <p>(1) 上位目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) LJC がビジネス分野においてラオスの市場経済化に資する人材開発のための中核的な役割を果たす。 2) LJC がラオス・日本両国の人々の間に相互理解を促進する拠点として活用される。 <p>(2) プロジェクト目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ラオスの市場経済化に対応する人材育成を推進するためのサービスが LJC によって提供 	

される。

- 2) 相互理解を促進する活動に参加するための情報と機会が LJC によってラオス・日本両国の国民に提供される。

(3) 成果

- 1) LJC 事業実施体制が強化される。
2) ラオスの民間人材を対象とした実践的ビジネスコース並びにビジネス分野サービス（工場診断、起業家育成（インキュベーション機能）、ビジネスマッチング）が提供される。
3) LJC がラオスにおける日本語教育の拠点となる（リソースのネットワーク化を推進）
4) 両国民間の相互交流システムが構築され、活動が活発化される。

(4) 投入（評価時点）

1) 日本側

総投入額：約 6.2 億円
長期専門家派遣 4 名（延べ 10 名）
短期専門家派遣 41 名
本邦研修 27 名
第三国研修 5 名（タイ）
機材供与 0.15 億円
在外事業強化費負担 1.08 億円

2) ラオス側

C/P 配置 16 名
LJC 雇用スタッフ 26 名
土地・施設提供（LJC 敷地と駐車場）
運営費（光熱費、通信費、ラオス側スタッフ基本給）

2. 評価調査団の概要

団長・総括	森 千也	JICA 公共政策部 次長
評価分析	松下 智子	(株) アンジェロセック人間環境開発部 主任
協力企画	野村 留美子	JICA 公共政策部日本センター課 調査役
日本語コース評価	武田 友理	国際交流基金さくらネットワークチーム
日本語コース評価	生田 まもる	国際交流基金日本語国際センター

調査期間：2010 年 1 月 27 日～2 月 11 日
(日本語：2010 年 1 月 18 日～1 月 20 日)

調査種類：終了時評価

3. 評価結果の概要

3-1 実績の確認

(1) 成果の達成状況の確認

1) センター運営

年間計画策定や合同調整委員会（Joint Coordination Committee：JCC）により、プロジェ

クトの進捗管理がなされていた。2007年6月、人材育成計画（Human Resource Development Plan）が作成され、2007年に個々人の能力の現状把握と到達目標がマネジメントレベルで設定され、同計画に基づき、職員の研修計画の策定と能力評価が行われる計画であった。しかし、実際は特段同計画に沿って能力強化が図られておらず、ラオス側により作成された代替的な評価方法が取り入れられている。

プロジェクトは、これまで27名を本邦研修に、日本語コースの5名の現地講師を国際交流基金の日本語教師研修に派遣、参加させてきたほか、LJCスタッフに対してJICA在外事業強化費の支出で語学研修を実施している。それに加え、LJCの社会福祉基金（Social Welfare Fund）から、C/P1名に対する大学院修士課程の学費の一部が支払われている。財務面では、事業収入が順調に拡大しており、財務的な自立発展性の観点では運営体制が徐々に強化されていることが確認されている。しかしながら、今後インスティテュート化するうえで不可欠となるセンター運営能力の一層の効率化が必要であり、また各部門間の連携を強化するうえで総務部門を中心に調整機能向上が課題である。

2) ビジネスコース運営

これまで計58コースが提供され、2008年よりMBAコース、企業診断コースが導入されるなど、フェーズ1に比較し、幅広いニーズに答えている。延べ受講者人数は約1,400人である。受講生の満足度は高く、調査団が実施したアンケートによれば、MBAコース88%、一般ビジネスコース84%、企業診断コース100%であった。実際に学んだ知識を業務に活用していると答えた受講生はMBA、一般ビジネスコースの平均で85%であり、実践面に重点を置いた講義内容が高い評価につながっていることを確認することができた。さらに受講の成果として、会社の業績、収入向上、従業員規模拡大につながった（あるいは見込み）との回答は約80%に及んだ。

2008年、一部のビジネスコースに定員割れが生じたが、MBAの導入で安定した事業収入が確保されており、財務的な自立発展性も高い。

ビジネスコースの講義時間の84%はローカル講師の指導によるもので、日本的経営など我が国の独自性を打ち出した講義を除き、技術的な自立発展性は高い。運営面では安定したコース運営体制が確立しつつあるが、インスティテュート化に向けた更なる能力向上が期待される。

3) 日本語コース運営

現在9レベルのコースが運営され、多様な受講生のニーズに答えており、受講生の満足度は平均して高い。これまで約1,996人が受講しており、フェーズ1終了時点の2,600人から若干減少が見られた。またこれまで延べ5名のローカル講師が国際交流基金の研修に参加している。

初級クラスについては、ローカル講師が特段問題なく指導できており、コース運営もローカル講師のみでほぼ可能な状況である。他方、中級コース以上はローカル講師の日本語能力、教授能力の不足により、自立的な運営が難しい。国際交流基金の日本語教育専門家を中心に、新任教師の養成を行っているが、現地講師が自立的に教員養成を行う技術は十分とはいえないため、今後も日本語教師の勉強会などを通じた技術移転を進めていくことが必要である。

これまでの活動により、ラオス国内及び国外とのネットワーク作りは盛んに行われつつある。また、日本語教師会の立ち上げに向けて、定期的ではないが日本語教育関係者の会議が必要に応じ開催されている。現時点で LJC が日本語能力検定試験の実施機関となっていること、ラオス国内にあるほぼすべての日本語教育機関でも利用されているラオス語教材は LJC で作成されたものであることから、LJC はすでにラオスにおける日本語教育の拠点として機能していると判断される。

(2) 相互理解促進事業

これまで約 600 件の事業が実施され、4,700 人以上が参加した。大規模イベントのほか、毎週のように行われる小規模イベント等、様々な形態の日本文化、ラオス文化の催し物をコンスタントに開催している。加えて、ラオスと日本の大学生の交流事業、奨学金オリエンテーション・選考、留学フェア、現地日系企業就職フェアなど、外部機関との連携により、より高度な相互交流事業が積極的に行われ、官民連携の好例となっている。運営面では、文化イベント実施であれば、自立的な実施がほぼ可能な状況である。他方、日本の関連団体との折衝交渉を現地人材で行うことには限界がある。

広報事業は、ラジオ番組で 2007 年 9 月より週一度 LJC の活動報告や案内を行い、月に平均二、三度新聞に掲載されるなど全国の市民に向けた情報発信を行っている。情報の伝達が早いホームページの一層の充実が今後の課題であるほか、3 カ月に一度省庁宛に送付するニュースレターについても、読者からのフィードバックに対応するなど一層の改善が必要である。図書館利用者は 1 日平均 100 人程度で、過去 5 年間で 138,000 人の利用を記録している。アンケートによると、利用者の大半は学生で、ほぼ毎日利用する学生が多く、満足度の高さがうかがえる。

3-2 評価結果の要約

(1) 妥当性

本プロジェクト目標及び上位目標は、ラオスの国家社会経済開発計画に示されている目標のうち、「持続的な経済成長の確保」「全分野における人材開発の促進」との整合性があり、日本の援助政策とも合致する。また LJC が実施している活動に対する高いニーズが見受けられ、ターゲットの規模も適切であると判断される。

ビジネスコースでは、MBA、一般ビジネスコースともに、「日本的経営を学びビジネスを活性化させること」を受講動機とする回答が 20%を占め、実際に業務に活用し、成果を上げつつあるとの回答も聞かれている。以上のことから、本プロジェクトの妥当性は高いといえる。

(2) 有効性

フェーズ 2 では、よりターゲットグループのニーズに合わせて活動することにより、それぞれの部門の活動内容も多様化した。ビジネスコースを中心にセンター事業の集客率、収益率も向上し、事業予算のラオス側負担はフェーズ 2 終了時点の目標としていた 50%を超え、63%に達した。さらにラオス側の C/P 配置も 16 名と充実していることから、「ラオスの市場

経済化に対応する人材育成を推進するためのサービスが LJC によって提供される」は、ほぼ達成が見込まれる。

「相互理解を促進する活動に参加するための情報と機会が LJC によってラオス・日本両国の国民に提供される」については、これまでの活動の実績からほぼ達成しているものと思われる。

しかしながら、両方のプロジェクト目標に関連するものとして、センター全般に戦略的に企画運営が行える能力スタッフはおらず、引き続き人材育成が課題である。

(3) 効率性

ラオス・日本両国からの投入は計画通り行われており、期待される成果もほぼ確実に生み出されている。プロジェクトの実施プロセスについても、おおむね問題なく、効率性は確保されていると判断できる。

(4) インパクト

ビジネスコース、日本語コースを中心に、すでにラオス国内における人材育成の拠点となっていることから、一部の上位目標は達成していると判断できる。しかしながら、拠点機関機能を有するためには、より戦略的な企画や、効率的な運営が必要であることを念頭に、事業を運営することで達成する見込みが高まるものと思われる。

(5) 自立発展性

全般的に LJC の財務状況は良好で、C/P の配置も充実しており、自立発展性は確保されていると判断できる。特にビジネスコースは財務的観点、組織運営の観点からも高い自立発展性を示している。相互理解事業は大学間交流、留学フェアを通じ収益性を上げてきているが、戦略的な企画を行えるスタッフの育成が今後の課題である。またセンター運営全般に適正な人員の配置、質の高いスタッフの確保が急務である。

3-3 効果発現に貢献した要因

<計画>

(1) ラオス側の確固たるオーナーシップ

LJC は NUOL-FEBM 支援プロジェクトと同一の技術協力プロジェクトとして開始された。そのため、設立当初からラオス側のオーナーシップは強く、上述のとおりラオス側 C/P の充実した配置、事業予算のコストシェアの割合拡大など、高いオーナーシップが発揮されている。

<実施プロセス>

(2) 外部関連機関との連携強化

フェーズ2ではフェーズ1よりも一層の活動領域拡大が見られたが、そのうち NUOL-FEBM や文学部日本語学科、日系企業や日本の財団など、外部関連機関との連携により実現したものも多く、高い効果の発現、高い自立発展性につながっている。

(3) ビジネス分野事業の柔軟な見直し

フェーズ2のビジネスコースでは、対象をサービス部門にも広げたり、より実践面を重視するコースの企画・実施を行った。また FEBM との合同 MBA を立ち上げ、多くの応募者を集めた。こうした現地のニーズに沿ってビジネス分野事業を柔軟に見直したことが、効果の発現につながった。

3-4 効果発現を阻害した要因

(1) コミュニケーション力

部門ごと、また部門間の定期会合が開催され、コミュニケーションの機会は適切に与えられているが、英語によるコミュニケーション力の不足がみられている。

(2) ローカル講師の教授内容

一部受講生からローカル講師は実務経験がなく、理論に偏っているとの指摘もあり、教授法、講義内容の改善が求められる。

(3) 部門間の連携

より高い効果発現のため、部門間の連携を促進していくことが求められる。

3-5 提言

プロジェクトに対して、①「インスティテュート」化に向けたセンター運営体制の更なる強化、②2015年のASEAN統合に向けたビジネスコース内容の見直し、③基金専門家の派遣終了を踏まえた日本語コースカリキュラムの見直しとスタッフの能力強化、④付加価値の高い相互理解事業の実施とスタッフの能力強化を提言する。

3-6 教訓

ラオス日本人材開発センタープロジェクトは、NUOL-FEBM 支援と同一のプロジェクトとして開始された経緯があることから、大学側の強いオーナーシップのもと、十分な人数の公務員の配置やラオス人講師による講義が可能とされてきた。さらに、フェーズ2では FEBM との合同 MBA プログラムの成功とそれに伴う収入の向上により、センター収支の大幅な改善を実現している。このように、他の日本センターにおいても、LJC 同様先方のオーナーシップ確保と現地のニーズに基づいた柔軟性のある事業実施が重要である。

3-7 結論

フェーズ1と比較して事業が拡大し、全部門において成果が達成されつつある。プロジェクト目標は達成されたといえる。LJC プロジェクトの大きな強みは、ラオス側の高いオーナーシップが確保されていること、日本側が日本的な特徴を前面に活かした事業運営（日本的経営、日本語、日本文化）が部門間で相乗効果をもたらし、親日家の醸成に大きく貢献してきたといえる。

第1章 終了時評価調査の概要

1-1 調査団派遣の経緯と目的

ラオス人民民主共和国（以下、「ラオス」と記す）では、1986年以降、市場経済移行を推進するための経済改革が行われ、そのための人材育成が重要な課題とされている。1995年には人材育成の一環として、アジア開発銀行（Asian Development Bank：ADB）の支援によりラオス国立大学（National University of Laos：NUOL）の設立、経済経営学部（Faculty of Economics Business and Management：FEBM）の新設による高等教育人材の育成が開始された。その後 ADB のプロジェクトは2001年に終了され、日本政府に対する技術協力の要請があった。

一方我が国では、市場経済移行国の人材育成支援の一環として、「日本人材開発センター」設立が構想され、1998年7月にラオス政府と「ラオス日本人材開発センター」設立構想につき協議したところ、NUOL-FEBM 支援及びラオス日本人材開発センター設立への協力を一つの技術協力プロジェクトとして実施することが合意された。

2007年7月に両国間で締結された討議議事録（Record of Discussions：R/D）に基づき、2000年9月、5年間の技術協力プロジェクトが開始された。当初はラオス日本人材開発センター（Lao-Japan Human Resource Cooperation Center：LJC）プロジェクトと NUOL-FEBM 支援は一つのプロジェクトとして運営されていたが、それぞれの活動が活発化し、規模も拡大したことから、最終年度の2004年度に別々のプロジェクトとして運営が行われるようになった。

プロジェクト終了にあたり、カウンターパート（Counterpart：C/P）機関である NUOL は、LJC プロジェクトによる協力を高く評価し、JICA による支援継続の要請を行ったところ、2005年9月から、5年間のプロジェクトとして「ラオス日本人材開発センター（フェーズ2）」が実施されることが合意され、現在4名の日本人長期専門家（チーフアドバイザー、業務調整、日本語教育、相互理解促進）が派遣されている。ビジネスコースについては、事業計画策定・運営専門家がコースの企画・立案及び実施を総括し、各講義を担当する短期専門家が派遣されている。

プロジェクト終了まで約半年となったため、今般終了時評価調査団を現地派遣し、ラオス側と合同で評価を行った。評価は1次と2次に分け、1次調査については LJC プロジェクトフェーズ1も含めた10年間の成果の確認を行った。同調査結果は本報告書付属資料3に添付する。2次調査は評価5項目に基づく評価であり、その結果について以下本文にて記述する。

1-2 調査団の構成

(1) 調査団員の構成（第2次調査）

担当	氏名	所属
団長／総括	森 千也	独立行政法人国際協力機構公共政策部ガバナンスグループ 次長
日本語コース 評価	武田 友理	国際交流基金 さくらネットワークチーム
日本語コース 評価	生田 まもる	国際交流基金 日本語国際センター
評価分析	松下 智子	株式会社アンジェロセック人間環境開発部 主任
評価企画	野村 留美子	独立行政法人国際協力機構公共政策部日本センター課 調査役

1-3 調査期間

調査期間は、2010年1月27日から2月11日までの16日間。

		役務コンサルタント(松下)		森団長、野村団員
1月27日	水	10:45 21:05	成田発 ビエンチャン着	
1月28日	木		インタビュー調査	
1月29日	金		①日本人長期専門家4名	
1月30日	土		②日本人短期専門家吉川専門家	
1月31日	日		③センターラオス側所長、副所長2名	
2月1日	月		④センター現地スタッフ部門長	
2月2日	火		⑤センター現地スタッフユニット長以上 (部門ごとのグループインタビュー)	
2月3日	水			
2月4日	木	10:45 21:05		成田発 ビエンチャン着
2月5日	金	9:00	JICA事務所(高島所長、武井次長、吉村所員)との打合せ@事務所 LJCに移動 プロジェクト専門家(4名)との打合せ CP(所長、副所長)との面談@LJC	
		14:00	ラオス国立大学長 Assoc. Prof. Dr. Soukkongseng SAIGNALEUTH	
		14:30	ラオス国立大学副学長 Assoc. Prof. Dr. Saykhong SAYNASINE	
		16:00	日本商工会議所	
2月6日	土		MM案作成	
2月7日	日		MM案作成	
2月8日	月	9:00	教育省副大臣	
		10:00	ミニッツ協議(C/P所長、副所長、部門長)	
		PM	ミニッツ修正	
2月9日	火	AM	ミニッツ修正	
		13:30	ラオス国立大学日本語学科 国際交流基金専門家 森西氏、ジュニア専門家 伊藤氏 at 日本語学科	
		16:00	日本大使館表敬	
2月10日	水	14:00	MM署名(ラオス国立大学)	
		17:00	事務所報告	
			ビエンチャン発	
2月11日	木	07:30	成田着	

1-4 主要面談者

(1) ラオス側

- 1) ラオス教育省
LyTou BOUAPAO 副大臣
- 2) ラオス国立大学
Prof.Dr.Soukongseng SAIGNALEUTH 学 長
Prof.Dr.Saykhong SAYNASINE 副学長
- 3) ラオス日本人材開発センター (LJC)
Assoc.Prof.Dr.Manisoth KEODARA 所 長

(2) 日本側

- 1) 在ラオス日本大使館
宮下 正明 特命全権大使
- 2) 日本大使館
田中 智大 二等書記官
- 3) ラオス日本商工会議所
山田 健一郎 事務局長
- 4) Lao-Japan Airport Terminal Services (L-JATS)
竹村 良孝 Deputy General Director
- 5) アジア・太平洋三井物産株式会社ビエンチャン事務所
高沖 秀年 所 長
- 6) JICA ラオス事務所
高島 宏明 所 長
武井 耕一 次 長
吉村 由紀 所 員
- 7) LJC
佐藤 幹治 所長／チーフアドバイザー
岩館 裕 業務調整員
三好 陽 相互理解専門家
野村 ゆみ子 日本語コース専門家 (国際交流基金専門家)
- 8) ラオス国立大学日本語学科
森西 志保子 国際交流基金専門家
伊藤 令 国際交流基金ジュニア専門家

第2章 終了時評価の方法

2-1 評価方法

本件調査では、プロジェクト・デザイン・マトリックス（Project Design Matrix : PDM）手法に基づき、プロジェクトの当初計画、協力開始時から評価調査時点までの双方の投入・活動実績、プロジェクト実施の効果、運営管理体制等を踏まえたうえで、評価5項目（有効性、妥当性、効率性、インパクト、自立発展性）の観点から多面的に評価を実施した。

あわせて、協力期間終了後における対応方針についても検討し、ラオス政府関係当局に提言し、協議議事録（Minutes of Meetings : M/M）に取りまとめた。

なお、別途、日本語については各事業別評価も行い、報告書に掲載した。

2-2 主な調査項目とデータ収集方法

(1) 資料レビュー、評価グリッドの作成

事前にプロジェクト及び JICA、国際交流基金から入手した参考資料等から情報を得て、現地での調査項目及び情報収集方法を検討し、評価デザインとして評価グリッド（和文・英文）を作成した。

(2) アンケートの作成・回収

現地調査に先立ち、現地 C/P（LJC 副所長）の協力を得て、ビジネスコース受講生、訪日研修（ビジネス関連）参加者を対象にアンケートを作成・配布し、回答を回収・分析した。また、本アンケートを補う形で、一部のビジネスコース受講生、訪日研修参加者に対してインタビューを行った。

(3) プロジェクト関係者へのインタビュー

本プロジェクトの達成度や成果を捉えるうえで、プロジェクト関係者に対して、グループインタビューあるいは個別インタビューを実施した。対象は、日本人長期専門家、ラオス側 C/P（所長、副所長）、LJC 各部門長（個別インタビュー）、各ユニット長（グループインタビュー）。また、ビジネスコース受講生、企業診断受講企業、日本語コース、相互理解事業の参加者に対するグループインタビューのほか、本プロジェクトの C/P 機関である NUOL はじめ、ラオスの援助窓口機関である教育省にも同様にインタビューを実施した。

(4) プロジェクト関係者との協議

教育省、専門家との協議のほか、ビジネスコースでは日本商工会議所、日本語コースでは NUOL 文学部日本語学科を訪問し、本プロジェクトに関する意見を聴取した。

(5) 合同調整委員会（Joint Coordination Committee : JCC）への報告

上記の調査・評価結果を評価5項目に沿って評価調査報告書（英文）に取りまとめ、JCC の場で検討し、2010年2月10日に M/M として署名を行った。M/M については付属資料2参照。

2-3 評価5項目

評価の視点、内容は以下のとおり。

(1) 妥当性 (Relevance)	プロジェクトの目指している効果が、受益者のニーズに合致しているか、問題や課題の解決策として適切か、相手国と日本側の政策との整合性はあるか、プロジェクトの戦略・アプローチは妥当か、公的資金である ODA で実施する必要があるかなどといった「援助プロジェクトの正当性・必要性」を問う視点
(2) 有効性 (Effectiveness)	プロジェクトの「成果」が、どの程度達成されているか、及びそれが「プロジェクト目標」の達成にどの程度結びついているかを分析・評価する視点
(3) 効率性 (Efficiency)	主にプロジェクトのコストと効果の関係に着目し、資源が有効に活用されているかを問う視点。「投入」の手段、方法、期間、費用の適切度を分析・評価する視点
(4) インパクト (Impact)	プロジェクトの実施によりもたらされる、より長期的、間接的効果や波及効果をみる視点。予期していなかった正・負の効果・影響を含む。
(5) 自立発展性 (Sustainability)	プロジェクトによりもたらされた成果が協力終了後も持続・拡大され得るかどうかを把握し、実施・関係機関の自立度を政策・組織面はじめ、財務面、技術面、その他の観点から分析・評価する視点

第3章 プロジェクトの実績

3-1 投入実績（付属資料2．Minutes of Meeting ANNEX3.1～3.4を参照）

本プロジェクトに関する投入実績はM/MのANNEXに明記しているとおおり。

(1) 日本側投入

長期専門家派遣（10名）、短期専門家及びコンサルタント派遣（48名）、延べ合計58名を約5年の間に投入している。また、機材供与については承認額累計約1,450万円（内訳は、コンピューター機材や携行機材、日本語・相互理解事業に関連した書籍、CD）の投入を行った。現地業務費（2009年9月までの累計）は累計1,534,000ドルにのぼり、本邦への研修員受入数は27名（C/P、ビジネスコース現地講師及びビジネスコース成績優秀者）に上っている。

(2) ラオス側投入

LJC用地、並びに付帯工事の提供に加え、LJCに勤務する全スタッフの38%に当たる以下の16名の要員（LJC所長、副所長、部門長、及び一部のユニット長）及びセンター運営に係る光熱水費をラオス側が全額負担している。なお、人員配置及び経費負担に係る詳細は付属資料2．ANNEX2及びANNEX3-4のとおり。

NUOLによる支出	Emolument、水道・電気・高熱費（ドル）
LJCによる支出	現地講師謝金、通信費、印刷代、機材維持費、その他

3-2 投入の成果・事業実績

本プロジェクトの成果はPDMに記載のとおり4つある。プロジェクト開始時点でPDMには成果の到達目標である成果指標が明確に設定されなかったが、プロジェクト期間中PDMの見直しはされなかった。本終了時評価時点で、PDMの記載内容あるいは指標の設定につき、加筆修正が望ましい箇所が見受けられたものの、あくまでも評価手法に従い、さらに評価の視点の一貫性を担保するため中間評価と同様の指標を使用するよう可能な限り努めた。さらに、終了時評価時点で明らかになった成果も確認しつつ、同成果を判断する指標についても、本評価で改めて設定することとした。

(1) 成果1

「LJC事業実施体制が強化される」

LJC運営に必要な人員が適切に配置され、またプロジェクトの運営を円滑に進めるうえでスタッフの能力も徐々に向上が図られてきている。

成果1の指標はPDMに挙げられている、1）人材育成計画に従った研修回数、2）スタッフの能力評価に従い見てみると、次のとおりである。

1) 人材育成計画に従った研修回数、スタッフの能力

「3-1」で述べたとおり、ラオス教育省から、公務員資格を有するC/P16名（LJC所長、副所長2名、各部門長、一部のユニット長）、及び26名のスタッフ（LJCが独自に雇用しているスタッフ）が配置され、プロジェクト運営にあたっている。LJC所長、副所長、各部門長は管理職としてある程度の意思決定権も与えられている。

プロジェクトのフェーズ1が開始された当初、本プロジェクトが FEBM との協働で実施されてきた背景もあり、フェーズ1開始当初、2名のみでのC/P体制で開始された本プロジェクトであったが、10年をかけてラオス側の配慮によりC/Pの配置体制が着実に整ってきている。現在は大学に配置できる上限を超えた人数のC/Pを配置しており、職員全体の現地化率は91%となっている。

これらLJCスタッフ（注：公務員資格を有するC/PとLJC雇用のスタッフの総称）を対象に、プロジェクト側により2007年に人材育成開発計画（Human Resource Development Plan）が策定された。同計画は、各職員の①学術分野及び言語能力（英語・日本語）に係る中長期的達成目標を明確化し、能力開発を促進させること、②これら目標の達成度をモニタリングすることを目的とするもので、当初人材育成開発計画はマネジメントレベルと職員が能力強化の目標を共有し、個々人が能力強化に励むことを意図して作成された。

人材育成については、過去5年間で、日本人専門家によるオン・ザ・ジョブトレーニング（OJT）以外に、C/P研修（27名）、国際交流基金日本語教師研修（5名）、現地業務費からの支出による英語研修（LJC全スタッフ対象）、5S研修（LJC全スタッフ対象）などの豊富な研修機会が提供されてきた。こうした研修の成果として、徐々にLJCスタッフの能力も向上しつつあるものの、いまだ運営能力、語学能力は十分とはいえない。特に運営能力に関しては、通常のルーティン的な業務を遂行する能力は身につけているといえるものの、戦略的な計画策定の能力が身につけているとは言い難い状況である。また調査団がインタビューで判断する限りでは、高い日本語・英語力を有するスタッフは一部に限られ、全般的に英語及び日本語による語学力、迅速な事務処理能力が身につけている人員は依然不足していることが確認された。

2) スタッフの能力評価

上記のとおり、プロジェクトは積極的な人材育成を行ってきている。ただし、プロジェクト関係者、特に一部LJCスタッフ（ユニット長レベルの公務員）に対するインタビューによれば、各職員は上記「人材育成開発計画（Human Resource Development Plan）」に従って自己の到達目標を特段意識している様子は見受けられず、現地C/Pの幹部と職員との間で共有が十分に図られている様子も確認できなかった。そのため、同計画と研修実績との関連性は必ずしも高くない様子がかがえ、人材育成及び能力評価においては同計画が重視されているとの十分な事実は確認できなかった。

かわって、2008年にラオス側により代替的な評価システムが導入され、過去2年間に2回にわたり、同評価システムに従った人事・能力評価が行われていることが確認できた。なお、ラオス側が作成した人事評価シートには、上記「人材育成計画」とは異なる独自の評価対象項目が設定されており、これにのっとった人事考課が行われている（各項目の厳密な和訳ではないが、ラオス側作成の評価は、上位管理職・一般管理職などに一律に「粘り強さ」「勤勉さ」「連帯感」「計画性」「自己啓発の成果」などの項目に従い、評価が行われていた。業績考課に該当する項目と、各個人の勤務姿勢など、いわゆる情意効果に該当する項目が含まれている）。なお、かかる評価システムは導入されて間もないため、能力向上の具体的な推移を確認するのは時期尚早である。

その他、職員の慶弔金等の支払い等を見越して、LJCの自己収入の一部を積み立てたSocial Welfare Fund（社会福祉基金）から、C/P1名に対する大学院修士課程の学費の補助が

行われている。

(2) 成果 2

「ラオスの民間人材を対象とした実践的なビジネスコースが継続的に実施される」

ビジネスコースにおいて、当初期待された成果をおおむね成功裏に産出してきた。以下、コース・活動のタイプ、コースと協力機関の数、コースのテーマ、顧客満足度の4つの指標から、ビジネスコースの達成度を見る。

LJC のビジネスコースは、市場経済で必要とされる実践的知識とスキルを提供する 20 以上のテーマを継続的に提供してきており（レギュラーコース 8 コース、ショートコース 47 コース）、1,600 人以上の参加者を集めている。

フェーズ 2 では、より一層実践的な講義へのニーズを反映し、カリキュラムの改訂が行われ、特に各企業の経営課題や、起業を目指す若手経営者が抱える課題など、多様化した受講生のニーズを考慮した起業論の講義や、各企業に対する個別の経営診断・現場指導が導入されている。近年受講生の大部分を占める中小企業関係者の実学志向の高まりを反映したもので、2007 年より 54 社に対する企業診断／経営指導（3 科目）も行われている。さらに、2008 年にはラオス側のイニシアティブのもと、FEBM との合同による MBA プログラムが導入され、経営に関する高度な専門知識、ビジネス分野のリーダーとしての実践力を身につけることを望む比較的若年層の社会人からの高い関心を集めている。

一般コースでは、マーケティング、人材管理、品質管理、戦略経営などが人気講座となっているが、これら講座では日本の経営を取り入れた実務的な内容を多分に取り込んだ講義が日本人短期専門家により行われている。

なお、受講者によるコースと講師の評価、及びニーズ調査により、カリキュラム及びコース内容は適宜モニタリングのうえ改善されており、2007 年にラオス側現地講師によるショートコースへの定員割れが生じた時期もあるが、C/P と日本側プロジェクトチームの共同によるカリキュラム見直しが行われ、MBA や企業診断など新しいプログラムが導入された結果、現状では受講希望者の低迷は大きな問題として見られていない。

1) 受講生の満足度

調査団が実施したアンケートによれば、ビジネスコースは概して受講生から高く評価されており、満足度は平均して 85%前後と大変高く、「満足している」と回答した受講生は、MBA コースで 88%、レギュラービジネスコースで 84%に達した。なお、経営診断については全受講企業が「大変満足している」と回答した。実際に業務に活用しているとの回答も平均して 84%と高く、受講の成果として「会社の業績」「収入向上」「従業員規模拡大」につながった（あるいは見込み）との回答は 80%に及んだ。実践面に重きを置いて、ビジネスのニーズに対応させた講義内容が高い評価につながっていることを確認することができた。

2) 現地講師の割合と質

ビジネスコースの開講時間の 84%を FEBM 及び LJC のラオス人講師が担当しており、コース担当教員の 85.4%に該当する。これはビジネスコースの高い技術的自立発展性を担保するものであるが、他方で複数の受講生とのインタビューにおいて、概して FEBM 教員は実務経験に乏しく、講義は理論に偏重する傾向があるため、実学志向の受講生のニーズに十

分対応していないとの指摘が聞かれた。

(3) 成果 3

「LJC がラオスにおける日本語教育の拠点となる」

成果 3 の指標は、①コース実施回数、②受講者数、受講者による満足度、③日本語教師に対する研修、能力の向上として、現時点での成果は当指標に従い見てみると、次のとおりである。

1) コース実施回数

現在 9 レベルのコースが開講され、受講生の習熟度レベルに対応されたコース展開となっている。ビエンチャン市内には NUOL 文学部日本語講座、数校の日本語学校が活動しているが、LJC の日本語コースは講座内容・講師の質に関し、高い評価を集めている。LJC の敷地に近接する NUOL 文学部では日本語専攻の学生を対象に、初級から上級までの日本語講座や日本語教授法クラス、日本史、日本経済等の様々な関連科目を教授しており、他方 LJC ではより実生活に役立つよう会話重視の内容で、主に初級・初中級レベルのコースを提供している。

2) コース受講者数、受講者数の満足度

2009 年 9 月までに 2,500 人の受講生を受け入れてきた。フェーズ 1 の受講者数 2,600 人から若干減少が見られた。上述の通り、国立大学における正規の日本語講座開設、民間日本語学校の開講等もあるが、一般社会人に対する日本語教育自体の需要も頭打ちであるとの指摘もある。

3) ラオス人現地日本語講師に対する研修機会、教授能力

LJC のラオス人日本語講師 5 名が国際交流基金の日本語教師研修に参加したほか、タイのウドンタニで行われる日本語教師研修会、カンボジアの日本センターとの交換事業など近隣諸国の関係機関とのネットワークを通じ、日本語教師の研修機会が提供されている（中間評価報告に記載のある日本語教育研究会の活動実績は確認できなかった）。また、ラオス国内の日本語教育関係者とのネットワークを活用しつつ、不定期に勉強会が開催されている。

ラオス人現地講師の教授能力については、インタビュー等で得られた情報では初級レベルであれば、自立的に教授するうえで特段支障はない。しかしながら、ラオス人現地講師は、依然日本語能力・教授法に係る知識は十分でないため、日本人講師の支援なくして中級以上のクラスを教授することは難しいことが確認されている。

なお、現在 LJC は日本語能力検定試験の実施機関であるが、本フェーズ完了と同時に国際交流基金日本語教育専門家の派遣期間が終了するのに合わせて、本検定試験の実施は NUOL 文学部日本語講座に委譲されることが計画されている。

(4) 成果 4

「両国民間の相互交流システムが構築され、活動が活発化される」

成果 4 の指標は PDM では、行事の開催数と参加者人数であったが、現時点での情報提供・交流事業の実績・成果は次表のとおりである。特に日本の伝統文化色が強かったフェーズ 1 と比べて、フェーズ 2 では事業の委託収入拡大を目指して、LJC 単独で開催する事業だけではなく、外部機関との連携事業を積極的に拡大させた。日系関連企業への就職、日本留学への関心の高まりを受け、過去数年で就職フェア、留学フェアを日本関連機関と連携で行った。これら

の事業は他機関では実施できないような内容となっており、LJC の独自性を十分に活用した、高付加価値のある事業を実施したことが確認できた。

相互理解促進に係る事業の参加者数は以下のとおりであるが、それ以外にもメディアルーム（図書室）利用 108,277 人、セルフスタディールーム利用 57,212 人、メディアルーム会員数 5,500 人（2009 年 9 月現在）となっており、幅広い市民により、LJC に供与された書籍・出版物や視聴覚教材を有効利用されていることが確認された。特にタイ語による経済、社会、文化といった日本関連の多方面での資料が充実していることで、LJC 来館者数も増加しており、相互理解事業は両国の交流促進に貢献しつつあるといえることができる。

事業開催数

	2006	2007	2008	2009
合計	153	154	181	118

参加者数

	2006	2007	2008	2009
合計	7,163	11,737	10,847	4,315

3-3 プロジェクト目標達成度

<プロジェクト目標>

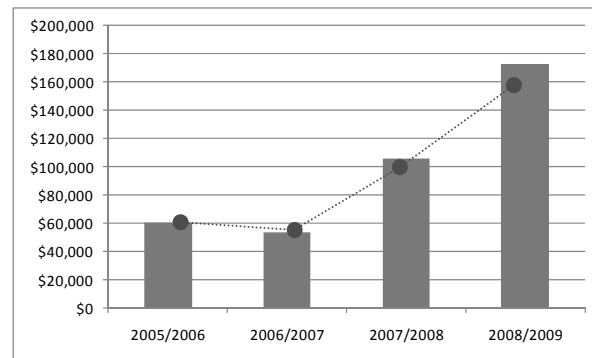
- (1) 「ラオスの市場経済化に対応する人材育成を推進するためのサービスが LJC によって提供される」
- (2) 「相互理解を促進する活動に参加するための情報と機会が LJC によってラオス・日本両国の国民に提供される」

以下のとおり、1) センター収入及び NUOL 予算による現地活動費カバー率、2) 活動を通じた親日感の醸成、3) LJC 利用者数の3つの指標から、プロジェクト目標の達成度を見る。

1) センター収入及び NUOL 予算による現地活動費カバー率

フェーズ2では、ラオス側のオーナーシップのもと、自己収入の多角化を目的として、様々な収益事業が積極的に導入された。特に 2008 年には高まるビジネス人材育成のニーズに対するラオス側の要請により、FEBM との共同による正規の MBA コースが導入された。MBA コース（1.5 年間のコース）の受講料は 2,500 ドル/1 名と、現地物価に比して高額であるものの、受講希望者は定員を上回り、初年度から同コースだけでも受講料総収入は 55,273 ドルに達している。

収益事業多角化による自己収入の推移（2005～2008）



そのほかラオス日本留学フェア、日本の大学生のスタディツアー受入れ、日系企業職員の日本語研修、青年海外協力隊（Japan Overseas Cooperation Volunteer：JOCV）の現地語学研修など、利用者の多様なニーズに応えたサービスが、両者の協働のもとで提供されている。これら収益事業は、収入の拡大・安定化に大きく貢献し、2008年度は、フェーズ2開始時点の2.9倍に当たる約17万3,000ドル強の自己収入を得ている。

こうした活動の成果として、自立してサービスの提供、センター運営ができるかどうかは鍵になる、ラオス側の自己予算による現地活動費のカバー率は拡大傾向にある。フェーズ2開始当初、プロジェクト終了までにLJC運営に係る日本・ラオス側の負担は50%ずつとする目標が掲げられていたが、2009年9月末時点ラオス側負担は約63.8%に拡大し、JICA側負担を36.2%に縮小することに成功している。

	2005/2006	2006/2007	2007/2008	2008/2009	Sep.2009
センター支出に占めるLJC収入の割合	22.4%	18.3%	31.8%	39.8%	64.7%

	2005/2006	2006/2007	2007/2008	2008/2009	Sep.2009
LJC運営費に占めるラオス側コストシェア率（NUOL予算+LJCの支出割合）	40.4%	42.0%	50.9%	50.6%	63.8%

2) サービスの提供、それを通じた親日感の醸成

活動の成果としての親日感に係るデータの収集を行うことは現実的ではないため実施されていないが、C/Pや受講生に対するインタビューでは、LJCは社会人を対象とするビジネススクールとして、そして日本語コース、文化紹介を実施する機関として、疑いなくラオス国内における最も知名度の高い機関である。

ビジネス人材の育成については、プロジェクトフェーズ1の開始以降、LJCはビジネス人材育成機関のパイオニア的存在として、市場経済化に対応する人材育成において重要な役割を果たしてきた。当時、LJCビジネスコースは「ラオス初のビジネス講座」として開設され、市場経済化への道を歩み始めたばかりの同国経済を率いる政府職員や、ビジネス活動を担う国営・民間企業社員に対し、資本主義経済・経営理論の基礎知識を得る手段として唯一無二

の機会を提供してきた。本プロジェクト（フェーズ2）では、より一層実践的な講義を期待する声が高まり、各企業の経営課題や、起業を目指す若手経営者が抱える課題など、多様化した受講生のニーズを考慮した起業論の講義や、各企業に対する個別の経営診断・現場指導が導入された。これらは日本的経営を重視した内容で、画期的な取り組みとして、受講者から関心を集めるとともに、実践面での高い有用性に対する評価は極めて高く、日本的経営を取り入れた企業の活性化を通じた親日感の醸成に貢献しているといえる。

日本語教育では、2001年に同国で先陣を切って日本語コースが開講され、現在でも国内で最も高い授業レベルを誇る機関の一つである。日本語コースの受講者数は、フェーズ1当時と比較して若干減少傾向にあるが、受講生からの満足度は大変高いものとなっている。

さらに、相互理解事業も過去4年間に計600件以上行われ、内容も文化紹介、学生間交流、JOCV 研修など多岐に渡る事業が行われている。いずれも来場者から好評を博しており、参加者は年々増加傾向にある。また、付属の図書館には蔵書やDVDなど日本を紹介する資料が充実しているため、利用者数も年々増加傾向にある。その他、LJCは独自のラジオ番組を有し、週に一度、LJCの活動や新任のJOCV隊員の紹介など全国向けに放送しており、放送局に問い合わせが月平均で50件程度寄せられるなど、ラオスにおける日本への理解促進に果たしている役割は大きい。

さらに、本田財団からの委託によるYES奨励賞（科学技術の発展を担う若手リーダー育成事業）の奨学金オリエンテーション、現地日系企業からの依頼を受けた就職フェアや、企業現地職員の日本語コースの開催、日系企業による日本語コース優秀者へのスカラシップ提供など、官民連携の好例ともいえる活動が多数展開されている。

以上のことから、LJCによる活動は親日感を醸成してきたといえることができる。

3) LJC利用者数

過去5年間におけるLJC利用者数の総数は、ビジネスコース約1,635人、日本語コース1,996人、相互理解事業参加者約34,000人、図書館及びセルフスタディールーム210,728人となっている。こうした利用者数は、ラオス国内において、どれほどLJCが親しまれており、LJCを通じた人材育成、サービスが高く評価されているかを反映した指標として捉えられる。フェーズ1と比べて、ビジネスコース及び日本語コースに減少が見られたものの、ニーズの変化に応じ提供するサービス内容を再検討している結果、すべての活動分野で活動の幅を広げており、これがコンスタントに受講生を集める秘訣となっていると考えられる。

第4章 評価結果

4-1 妥当性

以下に示す理由から、妥当性は確保されているといえることができる。

(1) ラオス政府の国家開発計画との整合性

「国家社会経済開発計画(2001年、2005年)」における主要目標として、①治安と政治の安定を図る、②持続的な経済成長を確保する、③2005年までに貧困を半減させる、④食糧安全保障を達成する、⑤新規雇用機会を創出し、焼畑耕作とケシ栽培を全廃する、⑥国民貯蓄率を向上させる、⑦国営・民間企業改革を推進する、⑧全分野における人材開発を促進する、⑨近代的産業開発の支援体制を確立するが掲げられている。

プロジェクト目標である「ラオスの市場経済化に対応する人材育成を推進するためのサービスがLJCによって提供される」は、上記のうち、②と⑧との整合性が高い。

さらに、近年のラオスの東南アジア諸国連合(Association of Southeast Asian Nations: ASEAN)地域経済への統合との関連では、同国は1997年にASEANに加盟、その後自由貿易圏(Asean Free Trade Area: AFTA)にも参加し、2015年にはASEAN統合が迫っている。これによりビジネス活動の一層の活発化が予測され、近隣諸国との競争力を有する高度なビジネス人材の育成が急務の課題となっている。市場経済の実務知識とノウハウを、企業関係者、中小企業経営者に習得させることを本プロジェクトで実施したことは、同国ビジネス人材育成のニーズとも合致するものである。つまり、LJCの中核的事業であるビジネスコース事業は、ラオスのニーズや国家政策と整合するものといえる。

(2) 我が国の対ラオス国の援助政策との整合性

我が国の対ラオス国別援助計画(平成18年9月)では、重点とする6分野として、①基礎教育の充実、②保健サービス改善、③農村地域開発及び持続的森林資源の活用、④社会経済インフラ整備、⑤民間セクター強化に向けた制度構築及び人材育成、⑥行政能力の向上及び制度構築市場経済化を挙げている。プロジェクト目標「ラオスの市場経済化に対応する人材育成を推進するためのサービスがLJCによって提供される」、上位目標「LJCがビジネス分野においてラオスの市場経済化に資する人材開発のための中核的な役割を果たす」は⑤民間セクター強化に直結するものであり、援助重点分野との関連性は高く、日本の援助政策に合致しているといえる。

2009年11月の日本・メコン地域首脳会議において発表された「東京宣言」においても、我が国はメコン地域をODAの重点地域と位置づけるとともに、同地域の発展のためにはハード及びソフト両面でのインフラ整備を進めつつ、官民の協力・連携の強化が重要であると謳っている。日本センターでの事業を通して、産業人材の育成と両国間の相互理解の促進を図るという本プロジェクトの2つの目標は、我が国とラオスを含むメコン地域諸国との外交政策の観点から整合性があるといえる。

(3) LJCが実施している活動とターゲットグループのニーズ

本プロジェクトの初期段階でニーズ調査を行い、実態を把握したうえで、ビジネスコースを

設計し実施していることから支援の方法やアプローチは適切であり、受益者のニーズに合致したものと見える。

なお、ビジネスコースにおいては、2007 年に入り、ラオス人講師が教えるビジネスコースの受講生の減少が見られたため、日本・ラオスの協議のもと、カリキュラム編成を見直し、受講生のニーズや国内・対外経済の動向に応じ、変化する企業関係者のニーズに対応させた内容へと改善された（2007 年の現場指導・企業診断導入、2008 年 MBA 導入など）。調査団が実施したアンケートでは、MBA、一般ビジネスコース受講生の約 88%が個人のニーズに合致しており、満足いくものであったと回答している。日本語コースについては、過去数年、ビエンチャン市内に、主に初級レベルの社会人を対象とする民間の日本語学校が数校活動しており、これら民間の学校よりも LJC の受講料は低廉に設定されているため、民業圧迫が懸念されたこともある。しかし民間の受講生は社会人が大半であり、LJC は学生の割合が拡大していることから（2007 年 70%→2009 年 80%）、民間の学校とターゲットグループの重複は見られず特段問題視はされていない。

4-2 有効性

(1) プロジェクト目標の達成見込み

本プロジェクトの目標は、「(1)ラオスの市場経済化に対応する人材育成を推進するためのサービスが LJC によって提供される、(2)相互理解を促進する活動に参加するための情報と機会が LJC によってラオス・日本両国の国民に提供される」である。

前述のとおり、プロジェクト計画策定時に、精緻な数値目標が設定されていなかった。そのため、厳密にプロジェクト目標や成果が達成されたかどうかを判断することは困難である。しかしながら、すでに「3-2」で記したように、「ビジネスコース」「日本語コース」「相互理解事業」の3つの事業の実施によって、LJC は人材育成の点で重要な役割を担っており、当初計画及びニーズ調査の結果に基づいたターゲットグループに対して、適切なサービスを提供してきていることが確認できた。

小規模経営者や企業幹部職員を対象としたビジネスコースについて、受講者の評価では一般コースで 76%、MBA コースで 78%が「非常に役に立った」と回答しており、有効性が高いといえる。さらにアンケート結果では、授業について一般コースで 63%、MBA コースで 88%が「満足している」としておおむね満足しているとの回答で、特に参加型による実践的な教授法は従来ラオスでは行われていないものとして、高く評価され、講義内容について大きく改善すべきとの指摘は聞かれなかった。また実際の業務に役立ったとの意見も多く、「就職の機会を得た」「会社の業績が向上した」「収入が向上した」との実際的な利益が見られたとの回答は、(見込みも含めると)一般コースで 79%、企業診断で 100%に達した。MBA コースで 46%であったが、アンケートの対象者は第一期生と第二期生であり、2010 年 3 月に第一期生が卒業することからすれば、高い数字である。LJC ビジネスコースは、日本的経営を含めた経営理論を教授するだけでなく、実際のビジネス活動に適用できるまで具体的なアドバイスを含め、助言・指導を提供したことが高い評価を得ているといえる。

フェーズ2で重点が置かれた中小企業を対象とし、2005 年 12 月から企業診断が導入された。これは中小製造企業の多くは、職人の技能、個人の勘による判断に頼った経営を行いがちで、

データやノウハウの蓄積がなされていないなどの共通した課題に対応したものである。調査団が行ったインタビューでも、会社として職人の技能向上には比較的積極的に取り組む一方で、儲けには疎く、事業計画の立案や次年度の受注予測を検討したことがないばかりか、マーケティング戦略や顧客開拓、販売ルートの開拓などの知識は講義で初めて知ったと答える企業が多かった。経営者の年齢が高いとなおさらその傾向は高く、過去の経験を検証し、理論に基づいて利益の追求を重ねたり、モノ作りを改善するといった市場経済の原理に基づく企業経営からは程遠い傾向が見られた。

これに対し、生産管理、品質管理の日本人専門家による中小製造企業に対する経営診断・現場指導では、知識をただ覚えさせ、反復させるのではなく、日本的な企業風土に基づいた社内のコミュニケーション活性化により、従業員の意欲を引き出したり、中堅管理職の役割を担うスタッフを指名し、他の従業員の指導を行わせ、知識・ノウハウのハンディを解消するような指導の方法を行っている。

開講してまだ日も浅く、現時点では顕著な変化は見られないが、受講者に対するアンケートでは、知識を実践に活用した結果、会社の業績などの変化や、個人昇進などの変化が見られたとの回答は 100%と高い評価を示している。これらは、ラオスにおいて、日本的経営に係る専門家の経験・知識を活用した実践的なビジネスコースの提供が、本プロジェクトの有効性を確保するうえで有効に働いているといえることができる。

4-3 効率性

(1) 日本側からの投入と成果

C/P 及び日本人専門家とのインタビューによれば、日本側からの投入はこれまでおおむね予定通り行われている。投入の規模、質、タイミングともに適切であるとされており、長期専門家、短期専門家ともにおおむね予定通り派遣されている。C/P 研修について、参加者からの評価は概して高く、実務に直接活用できる内容であり、業務効率化に寄与しているとの声が多く聞かれた。特に LJC スタッフは、本邦研修を通じて、日本式の運営方法を習得したり、日本を理解する良い機会ともなっており、全般的にセンター運営能力構築の面でも効率的かつ効果的であったといえる。

(2) ラオス側からの投入と成果

ラオス側からの投入については、R/D に約束されたとおりに行われており、教育省から配置される C/P の人数は 16 名と、教育省が大学に配置できる職員の人数を超えている。さらに、LJC はラオス側のコストシェア拡大を目指し、様々な収益事業を積極的に展開し、2005 年度のコストシェア率 23%から 2009 年 9 月の 63.8%に拡大している。

上記から、両者による適切な投入が行われ、プロジェクトの円滑な進捗をもたらしたといえることができる。

(3) 成果の達成見込み

上述のとおり、PDM に記載された 4 つの成果はほぼ達成されている。しかしながら、「3-2」のとおり、全職員に対して、英語研修、マーケティング研修、5S セミナーが実施されてきたが、概してマネジメント能力、戦略的な計画策定能力は十分とはいえず、引き続きスタッ

フの能力向上の取り組みが必要である。

4-4 インパクト

(1) 上位目標の達成見込み

- 1) LJC がビジネス分野においてラオスの市場経済化に資する人材開発のための中核的な役割を果たす。
- 2) LJC がラオス・日本両国の人々の間に相互理解を促進する拠点として活用される。

過去 10 年にわたり、LJC は 3,300 人以上の実業家を育成してきている。また日本語教育や相互理解事業は受講生・参加者からの満足度も高く、これらの活動を通じ、両国間の相互理解に貢献してきたことから、上位目標の達成に一定程度寄与してきたといえる。

他方、上位目標に係る数値目標が設定されていないため、どの程度のインパクトがもたらされたか定量的な視点から測定し、評価することが不可能である。しかしながら、上位目標達成に向け、活動を継続的に行い、拡充していく能力があるかどうかといった視点で判断すると、その鍵となるセンター運営全般に係る能力強化はいまだ不十分であることがいえる。

4-5 自立発展性

(1) 財務的な自立発展性

LJC は、ラオス側のオーナーシップの下、FEBM との協同による MBA プログラムの導入をはじめとする事業収入を拡大させるための努力を積極的に行ってきた。フェーズ2 開始時点で 59.6%のセンター運営管理予算が JICA により負担されていたが、2009 年 9 月には 23%にまで縮小することとなり、これは LJC の大きな成果ともいえ、概して日本センタープロジェクトの主要課題ともいえる財務的な自立発展性について、LJC は一定程度クリアできているといえる。

(2) 組織面での自立発展性

これまで 16 名の C/P がプロジェクトに配置されてきており、うち所長 1 名、副所長 2 名と、部門ごとに管理職が配置されており、ラオス側で意思決定を行える体制が整っている。また、スタッフの離職率も高くないため、現在配置されている人員により、日常業務全般は定型業務であれば、遂行するうえで特段の問題は見られない。これまで C/P 研修や現地業務費で行われているスタッフ研修、OJT により技術移転が行われ、徐々に能力向上は見られつつある。

しかしながら、全部門において共通する課題として戦略的な計画立案能力不足が指摘され、また部門ごとでも運営能力に開きが見られる。ビジネス部門は比較的能力が高く、戦略的な企画立案能力の向上が望まれるものの、自立した運営上に特段問題はない。相互理解・広報部門スタッフは、日本の大学の学術機関との連携事業では、高度な日本語による折衝能力が必要とされ、日本人専門家の支援がなければ行えない状況である。

(3) 技術的自立発展性

ある程度の技術的な自立発展性は確保されている。ビジネスコースでは 84%の講座を FEBM 講師が担当するなど安定した講師の確保が可能となっている。これら講師は LJC で教

授する経験を通じ、教授技術・経験ともに蓄積してきており、LJC の部門内で技術的な自立発展性が最も高い。他方で、受講生からの評価を集める「実践的なノウハウ・知識」を提供できるかどうかについては、FEBM 講師は実務経験に乏しいことから現時点で難しい状況である。

日本語コースは、基礎コースであればラオス人講師により独立して教授が可能なレベルとなっている。しかし、日本人講師の支援なしでは、中級以上のクラスやカリキュラム・シラバス策定や改訂等を行うことは難しく、ラオス人講師の一層の能力向上が必要といえる。相互理解部門は、折り紙教室やフルーツカービング等、これまで定期的開催されてきたイベントを実施する能力は身につけている。

4-6 プロジェクトの貢献要因

(1) ラオス側の確固たるオーナーシップ

LJC は NUOL-FEBM 支援プロジェクトと同一の技術協力プロジェクトとして開始された経緯があり、設立当初から他センターと比して、ラオス側のオーナーシップは強い傾向が見られた。上述のとおりラオス側 C/P の充実した配置、事業予算のコストシェアの割合拡大によって、センター運営技術やノウハウの共有が図られており、プロジェクトの円滑で効率的な運営を支えている。

(2) 外部関連機関との連携強化

フェーズ2ではフェーズ1よりも一層の活動領域拡大が見られたが、そのうち外部関連機関との連携により実現したものも多く、効果の発現、自立発展性に寄与したものといえる。ビジネスコースは NUOL-FEBM の教員をビジネスコースの現地講師として活用し、講義時間全体の84%、講師の人数の85.7%を現地講師が行っている。過去10年間で現地講師が知識・経験を積み重ねる機会を提供しているに至っており、質の高い現地講師の安定的確保を容易にさせているほか、技術面での自立発展性に貢献している。

日本語コースでは、NUOL 文学部との相互補完関係のもと、日本語コース運営のノウハウ、技術を共有するなど、両者がともにラオス国内の日本語教育の中心的な役割を果たしてきている。相互理解部門では、本田財団からの委託業務である YES 奨励賞の奨学金候補者の選考、現地日系企業からの依頼を受けた就職フェアや、企業現地職員の日本語コースの開催、日系企業による日本語コース優秀者へのスカラシップ提供など、官民連携の好例ともいえる活動が多数展開されている。

4-7 効果発現を阻害した要因

(1) コミュニケーション力

部門ごと、また部門間の定期会合が開催され、コミュニケーションの機会は適切に与えられているといえるが、英語によるコミュニケーション力不足を指摘する声が多く、これら課題に対応して、研修も実施されているものの、今後も一層の努力が必要である。

(2) ローカル講師の教授内容

ビジネスコースのローカル講師率の高さは、プロジェクト目標の達成度、自立発展性確保への貢献度の高さと判断できるが、一部受講生からローカル講師は実務経験がなく、理論に偏っ

ているとの指摘もあり、実務経験を豊富に有する日本人専門家などの協力を通じた教授法、講義内容の改善が求められる。

(3) 部門間の連携

一部スタッフからは、事業運営に際し、他部門からの協力を得られないことへの不満を持つ者もいる。より高い効果発現のため、部門間の連携を促進していくことが求められる。

4-8 結論

フェーズ1と比較して事業が拡大し、全部門において成果が達成されつつある。プロジェクト目標は達成されたといえる。LJCプロジェクトの大きな強み及び成果は、一貫してラオス側のオーナーシップが高く、財務的・組織的・技術的發展性が確保されつつあるということである。

他方、プロジェクトの進展を阻害する要因も存在しており、プロジェクトのマネジメント体制、組織的自立発展性に関わるものとして、センター運営全般の能力の向上が望まれ、特に自立して戦略的に運営していく能力を身につけていくことが期待される。

第5章 提言と教訓

5-1 提言

プロジェクト終了まで、及びプロジェクト終了後に向けて、調査団はプロジェクトに対して以下の提言を行った。

(1) 「インスティテュート」化に向けたセンター運営体制の更なる強化

2010年5月までに学部と同等の「インスティテュート」に格上げされる予定であるが、インスティテュートに相応しい高度な人材育成を行うため、センターに配置する公務員を増員することが不可欠である。可能な限り早急に、10名の増員を行うとともに、現在LJCに勤務する人員を優先的に公務員として雇用するよう配慮していくことが重要である。特に、早急に取り組むべき課題は、部門間の連携事業を調整する総務部門の機能強化であり、上記10名の増員のうち、総務部門に数名割り当てる必要がある。

またコストシェアは現在までに63.8%に達しているが、現行のシェア率を維持、拡大していく必要がある。

(2) ビジネスコース

2015年に迫るASEAN統合に資する人材の育成を「インスティテュート」の主要な活動目的の一つとして位置づけ、ビジネスコース部門は新しいカリキュラム作成のための戦略策定を行う必要がある。また「インスティテュート」においては、日本人専門家同等に、ラオス人講師も実務的なビジネスのノウハウ・知識を教える技術を身につける必要がある。

なお2009年11月の第一回日本・メコン地域諸国首脳会議東京宣言を踏まえて採択された「日メコン行動計画63」で掲げられている「ハード及びソフト面のインフラ整備」の具体的措置の一つである「日本センターを活用したメコン地域における起業家育成のための共通研修プログラム」の機会を活用するのも一案と思われる。

(3) 日本語コース

フェーズ2終了後の国際交流基金専門家の派遣が終了することを視野に入れ、コース編成を検討する必要がある。またラオス人現地講師は、プロジェクト終了に向け、自立的にカリキュラムの計画立案等を行う能力を身につける必要がある。

具体的にはラオス人現地講師の日本語能力及び日本語教授能力を継続して向上させることが重要である。そのために国際交流基金の日本語教師育成プログラムや、タイにおける研修機会を積極的に活用することを推奨する。またラオス人日本語講師を対象としたセミナー等の場で、NUOL 文学部日本語講座に派遣されている国際交流基金専門家による指導を受けることも考えられる。

(4) 相互理解事業

相互理解事業は、より「付加価値の高い」事業へのシフトを継続する。付加価値の高い事業とは、①各部門のステークホルダー（企業、商工会議所、NGO等）との関係強化に資するもの、②実施コストをカバーするだけの収入が得られるものである。またこのような事業を実施

することができるよう、ラオス人スタッフの能力強化を図る必要がある。

5-2 教訓

LJC プロジェクトは、NUOL-FEBM 支援と同一のプロジェクトとして開始された経緯があることから、NUOL 側の強いオーナーシップのもと、十分な人数の公務員の配置やラオス人講師による講義が可能とされてきた。さらにフェーズ2では FEBM との合同 MBA プログラムの成功とそれに伴う収入の向上により、センター収支の大幅な改善を実現している。このように、他の日本センターにおいても、LJC 同様先方のオーナーシップ確保と現地のニーズに基づいた柔軟性のある事業実施が重要である。

5-3 今後の対応

ラオス政府は、2009年7月29日に本プロジェクトの後継案件として、2010年9月から4年間の「ラオス日本センター・ビジネス人材育成プロジェクト」を要請しており、本調査団は今後同プロジェクトの必要性について確認し、同要請について日本側関係機関と積極的に検討することを約束した。

第6章 団長所感

(1) 他の日本センターのモデルともなり得る成功事例

現在8カ国で活動を行っている各日本センタープロジェクトに共通する課題は、いかにして受入国側のオーナーシップを高め、いかにしてそれを裏づけるスタッフの配置や予算の配備などの先方からのコミットメントを確保するかという点にある。もとより、日本センターは受入国と我が国との「共有財産 (Common Asset)」と象徴的にいわれるが、各日本センターの基本的運営は受入国側が自らのオーナーシップをもって担わなければならないのは、他の技術協力プロジェクトと変わるところはない。LJC プロジェクトは、2000年から10年間に及ぶ我が国との協力を通じてラオス側のオーナーシップ及び具体的コミットメントを最も強く引き出すことができたという点で、他の日本センタープロジェクトのモデルともなり得る成功事例の一つといえるだろう。

このラオス側の強いオーナーシップとコミットメントを引き出すことができた最大の要因は、ビジネスコースを土台としたMBAを開設したことで、C/P機関であるNUOLがプロジェクトを自らの本来事業として明確に位置づけたことにあるといえる。その証左が、2010年上期にも予定されているLJCのインスティテュート化である。NUOLにはLJCの他にも多数の「センター」が存在するが、これらはいずれもドナーの援助の受け皿ということができ、それ故にラオス側のコミットメントは限定的である。例えば、国家公務員であるNUOLスタッフは各「センター」に10名までしか配置できないという制約があるうえ、実態として10名のNUOLスタッフがきちんと配置されている「センター」は決して多くない。その一方でインスティテュートは、大学内においては学部には匹敵する位置づけが与えられ、国家公務員であるNUOLスタッフも25名まで配置できる。実はLJCには、「センター」に与えられる10名の枠を超えてすでに15名のNUOLスタッフが配置されているが、インスティテュート化することによりさらに10名のNUOLスタッフが配置されることになる。あわせて、インスティテュート化することによって所長のステータスが現状以上に高まり、副所長ポストも現在の2つから3つに増えることとなる。インスティテュート化は、結果として、LJCで実施しているMBA及びビジネスコースの更なるレベル向上に結びつく大きなモーメンタムになることは間違いがないといえるだろう。

10年にわたるフェーズ1及びフェーズ2の協力の結果、LJCはラオスにおけるビジネス人材育成機関のパイオニアとしての基盤を築き、ラオスの市場経済化を牽引する実践的な人材の育成に貢献した。また、人材育成にあたっては、日本的経営の経験を活かし、中小企業の「現場」の活性化に焦点を当てたことで、結果としてラオス企業の現状に即したビジネス・ノウハウの移転に貢献した。さらに、日本的経営及び日本語等を紹介することによって、日本・ラオス両国の相互理解を促進する拠点としての地位を確立することもできた。すなわち、LJCプロジェクトが日本センター事業の中の一プロジェクトとして目指した成果は、この10年の協力によってほぼ100%近く達成することができたといえることができる。それに加えて、LJCプロジェクトにおいては上述したようにラオス側の強いオーナーシップとコミットメントが発揮されていることから、フェーズ1及びフェーズ2の10年に及んだLJCプロジェクトは、2010年8月末の協力期間終了をもって成功裏に終わることができると判断する。

(2) 新しい協力の可能性

インスティテュート化された後も、LJC（インスティテュート化後は「Laos-Japan Human Resource Development Institute (LJI)」と称される予定である）は、日本・ラオス両国の共有財産であり続けることは間違いない。特に 2015 年を目標年とする ASEAN 経済統合、2020 年を目標年とする後発発展途上国（Least Developed Country : LDC）からの脱却に向け、ラオスでは競争力をもつ民間企業家の育成が喫緊の課題となっており、ラオスにおけるビジネス人材育成のパイオニアである LJC が育成する人材層が、今後は具体的なビジネスの現場において企業活動を活性化させていくことが期待されている。そうした課題に対して、LJC には、実践的ビジネス人材の育成のみならず、市場経済化や ASEAN 経済統合に適合し得るビジネス・ノウハウや、市場経済化や ASEAN 経済統合に向けた政策提言等の発信拠点、もしくは官・民・学のビジネス人材ネットワークのハブとしての役割を担い、貢献していきことができるだけの潜在力がある。その意味から、これから設立される LJI の更なる組織・体制の強化と、ビジネスの現場を活性化させる上述のようなネットワークのハブとしての機能強化を引き続き推進していく意義は非常に大きい。こうした機能強化についてはラオス側からも大きな期待が寄せられており、現行プロジェクトの後継としての案件要請がラオス政府側から我が国政府に対してすでに発出されている。そうしたラオス側の期待に応えるためにも、我が国からの新しい協力は前向きに検討されてもよいだろう。それはすなわち LJC プロジェクトが築きあげてきたビジネスコース及び MBA をさらに強化・発展させていく方策でもある。

他方、LJC における日本語コースは、国際交流基金の専門家派遣が終了することをもって一つの区切りが付けられることとなる。JICA としてはシニア海外ボランティアの派遣を計画しているものの、少なくとも初級コースの実施及び運営については、基本的にはラオス側だけで担っていくことができる技術移転は実施された。さらに、国際交流基金は NUOL の文学部日本語学科への専門家派遣を当面継続するとされていることから、LJC 日本語コースと文学部日本語学科との有機的連携を模索することによって、双方の強みを活かした持続性のある実施体制を構築することができるものと期待できる。当面は、毎年 12 月に実施される日本語能力検定試験の実施について、日本語コースと日本語学科がいかに有機的に連携することができるかを模索するなかで、両者の関係を深めていくことになると思われる。こうした連携を含めて、LJC 日本語コースの運営のあり方を検討するために、NUOL 側の更なるオーナーシップとコミットメントを今後とも申し入れていく必要があるだろう。

交流事業は、近年、日本の団体等から受託する事業を実施することで、わずかながらの収益で少なくとも経費を帳消しにすることができるなど、LJC の独自収入の向上に寄与できるようになりつつある。また、ラオスの高等教育機関のトップとしての NUOL が、我が国との交流を広げることの意義は大きく、留学生の交換を含めた大学間交流が従来以上に進んでいくことが望まれる。LJC の交流事業が、こうした財務面の改善や大学間交流に貢献できるよう、例えば我が国の JDS 事業との連携などを一層強化していくことが重要である。さらに、2009 年 11 月に設立されたビエンチャン日本人商工会議所をはじめとする日本の企業関係者とのネットワークづくりを検討することで、LJC のビジネスコース及び MBA をさらに厚みのあるものにすることができる。LJC の交流事業は、こうした実践的なネットワークのハブとして LJC を機能させるための活動としても、検討していく必要があるのではないだろうか。

(3) 日本センターとしての LJC に対する今後の我が国の関わり

LJC が LJI になるということは、従来の LJC が名実ともに NUOL の所有する機関もしくは財産になることを意味する。それ故、このインスティテュート化は、LJC に対するラオス側の強いオーナーシップとコミットメントの表れとして高く評価できるのである。しかしながら、インスティテュート化後も引き続き「Lao-Japan」の名称を冠する日本・ラオスの共有財産 (Common Asset) であり続ける以上、JICA を含めた我が国からの協力が途絶えることは想定できない。同時に、JICA としては 10 年に及ぶ LJC への協力の結果として LJC プロジェクトを成功裏に終了することができることから、現行プロジェクト終了後は、LJC そのものもしくは LJC 全体に対する協力を続けるのではなく、自立した LJC の全体活動の中の一部に対する支援へと協力の内容を見直しつつ、新しい案件の形成を図ることになる。その点を JICA の視点から考察すれば上記 (2) に述べたとおりとなるが、我が国としてどのように LJC を支援していくのかを、今後の展開の中では検討していく必要があるだろう。すなわち、JICA 以外にも我が国の協力リソースを探し出し、そうしたリソースと LJC が有機的に結びつくことによって、LJC が、ODA によるつながりだけに限定されない、幅の広い、多様な日本・ラオスの交流拠点としての確固たる地位を築くことができると考えるものである。

幸い、LJC の所有者である NUOL はラオス随一の高等教育機関であり、NUOL 自体も日本を含む世界各国の教育機関等と様々な協力関係を構築している。それに加えて、LJC は今やラオス随一のビジネス人材育成拠点にもなっていることから、ODA の枠に囚われない官・民・学の幅広い日本・ラオス間のつながりを、LJC をハブとしてネットワーク化できるものと期待する。日本・ラオス両国の共有財産 (Common Asset) は、我が国からの多様な協力関係の構築を通じて、維持・強化されていく必要があると考えるものである。

付 属 資 料

1. 評価結果要約表（英文）
2. Minutes of Meeting
3. 第1次調査結果報告書
4. ラオス日本人材開発センター 日本語教育事業（フェーズ2）最終報告
5. PDM
6. 新聞記事（ビエンチャンタイムス 2010年2月12日）

1. 評価結果要約表（英文）

Summary of Evaluation Report

1. Outline of the project	
Target country: Lao P. D. R.	Name of the project: Laos-Japan Human Resource Cooperation Center Project (Phase 2)
Area: Other	Scheme: Technical cooperation
Division in charge: Japan Center Program Division, Public Policy Department	Cooperation amount: ¥773,155,000 (at the time of evaluation)
Duration of cooperation: (R/D) 2005/09/01~2010/08/31 (EN) (Grant aid) January 12, 2000	Counterpart organizations: Ministry of Education, National University of Laos
	Japan's cooperation organization: Japan Foundation
<p>1-1 Background and overview of the project</p> <p>Since 1986, it has been a matter of overriding concern for Lao P. D. R. to carry out economic reforms for the transition to a market economy and develop human resources to address the issue. In 1995, as part of developing capable human resources, the National University of Laos was founded, with which the Faculty of Economic and Business Management (hereinafter referred to as FEBM) began to develop qualified human resources with the support of the Asia Development Bank. The project was brought to an end in September 2001. The Lao government requested technical cooperation from the Japanese government.</p> <p>Japan formulated a plan to construct the Lao-Japan Human Resource Cooperation Center as part of assistance for the development of human resources to meet the needs of a country in a transitional process to a market economy. In July 1998 the master plan was proposed to the Lao government. Both governments agreed that Japan would provide its assistance as a technical cooperation project including support for the Faculty of Economic and Business Management of the National University of Laos and the establishment of the Lao-Japan Human Resource Cooperation Center.</p> <p>In July 2000 the governments of both countries signed R/D, and the five-year technical cooperation project was undertaken in September 2000. Initially, assistance for the Lao-Japan Human Resource Cooperation Center (hereinafter referred to as LJC) and support for the FEBM were combined into one technical cooperation project. However, the activities in each category got growingly vitalized and expanded, and it was decided that the project would be implemented as two individual projects after 2004 which was the last year of the project. Upon the completion of the project, the National University of Laos, the project's counterpart, highly appraised the cooperation under the LJC Project and requested to continue the JICA's assistance. Hence, the Lao-Japan Human Resource Cooperation Center Project (Phase 2) has been implemented as another 5-year project since September 2005.</p>	

1-2 Content of the cooperation

(1) Goals

- a. LJC will perform the core function of human resource development in the area of business area for market-oriented economic reform of Lao P. D. R.
- b. LJC will be utilized as the key place for mutual understanding between the people in Lao P. D. R. and Japan.

(2) Project objectives

- a. LJC will provide service to enhance human resource development for the market-oriented economic reform of Lao P. D. R.
- b. The information and opportunities to participate in activities for mutual understanding are provided for people of both countries by the Center.

(3) Outputs

- a. LJC's project implementation system will be improved.
- b. LJC will offer practical business courses and business services (factory analysis, development of entrepreneurs (incubation function) and business matching) for the private sector.
- c. LJC will become the core organization of the Japanese language education in Lao P. D. R. (to promote networking of resources).
- d. The system for providing mutual understanding programs will be established, thereby vitalizing activities.

(4) Inputs (at the time of evaluation)

- a. Japan side
Long-term experts – 4 persons (10 in aggregate); Short-term experts – 41 persons:
Training in Japan – 27 persons: Training in a third-country – 5 persons (Thailand):
Provision of equipment – 15 million yen: Expenditure for strengthening overseas projects – 108 million yen
- b. Lao side
Assignment of counterparts – 16 persons: Staff employed by LJC – 26 persons: Provision of land and facilities (LJC site and parking lot): Operating costs (utilities, communication expenses, and base pays for Lao staff)

2. Outline of the evaluation team

Leader: Senya Mori, Deputy Director General, Public Policy Department, JICA

Evaluation and Analysis: Tomoko Matsushita, Chief, Human Environment Department, INGEROSEC Corporation

Evaluation Planning: Rumiko Nomura, Assistant Director, Japan Center Program Division, Public Policy Department, JICA

Japanese Course Evaluation: Mamoru IKUTA, The Japanese-Language Institute, Japan

Foundation Japanese Course Evaluation: Yuri TAKEDA, SAKURA Network Team, Japan Foundation	
Duration of the study: Jan. 27 ~ Feb. 11, 2010	Type of study: Evaluation at the end of the project
3. Overview of evaluation	
3-1 Confirmation of performance	
(1) Confirmation of inputs	
<p>The number of C/P's (meaning Lao staff working at LJC as civil servants; "staff" meaning staff members separately employed by LJC; "LJC staff" indicating the staff of both categories) was increased to 16 persons as of the time of this evaluation. As such, the Lao side has been carrying out its responsibilities in its inputs into this project properly under its strong ownership and commitment. The Japan side also has been injecting its inputs as planned.</p> <p>As indicated by the abovementioned typical example, it is judged that the civil servants in charge of both sides have been contributing to smooth progress of the Project.</p>	
(2) Confirmation of a degree of achieving the outputs	
(a) Management of LJC	
<p>The project has been facilitated and managed through formulating an annual plan and holding Joint Coordination Committees. In June 2007 the Human Resource Development Plan was prepared. Thus, in 2007 it was decided at the level of management to appraise the ability of each staff member and to set the target to achieve. Based on the plan, LJC began to formulate training programs for the LJC staff and rate performance. However, the above plan has not been used to develop capacity. Instead, an alternative performance rating system prepared by the Lao side has been used.</p> <p>So far, LJC dispatched 27 staff members for training in Japan and five Lao Japanese language teachers for the Japanese language teacher's training course held by the Japan Foundation. Besides, Japanese language lessons are offered to all the LJC staff by using the JICA's overseas project strengthening expenses. LJC's social welfare fund covers a part of the tuition fees for one C/P to get a master's degree in a graduate school. As for the financial affairs of LJC, its business revenues have been satisfactorily increasing. Thus, it is confirmed that LJC's management system has been gradually improving from the perspective of financial sustainability. Nonetheless, it will be required to improve the efficiency of LJC management further, which will become critical for institutionalizing LJC in the future. Another important issue is to upgrade the coordination function, particularly the administrative section, to strengthen inter-sectional collaboration.</p>	

(b) Management of the business course

In the past 58 courses were offered in total. In 2008 LJC introduced MBA courses and enterprise management consulting courses, thereby meeting broader needs in comparison to Phase 1. The number of participants in the courses is approximately 1,400 persons in aggregate. The participants report a high degree of satisfaction with the courses. That is, the survey carried out by the Evaluation Team indicates that the satisfaction rate is 88% in the MBA courses, 84% in the regular business courses and 100% in the enterprise management consulting courses (on-site guidance and consultation courses). A large percent, 85% on the average, of the participants in MBA and regular business courses responded that they actually utilized the knowledge learned in the courses. The result confirms that the lectures with emphasis on practical aspects are connected with this high evaluation. As an additional effect of the training courses, roughly 80% of them answered that they were (will be) able to achieve better business performance, increase in income and increased the number of employees, etc.

In 2008 the number limits of some business courses were not met. However, LJC's business revenues were stable due to the introduction of the MBA courses, and its financial sustainability is high as well.

84% of the total lecture hours of business courses are comprised of the lectures taught by the local lecturers. That is, LJC's technical sustainability is high except for the lectures that are characterized by Japan's particular features such as the Japanese way of management. Although LJC has been successfully on its way to establishing a stable management system, it is expected to upgrade its capacity further towards its institutionalization.

(c) Management of Japanese language courses

At present the courses are offered at nine levels, thereby satisfying diversified needs among participants. A degree of satisfaction is high on the average among them. So far, 1,996 persons took the courses, that is, a slightly fewer than 2,600 persons at the end of Phase 1. Five Lao teachers in total participated in the training course held by the Japan Foundation.

Elementary courses are taught by Lao teachers with no particular problems. They are also able to take nearly full responsibilities for course management. On the other hand, it is difficult for them to manage independently the courses of intermediate and advanced levels owing to a paucity of the Japanese language capacity and teaching capacity. New teachers have been trained chiefly by the experts in Japanese language teaching dispatched by the Japan Foundation. However, it is difficult for local teachers to give training to teachers without support due to their inadequate technical expertise. It will be necessary to promote technical transfer through, for instance, study meetings for Japanese language teachers.

Through the past activities, networks have been built within Lao P. D. R. and also for overseas countries. Towards setting up a Japanese language teachers association, meetings have

been held, although irregularly, for persons who are involved in Japanese language education. As of the time of this evaluation, it can be evaluated that LJC already functions as the key organization of Japanese language education in Lao P. D. R. based on the following two facts: first, LJC is the executing agency of Japanese proficiency testing, and second, almost all Japanese language teaching organizations in Lao P. D. R. use the teaching materials in Lao prepared by LJC.

(d) Mutual understanding promotion project

In the past approximately 600 events and projects were conducted, in which more than 4,700 persons participated. LJC constantly hosts various types of events on Japanese culture and Lao culture, from small-scale events which are held nearly every week to large-scale events. Besides, LJC organizes higher level mutual exchange projects in collaboration with external organizations such as university student exchange projects between Lao P. D. R. and Japan, orientation and screening for scholarships, “the study-in-Japan fair,” and “the job-fair by local Japanese companies,” thereby providing good examples of public-private partnership. On the management aspect, LJC staff is able to organize cultural events with little support. On the other hand, there are no local persons who are able to negotiate with relevant organizations in Japan.

LJC sends out its information to citizens nationwide as its public relations project. For instance, it has been using a radio program since September 2007 to inform about LJC’s activities and events once a week and also puts announcements on newspapers two or three times a month on the average. It is recommended to upgrade further the quality of the homepage that can transmit messages very quickly. As regards the newsletter that is sent to each ministry/agency once in three months, a more strategic approach will be necessary in the way to respond to the feedback from its readers. The number of the library users is about 100 persons per day on the average. In the past five years, approximately 138 thousand users were registered. The questionnaire survey indicates that a substantial majority of the users are students, most of whom use it almost every day. This indicates a high degree of satisfaction.

3-2 Summary of the evaluation result

(1) Relevance

The Project’s goals and objectives are relevant particularly with the two aims of those listed in the National Socioeconomic Development Plan of Lao P. D. R., that is, “to ensure sustainable economic growth” and “to promote human resource development in all areas” and also with the Japan’s Assistance Policy. It was observed that there was much need for the activities carried out by LJC, thereby judging that the scale of the target was also appropriate.

The survey findings indicate that 20% of the respondents replied that their motivation to

participate in the business course, together with MBA and general business courses, was the “wish to learn the Japanese way of management and vitalize their own business.” In fact, some respondents affirm that they utilize the knowledge learned, thereby producing a good effect. Based on these findings, it is judged that the relevance of this Project is high.

(2) Effectiveness

In Phase 2, the activities of each section became increasingly diversified to fulfill the needs of each target group. Both the rate of drawing customers and the rate of return increased primarily in the business courses. The cost sharing by the Lao side in the project budget has reached 63% which exceeds the target line of 50% set for the time of completion of Phase 2. Similarly, the Lao side has already assigned 16 C/Ps to an acceptable level. Hence, it can be predicted that in all likelihood the objective “LJC will provide services that will help enhance the development of human resources to address the issue of transition to a market economy in Lao P. D. R.” will be achieved.

As regards the objective “LJC will provide information and opportunities both to Lao people and to Japanese people for their participation in the activities to enhance mutual understanding,” it is assumed from the performance of the past activities that it has been nearly achieved.

Nonetheless, it will be a critical issue to develop LJC’s staff members because currently there are no persons capable of designing and managing LJC’s general affairs including the above two objectives strategically.

(3) Efficiency

Inputs from Lao P. D. R. and Japan have been carried out as planned, and the expected outputs have been produced satisfactorily. Likewise, the project has been implemented without any particular problems. Thus, the efficiency of this Project is evaluated to be secured.

(4) Impact

As regards the probability of achieving the goal, it is judged that a part of the goal has been achieved by now because LJC already functions as the core organization of human resource development in Lao P. D. R., primarily with business courses and Japanese language courses. However, in order for LJC to grow into an organization fully equipped with the functions of the core organization, strategic planning and efficient management are essential. If projects are managed with this issue in mind, the probability of fully achieving the goal will be higher.

(5) Sustainability

In general, the financial position of LJC is good, and the assignment of C/Ps is

satisfactory. It can be judged, therefore, that its sustainable growth has been ensured. The business courses have shown high sustainability both from the financial aspect and from the institutional management aspect. Mutual understanding promotion projects have produced profits through university exchanges and study-in-Japan fairs. An issue in the future will be to develop staff members capable of planning strategically. It is urgently required to allocate personnel properly to LJC's management in general and secure highly qualified employees.

3-3 Contributing factors to the progress

(1) Strong ownership by the Lao side

The LJC Project was started as the identical technical cooperation project with the FEBM support project of the National University of Laos. For that reason, the ownership of the Lao side was strong from the beginning. Its strong ownership has been clearly shown in the full assignment of Lao C/Ps as stated above and in increases in the cost-sharing rate of the project budget.

(2) Fostering the linkages with the external organizations

In Phase 2, the domain of activities has been expanded further than Phase 1. Much of it has been realized through collaboration with relevant external organizations such as FEBM of the National University of Laos, the Japanese Language Study in the Faculty of Literature, Japanese corporations, and Japanese financial groups.

3-4 Hindering factors in the Project

(1) Communication ability

Meetings of each section and inter-sectional meetings are held regularly, thereby providing sufficient opportunities to maintain good communication. There is a lack of ability to communicate in English.

(2) Content of classes conducted by Lao teachers

Some students point out that Lao teachers lack practical experiences and their classes are biased towards theories. It is required to improve the method of teaching and the content of lectures.

(3) Intersectional collaboration

It is necessary to enhance inter-sectional collaboration to produce higher effects.

3-5 Conclusion

In comparison to Phase 1, the project has been expanded, thereby achieving greater

effects in all sections. It can be concluded that the project objectives have been attained. The greatest strength of the LJC Project lies in securing the solid ownership of the Lao side and producing an inter-sectional synergistic effect through the project management by the Japan side with explicit emphasis on Japanese features (Japanese way of management, Japanese language and Japanese culture), thereby contributing greatly to the development of pro-Japanese Lao people.

3-6 Recommendation

(1) Strengthen further the LJC management system towards institutionalization

- (a) It is essential to increase the number of civil servants who are assigned to LJC in order to develop more qualified personnel who will fulfill the functions of an “institute.” It is necessary to increase the number by 10 persons. To do so, it is recommended to give considerations for preferentially hiring as civil servants its staff members who currently work at LJC as quickly as possible.
- (b) In particular, the issue to be addressed urgently is to strengthen the function of the administrative section that coordinates intersectional collaborative projects. It is recommended that several of the additional ten civil servants be assigned to the administrative section.
- (c) The cost sharing by the Lao side has reached 63.8% as of now, but it will be necessary to maintain or raise the present cost-sharing rate.

(2) Business course division

- (a) One of the goals of the new Institute is to develop the human resources that can deal with the ASEAN integration in upcoming 2015. It is important for the business course division to make a strategy for the new curriculum to fulfill the goal.
- (b) In the “institute” Lao teachers needs to acquire technical expertise to teach know-how and knowledge of practical business as well as Japanese experts.
- (c) One idea may be to utilize the opportunity created by the “the joint training programs for fostering of entrepreneurs in the Mekong region countries”, which is one of specific measures under “Further Development of Both Soft and Hard Infrastructure” included in the Mekong-Japan Action Plan 63 adopted based on the Tokyo Declaration in the First Meeting between the Heads of the Japan and Mekong Region Countries held in November 2009.

(3) Japanese language course division

- (a) In light of demand for Japanese language education in the future, it is needed to review the makeup of its courses. Considering the fact that the dispatch of experts by the Japan Foundation will be brought to an end after the completion of Phase 2, what is required is that

Lao teachers acquire the abilities to design curricula independently.

- (b) The Lao staff and lecturers need to continue improving their Japanese skills and teaching skills. It will be effective for the Lao lecturers to participate in the Japan Foundation's training program either in Japan or in Thailand. At the same time, one effective way may be that they receive guidance at seminars taught by the expert who will be dispatched by the Japan Foundation for the Japanese language class of the Japanese Language Study in the Faculty of Literature at the National University of Laos.

(4) Mutual Understanding Activities Division

Further shift to the activities with the "added value" is necessary. The activities with the "added value" may have characteristics such as; 1) May have a positive impacts in networking with the stakeholders of other divisions at LJC (ex. companies, business associations, NGO, etc); and 2) May improve the abilities to carry out activities with "added values".

- (a) The Lao staff should enhance their capacity to be able to conduct the activities with the "added value"

3-7 Lessons learned

The LJC Project was implemented from the initial stage as the same project as the support project for the FEBM at the National University of Laos. Since the outset, under the ownership of the Lao side, an adequate number of civil servants have been assigned to the Project. Furthermore, since the start of Phase 2, profitable projects have been introduced, thereby increasing the cost sharing ratio of the Lao side. This case gives a good lesson, which can be used to work upon local people involved in similar projects as the LJC Project in order to raise awareness of the necessity of ensuring strong ownership and sustainability.

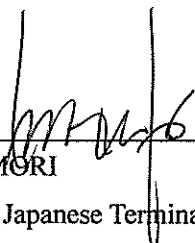
2. Minutes of Meeting

MINUTES OF MEETING
BETWEEN
THE JAPANESE TERMINAL EVALUATION TEAM
AND
THE AUTHORITIES CONCERNED OF
THE GOVERNMENT OF LAO PEOPLE'S DEMOCRATIC REPUBLIC
ON
JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR
THE PROJECT OF LAO- JAPAN HUMAN RESOURCE COOPERATION CENTER
(PHASE 2)

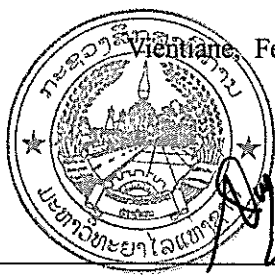
The Japanese Terminal Evaluation Team (hereinafter referred to as "the Team"), organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") headed by Mr. Senya MORI, visited the Lao People's Democratic Republic (hereinafter referred to as "Lao P.D.R.") from January 27 to February 10, 2010, for the purpose of conducting the terminal evaluation concerning Japanese Technical Cooperation on the project of the Lao-Japan Human Resource Cooperation Center Project (Phase 2) (hereinafter referred to as "the Project").

During the Team's stay in Lao P.D.R., the Team and the Lao authorities concerned (hereinafter referred to as "the Laos side") had a series of discussions and exchanged views on the achievement of the Project in fulfilling the Record of Discussions signed on August 30, 2005.

As a result of the discussions, both sides agreed upon the matters referred to in the documents attached hereto.



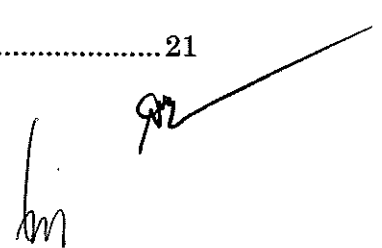
Mr. Senya MORI
Leader, The Japanese Terminal Evaluation Team
Japan International Cooperation Agency,
Japan


Vientiane, February 10, 2010

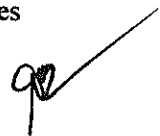
Assoc. Prof. Dr. Saykhong SAYNASINE
Vice President,
National University of Laos

TABLE OF CONTENTS

1. THE BACKGROUND AND THE SUMMARY OF THE PROJECT	4
1-1. The background of the Project (Phase 1 & 2)	4
1-2. The chronology of the Project (Phase 1 & 2).....	4
2. OULTINE OF THE TERMINAL EVALUATION	6
2-1. Purposes	6
2-2. Evaluation Criteria	6
2-3. Methodology	6
2-4. Members of the Evaluation Team	6
3-1. Inputs	8
3-2. Achievement of the Outputs.....	8
3-3. Achievement of Project Purposes	13
3-4. Achievement of Overall Goal	14
4. THE RESULTS OF THE EVALUATION	16
4-1. Relevance.....	16
4-2. Effectiveness	17
4-3. Efficiency	18
4-4. Impacts.....	18
4-5. Sustainability	19
4-5-3. Technical sustainability	19
4-6. Contributing factors to the progress.....	19
4-7. The hindering factors to the Project.....	20
5. The conclusion and the recommendations	21
5-1. The conclusion of the evaluation	21
5-2. The recommendations	21

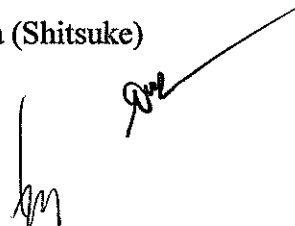
Handwritten signature and initials in the bottom right corner of the page.

- Annex 1. The Evaluation Grid for the Project
- Annex 2. The LJC Organizational Chart
- Annex 3. The Reference
 - 3-1. The List of the Japanese Experts
 - 3-2. The List of the counterpart personnel training in Japan
 - 3-3. The List of equipment provided
 - 3-4. The Revenue and Expenditure
- 4. The Business course
- 5. The Computer training course
- 6. The Japanese course
- 7. The Exchange activity and information division activities
- 8. The Publicity



ABREBIATIONS

ADB	Asian Development Bank
ASEAN	Association of Southeast Asian Nations
C/P	Counterpart Personnel
FEEM	Faculty of Economics Business and Management
JCC	Joint Coordination Committee
JENESYS	Japan-East Asia Network of Exchange for Students and Youth
LJC	Lao-Japan Human Resource Cooperation Center
MBA	Master of Business Administration
NUOL	National University of Laos
PDM	Project Design Matrix
R/D	Record of Discussions
SMEs	Small and Medium Enterprises
ToT	Training of Trainers
5S	Seiri, Seiton, Seiketsu, Seisou, Shukanka (Shitsuke)

Handwritten signature and initials in black ink, located in the lower right quadrant of the page. The signature is a cursive name, and the initials are a stylized 'M'.

1. THE BACKGROUND AND THE SUMMARY OF THE PROJECT

1-1. The background of the Project (Phase 1 & 2)

Lao P.D.R. has been undergoing a transition to the market economy from the planned economy along with the “New Economic Mechanism (NEM)”, which was introduced in 1986. The human resource development under the NEM started as one of the most important tasks in the Socio-Economic Development Plan (1996-2000) of Lao P.D.R. In order to fulfill the goal, the Lao government established the National University of Laos (NUOL), including FEBM, in 1995 with the support of Asian Development Bank (ADB).

After the ADB’s support for the NUOL, the government requested a technical cooperation to Japan. In response to the request, JICA dispatched several survey teams for the appraisal. As a result of the survey, the Japanese government decided to start the technical cooperation for the Lao-Japan Human Resource Cooperation Center (LJC) and the R/D was signed on July 6, 2000.

For the first 4 years of the Project, it had been operated as one combined project with the FEBM. However, along with the restructuring of the JICA Headquarters in April 2004, the project supporting the FEBM and the LJC project were divided. This was agreed by both Lao and Japan sides.

The government of Lao P.D.R. highly appraised the achievements of the LJC Project (Phase 1), and they requested to extend the project for another 5 years (Phase 2). Based on the findings of the preliminary study conducted in June 2005, the project design was agreed by the Lao and Japan side and the Phase 2 of the Project was launched in September 2005.

In the Phase 2, the each of the 3 pillars of the activities (the business courses, the Japanese courses, the mutual understanding activities) was expanded. In the business courses, the Japanese experts were systematically dispatched in order to provide “practical” business knowledge through the lectures and on-site consultations. The FEBM-LJC Joint MBA Program was also launched in September 2008 with an initiative of the Lao side.

As for the Japanese courses, experts from the Japan Foundation were dispatched and improved the quality of the Japanese education at the LJC. Under the supervision of the expert, the first Japanese Language Proficiency Test in Laos was conducted in December 2007.

As for the mutual understanding activities, in addition to the traditional activities such as the tea ceremony, ORIGAMI and IKEBANA, new trials such as the Japan-Study Fair and the cooperation with the HONDA Foundation, were made.

As a success of the LJC Project is recognized among the stakeholders, the LJC is going to be promoted from the “Center” to the “Institute” around April 2010. The “Institute” is said to have the same status as the Faculty of the NUOL. The new Institute is expected to take higher responsibilities to contribute to the human resource development in Laos.

1-2. Chronology of the Project (Phase 1 & 2)

- | | |
|-------------|---|
| 1995 | Establishment of NUOL with the aid of ADB |
| | Commencement of the technical cooperation of ADB (until September 2001) |
| July 1998 | Project formulation team dispatched |
| August 1999 | Preliminary survey team dispatched |

September 2000	“The Project for the Development of FEBM of NUOL and the LJC” commenced with the cooperation of JICA
February 2003	Mid-term evaluation team dispatched
March 2004	Consultation mission for dividing FEBM and the LJC dispatched
June 2004	The Government of Lao P.D.R. requested an extension of the Project
February 2005	The terminal evaluation team (Phase 1) was dispatched
August 2005	The project for the Lao-Japan Human Resource Cooperation Center (Phase 1) completed
September 2005	The project for the Lao-Japan Human Resource Cooperation Center (Phase 2) started
January 2007	The business courses including on-site consultations by the Japanese experts started
June 2007	The regular business courses (basic & advanced) by the Lao lecturers closed The study team for reviewing the business course curriculum dispatched
December 2007	The first Japanese Language Proficiency Test held in Laos
June 2008	The mid-term review team dispatched Study-in-Japan Fair
September 2008	FEBM-LJC Joint MBA Program launched
September 2009	The new building for the business courses opened
February 2010	The terminal evaluation team dispatched

Handwritten signature and checkmark.

2. OUTLINE OF THE TERMINAL EVALUATION

2-1. Purposes

The Project was initiated in September 2005, and will be completed by August 2010. The purposes of the terminal evaluation were as follows:

1. To review and confirm the achievements and the implementation process of the Project, as detailed in various documents such as the Record of Discussion (R/D) and the PDM.
2. To objectively evaluate the progress and achievement based upon five evaluation criteria, namely relevance, effectiveness, efficiency, impact and sustainability.
3. To clarify issues and the countermeasures need to resolve these by the time the Project is due to be completed.
4. To make recommendations to the future perspective of the Project and draw lessons learned from the Project for the same field of technical cooperation.

2-2. Evaluation Criteria

The following five evaluation criteria are applied to the project evaluation.

- (1) **Relevance:** A criteria for considering the validity of the Project Purpose and the Overall Goal in relation to the development policy of the Government of Lao P.D.R. and the needs of the Project beneficiaries.
- (2) **Effectiveness:** A criteria for considering whether the Project has actually benefited (will benefit) the target group. It also assesses whether the Project Purpose is being achieved as expected and whether this is due to the Project's Outputs.
- (3) **Efficiency:** A criteria for considering how resources/inputs converted into results. The relationship between Inputs and Outputs is mainly reviewed.
- (4) **Impact:** A criteria for examining direct/indirect effects and extended effects of the Project in the long run. The analysis also extends to the positive and negative impacts that were not expected when the Project was planned.
- (5) **Sustainability:** A criteria for considering whether produced effects or achievements continue after project termination, focusing on the Project's institutional, financial and technical aspects.

2-3. Methodology

The evaluation survey was mainly conducted by the Team, and jointly confirmed with the Lao evaluator listed below. The evaluation survey was conducted in accordance with following steps:

- (1) The Project Design Matrix (hereinafter referred to as "PDM") was agreed upon by both sides as the basis of the evaluation.
- (2) Achievement of the Project was studied by collecting data and other relevant information.
- (3) Analysis was made from the viewpoint of the five evaluation criteria described.

2-4. Members of Evaluation Team

<Lao Side>

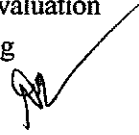
- | | |
|---|---|
| (1) Assoc. Prof. Dr. Saykhong SAYNASINE | Vice President, NUOL |
| (2) Assoc. Prof. Dr. Manisoth KEODARA | Director of LJC, NUOL |
| (3) Assoc. Prof. Bounheng SIHRARATH | Deputy Director, Office of Planning and |

International Cooperation, NUOL

<Japanese Side>

- (2) Mr. Senya MORI
- (3) Ms. Tomoko MATSUSHITA
- (4) Mr. Mamoru IKUTA
- (5) Ms. Yuri TAKEDA
- (6) Ms. Rumiko NOMURA

- Team Leader
- Evaluation Analysis
- Japanese Course Evaluation
- Japanese Course Evaluation
- Evaluation Planning



3. ACHIEVEMENT OF THE PROJECT

3-1. Inputs

According to the results of interviews, study and observations, most of the inputs have been appropriate in terms of timing, quantity and quality made by both the Japanese and Lao sides. The inputs of the Project were as follows: (as of January 2010)

<The Japanese side>

- Experts (ANNEX 3-1.)
- Counterpart personnel trained in Japan (ANNEX 3-2.)
- Provision of equipment for grants (ANNEX 3-3.)
- Operating cost (ANNEX 3-4.)

<The Lao side>

- Allocation of LJC staff members (ANNEX2.)
- Land for the project building and additional car parking
- Operating Cost (ANNEX 3-4.)

3-2. Achievement of the Outputs

3-2-1. Output of administration function

In the PDM, it is specified that the outputs of administration of LJC is that "The general management of the Center is improved". In order to produce this output, the following four areas of activities were undertaken:

- a) To conduct baseline survey.
- b) To redesign and implement general management system of the Center.
- c) To implement staff training.
- d) To monitor and evaluate the general management system regularly

(1) The number of training programs to LJC staff, and their ability

Until now, 16 civil servants have been assigned as counterpart personnel, and 26 national staff are allocated to the LJC. The staff have improved knowledge and skills related to their own duties through a series of trainings such as counterpart training in Japan (27 persons), Japanese language teacher trainings of the Japan Foundation (5 persons), English language training (all staff member), 5S seminar (all staff member), as well as OJT. Furthermore, LJC's social welfare fund covers a part of tuition fees for a C/P's graduate study.

In spite of these training opportunities, however, in general, a few staff do not have enough coordination skills. There is a considerable difference of the levels of capacity depending on the area of activities. Especially, the administrative division is requested to have a stronger function to support other divisions for the effective operation.

(2) Evaluation of performance of the LJC staff

In 2007, the Project prepared "The Human Resource Development Plan of counterpart personnel and national staff" for the purpose of (1) encouraging each staff member by specifying

short-term and long-term personal goals regarding academic progress and the levels of English/Japanese proficiency, and (2) monitoring the progress depending on the results of reviewing achievement. However, alternative performance rating system prepared by the Lao side, which is more effective, has been used in the last two years.

3-2-2. Outputs of the business management program

Business management program attempts to produce the output of "Practical business courses and business services intended for the business people in Laos are provided". The following four areas of activity are underway:

- a) To make an annual implementation plan for business area activities.
- b) To implement business area activities according to the annual implementation plan.
- c) To collaborate with other organizations and provide special courses related to market economy.
- d) To monitor and evaluate achievements of activities regularly.

(1) The number of courses and the participants

A total of approximately 1,600 people participated, and a wider range of the courses have been offered compared with the Phase1 (8 regular courses, 47 short business courses, the FEBM-LJC Joint MBA program (the First Batch 6 courses, the Second Batch 3 courses) and on-site guidances and consultations (3 subjects, 54 companies)). The MBA program, launched in FY2008, has attracted young business people interested in a high-level post-graduate MBA degree to upgrade their professional career.

(2) The satisfaction ratio of the (ex-)participants

According to the questionnaire conducted by the Team, (ex-)participants were highly satisfied with the courses (88% for an MBA program, 84% for regular/short business courses and 100% for on-site guidance and consultation). 84% of samples of an MBA program and regular/short business course responded that knowledge acquired through lectures/consultation is applicable to practical work. 80% of them answered that they were (will be) able to achieve better business performance, increase in income and increased the number of employees, etc.

(3) Percentage and quality of the local lecturers

84% of the total lecture hours are comprised of the lectures taught by the local lecturers. Those lectures, accounting for 85.4% of all lecturers, are mainly invited from FEBM. This ensures high technical sustainability. However, according to interviews by the Team, some participants pointed out local lecturers focus on theory, due to lack in practical experience.

3-2-3. Output of Japanese language program

The output of the Japanese course management is specified as "The human resources of Japanese language education are promoted through teachers' training, course programs and network among Japanese teacher". In order to produce this output, the following four areas of activity were undertaken:

- a) To establish overall strategy and make an annual implementation plan for Japanese education in NUOL.
- b) To implement the Japanese courses.
- c) To implement the teacher training.
- d) To form a human network of the private Japanese language schools and the Japanese education personnel in ASEAN region.
- e) To promote a mutual cooperation with the Japanese education personnel in Laos through the teacher seminars and the development of teaching materials in LJC.
- f) To provide the learning environment for Japanese course participants by installing the self-study class rooms and studying materials.
- g) To monitor and evaluate the achievements of activities regularly.

(1) Number of the Japanese language courses

A wide range of the courses have been offered to respond to more diversified needs of Japanese learners, compared with the Phase 1. LJC provided the standard Japanese course, having 6 levels in the basic course, 2 levels in the intermediate course, and the introductory course for the Japanese teaching method (from 2005-2008).

Year/course	2005-2006	2006-2007	2007-2008	2008-2009	2009-2010
<regular courses>					
B1-B6 (Kiso)	19	12	14	12	18
Intermediate* (Chukyu)	5	4	4	4	4
Guide course	1	-	-	-	-
TOT (Introductory course to Japanese teaching method)	2	1	1	-	-
Sub total	27	17	19	16	22
<special courses>					
JLPT class (grade 3)	-	1	1	-	-
JLPT class (grade 2)	-	-	-	1	-
Others (Hiragana class, JENESYS programs, Morning class)	7	19	12	7	1
Sub total	7	6	4	7	1
Total	34	23	24	23	23

*Intermediate course is called "Sho-Chukyu"(lower-intermediate class) from 2009.

(2) Number of participants of Japanese language classes

The number of the participants fluctuated year by year; however, around 2000 people participated in the regular classes. LJC introduced the customized courses for the JENESYS Programs and for the students of the JICE scholarship, among others.

Number of participants					
Regular classes	2005-2006	2006-2007	2007-2008	2008-2009	2009-2010
<Regular courses>					
B1-B6 (Kiso)	331	209	163	176	219
Intermediate* (Chukyu)	66	49	24	32	33
Guide course	6	-	-	-	-
ToT (Introductory course to Japanese teaching method)	12	3	12	7	4
Sub total	415	261	199	215	305
<special courses>					
JLPT class (grade 3)	-	16	16	-	-
JLPT class (grade 2)	-	-	-	16	-
Others (Hiragana class, JENESYS programs, Morning class)	118	102	57	179	55
Sub total	118	118	73	195	55
Total	539	379	334	402	360

(3) Training opportunities for the Japanese language teachers

Apart from the ToT class for newly assigned teachers, the local Lao teachers have been sent to the Japan Foundation's teacher training program in Japan (5 persons), the Foundation's training program in Udon Thani in Thailand, and the exchange programs at the Cambodia-Japan Cooperation Center.

3-2-4. Output of the mutual understanding activities

The mutual understanding programs attempt to produce the output of "the system for providing mutual understanding programs and information is established". The following 4 areas of activity were undertaken to promote the mutual understanding:

- a) To implement needs survey for the mutual understanding activities
- b) To collect and provide information on the both countries
- c) To provide the opportunity by utilizing the facilities
- d) To strengthen coordination with the business courses and the Japanese language course
- e) To monitor and evaluate achievement of activities regularly

(1) Number of the events

	2006	2007	2008	2009
Japanese culture	61	76	75	36
Lao culture	90	70	88	68
Mutual understanding promotion	1	7	17	9

Promotion of study program in Japan	1	1	1	5
Total	153	154	181	118

(2) Number of the participants

	2006	2007	2008	2009*
Japanese culture	4,930	8,137	6,442	2,890
Lao culture	2,013	1,457	3,162	643
Mutual understanding promotion	1,000	1,990	793	276
Promotion of study program in Japan	120	153	440	<u>706</u>
Total	7,163	11,737	10,847	4,315

*Based on the data until September 2009.

A total of nearly 600 events, both large scale and small-scale have been constantly implemented during the period between January, 2006, and September, 2009. Approximately 34,000 participants attended the events. Some of them have relatively high satisfaction rate according to the questionnaire. In addition, LJC has conducted collaborative events with external agencies including “the Study Fair in Japan” or the “Job Fair” of a specific Japanese company. These are a good example of public-private partnership.

Through the weekly radio program started in 2007, LJC reported its activities once a week nationwide.

(3) Number of the information services

	2005/2006	2006/2007	2007/2008	2008/2009	2009/2010*	Total
Visitors to media room	27,834	23,392	22,446,	23,478	11,128	108,277
Visitors to self -study room	16,527	11,886	12,664	11,499	4,636	57,212
Memberships of media room (accumulated figure)	2,365	3,342	4,150	4,910	5,500	5,500

*Based on the data until September, 2009

There are more than 5,500 people registered at the information service desk of the media room. The percentage of the students of NUOL accounts for 89%, ordinary citizens - 9%, and

teachers - 2% (during the Phase 1, the ratio of NUOL students - 94%, ordinary citizens - 4%, and teachers of NUOL - 2% respectively).

The total number of the library users is 138,000 in the last five years (approximately 100 per a day on the average). Over 111,600 books have been borrowed in five years since 2005. The number of people who borrowed books has on a decrease in recent years, which is considered to be due to the opening of library at each Faculty of NUOL.

The activities are reported on newspapers frequently. LJC's radio program, started since 2007, has been useful to announce events coming soon.

3-3. Achievement of Project Purposes

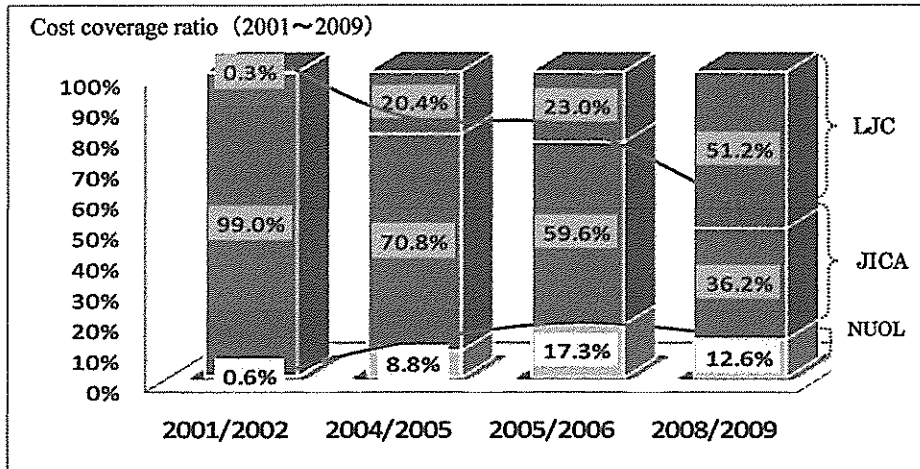
The project purposes are set as (1)“The Center provides services to enhance human resource development for the market-oriented economic reform of Lao P.D.R”, and (2)“The information and the opportunities to participate in activities for mutual understanding are provided for people of both countries by the Center”.

(1) Balance between revenue and expenditure

The trend of the total revenue/expenditure balance has improved greatly from 22.4% in 2005/2006 to 64.3% in Sep. 2009. The fees for the business courses (e.g. MBA program), Japanese language courses, and income raised from mutual exchange events have led to a substantial expansion of cost coverage of the Lao side to 63.8% as of 2009 (Apr.-Sep.) (40.3% in 2005/2006).

	2005/2006	2006/2007	2007/2008	2008/2009	Sep. 2009
Ratio of the Total LJC revenue to the Total LJC expenditure	22.4%	18.3%	31.8%	39.8%	64.7%

	2005/2006	2006/2007	2007/2008	2008/2009	Sep. 2009
Ratio of the Cost share by the Lao side (Ratio of the NUOL Expenditure + ratio of the LJC Expenditure)	40.4%	42.0%	50.9%	50.6%	63.8%



(2) Activities to raise visibility of LJC and promote “Japan fan”

LJC has played an important role in human resource development for promoting market-oriented reform. The business program provides high level teaching, which led strong satisfaction rate among participants with its curriculum and teaching methods with 84% of selected samples from ex-participants of the period from 2005 to 2009. Many of participants recognize that practical know-how of Japanese management styles is useful. The mission observed that most of those participants appreciate that knowledge and expertise has been helpful in improving their business performance. The business course has expanded course offering. The Joint MBA program with FEBM, launched in 2008 to offers a high-level post-graduate study in business administration with business people seeking to advanced professional career.

Japanese language courses and mutual understandings promotion also attracted younger fan of Japan. Public relations activities by running a serious of weekly radio program nationwide have been helpful.

It can be said that all of these activities contributed to raise the visibility of LJC.

(3) Number of LJC users/participants

A substantial number of people have participated LJC courses or/and activities so far.

Business course: approximately 1,635

Japanese course: 1,996

Mutual understanding events: 606

Visitors of media room and self-study room: 210,728

3-4. Achievement of Overall Goal

(1)The Center will perform the core function of human resource development in the field of business area for market-oriented economic reform of Lao P.D.R

(2)The Center will be utilized as the key place for mutual understanding between the people in Lao P.D.R and Japan.

Through a series of activities, LJC has already been functioning as the core educational center of the business administration, Japanese language education and mutual understanding. It is

necessary for LJC to improve strategic planning, management and operation in order to function more effectively. Through responding to these issues, the prospect to achieve overall goals will become higher.

A handwritten signature in black ink, appearing to be 'RW' followed by a stylized name.

4. THE RESULTS OF THE EVALUATION

4-1. Relevance

4-1-1. Alignments to Development Policy of Lao P.D.R..

The Lao P.D.R., in its “Sixth National Socio-Economic Development Plan (NSED) 2006-2010”, has set out basic elements of its measures for its socio-economic development, aiming at (i) accelerating economic growth and improving the people’s quality life, (ii) building the market economy with a socialist orientation, (iii) continuous enlargement and development of external economic relations, (iv) creating breakthrough changes in education and training in terms of quality and quantity, (v) developing culture and society in synchrony with economic growth, (vi) continuous strengthening of the socio-economic infrastructure as fundamentals for development, (vii) maintaining political stability and social security.

These goals were identified, based upon “the Socio-Economic Development Strategy for ten-year Period 2001-2010”, one of whose targets are (i) to create the foundation for industry and prepare the quality and quantity of human resources to be ready for industrial development, and gradually turn to industrialization (ii) to develop our country to become the central point of transit of the region in the future.

4-1-2. Conformity to Japan’s official development assistance (ODA) policy

In its assistance strategy towards Lao P.D.R., Japan, as one of the priority issues, has promoted the "capacity building and human resource development for strengthening the private sector", to which the Project Purpose is relevant.

In the first meeting between the heads of the government of Japan and the Mekong region countries held in November 2009, “the Tokyo Declaration” was announced. It stressed that the Mekong Region was one of priority areas of Japan’s ODA, and it accentuated the need for the reinforcement of both soft and hard components of infrastructure development, and strengthening of public and private partnership throughout its effort.

4-1-3. Conformity with needs of target groups

(1) Business Course

In the beginning of 2007, the number of participants of the Business courses, run by the Lao side, was on a decrease. Both Japan and Lao sides reexamined the curriculum to respond to the changing demands of the business community, and introduced a couple of unique programs; on-site consultation in 2007 and FEBM-LJC Joint MBA Program in 2008. According to the results of questionnaire survey, by the Evaluation Team, each course was highly appreciated by participants, around 85% positive response, on the average. Most recipients answered that courses are all composed not just of theoretical part but practical part, which helped them to adopt theory to practical work. Among others, on-site consultation service is tailored for several SMEs to respond to their specific demands for the better management. In order to continually improve courses and meet the needs of participants, the assessment is conducted through feedback questionnaire for each course.

According to the survey by the mission, LJC is one of the few institutions which provide evening short business courses for the working people.

(2) The Japanese Language Course

When LJC was established, it was the only institute that provided the intermediate level class, and the teacher training classes. Now, however, the of Japanese Language Section of the Faculty of Letters of NUOL, established in 2003, has been implementing a wide range of the classes including the intermediate class and the teaching methodology class. Moreover, in the recent few years, a couple of private Japanese education schools opened in the city of Vientiane.

There is a decreasing trend of number of participants at LJC, the Japanese language course seems to maintain appropriate level of coverage, judging from the fact that the number of applicants is slightly above the capacity of each course.

Currently, the LJC’s participants are mostly composed of NUOL students (70% as of 2005-2006 to 80% as of 2009-2010), while other private Japanese language schools are targeting mainly for working people and students in secondary education. Because of this demarcation, a concern over the overlap of the target and the hindrance to the private schools, which was previously heard, are no longer expressed by the private sector.

(3) The Cultural Exchange Program

According to the interviews with participants of the cultural exchange programs, they highly appreciate LJC as the only institute in Lao P.D.R. to respond to the needs of the target groups.

Therefore, it is reasonable to conclude that the Project Purpose and the Overall Goals substantially conform to the Lao government policies and needs for its development. LJC’s activities have high conformity with the needs of the target groups.

4-2. Effectiveness

4-2-1. Achievement of the Project Purposes

The Project Purpose 1. “The Center provides services to enhance human resource development for the market-oriented economic reform of Lao P.D.R”

The Project Purpose 2. “The Information and the opportunity to participate in activities for mutual understanding are provided for people of both countries by the Center”

Since numerical figures have not been set as targets since the timing of project preparation, it is difficult to examine strictly whether project purposes/outputs have been achieved or how far the project has progressed up to now.

Nevertheless, as mentioned 3-2-2 above, LJC has played an important role in human resource development for promoting market-oriented reform through conducting business courses. It provides high level teaching with a particular focus on production management, marketing and entrepreneurship to meet the needs of current business environment. The participants showed strong satisfaction with its curriculum and teaching methods for a better understanding on practical know-how, in which the essence of Japanese management styles is introduced. Most of those participants recognize that knowledge and expertise acquired through attending LJC’s business courses have been (will be) helpful in improving their business performance.

Handwritten signature and initials in the bottom right corner of the page.

As for Project Purpose 2, as mentioned 3-2-2 and 3-2-3 above, activities such as Japanese language education, mutual understanding events, or library services, help participants to promote interest and understandings of Japan. Moreover, LJC has expanded public relations activities by running a series of weekly radio program nationwide since from September, 2007.

Similar to the Phase 1, majority of the recipients of mutual understanding events are students of the NUOL though the project has been trying to attract ordinary citizens to get involved in activities. However, interviews confirmed that increasing number of local residents gets to know and even visit LJC, and their overall reaction to LJC is positive.

4-2-1. Relation between the results of the Outputs and achievement of the Project Purposes

Four outputs have been achieved almost as scheduled. However, as mentioned in 3-2-1, LJC has offered such training opportunities as English language training (all staff members), marketing seminar, 5S seminar. In general, however, the staff lack in skills for planning or/and management, and the capacity to make strategic plan. LJC requires more effort to the capacity building.

4-3. Efficiency

4-3-1. Appropriateness of Inputs of Japanese side

In general, inputs from Japanese side have been provided as scheduled. According to the results of the interview with the counterparts, the inputs of Japanese sides were appropriate in terms of quantity, quality and timing. A range of programs/events have been developed by the collaborative opportunity among the Japanese experts, LJC staff and FEBM. LJC's local staff and FEBM's researchers/scholars have acquired experience and expertise through working and teaching with Japanese experts at LJC. Trainings for the counterpart personnel received 27 staff, which helped them improve efficiency in managing the program or giving lectures for the business courses.

4-3-2. Appropriateness of Inputs of Lao side

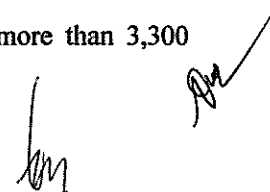
Inputs from the Lao side has also been provided as agreed in R/D. Currently, the Ministry of Education assigned sixteen counterparts to LJC, exceeding the upper limit of regularly allocated number to the university. Also, LJC has developed a wide range of profit-making events to increase cost share of their own, leading to substantial expansion of cost share of the Lao side from 23% in 2005/2006 to 63.8 % in 2009 (as of Sep. 2009).

4-4. Impacts

4-4-1. Possibility for achieving the overall goals

1. The Center will perform the core function in human resource development in the field of business area for market-oriented economic reform of Lao P.D.R..
2. The Center will be utilized as a key place for mutual understanding between the people in Lao P.D.R. and Japan.

LJC, as a pioneer of business education in Lao P.D.R., has trained more than 3,300



business people for the last 10 years, and enhanced the mutual understandings between the 2 nations. Nevertheless, LJC is expected to strengthen capacity of management to for better operation, which will be necessary to achieve the Overall Goals.

Secondly, as for the Japanese course, the results of the questionnaire showed that the majority of Japanese the learners are content with the decent curriculum and the highly qualified Japanese experts at LJC. Cultural exchange events are also highly evaluated since LJC is the only place in Lao PDR to enhance mutual understanding between the people in both countries.

4-5. Sustainability

4-5-1. Financial sustainability

While the financial sustainability is the major challenge for all Japan Center Projects, LJC secures financial sustainability. In addition to the introduction of the FEBM-LJC Joint MBA Program, which has contributed to the increase of cost coverage, LJC has been developing profit-making events as necessary measures to expand its revenue. At the Project Phase 1, LJC was dependent on the subsidy of JICA, and even at the beginning of the Project Phase2 (FY2005/2006), 59.6% of its operating cost was covered by JICA. Currently, however, as a result of profit-making efforts, the Lao side has improved financial sustainability, leading to 63% until September of 2009, compared with 23% in FY2005/2006.

4-5-2. Institutional sustainability

16 C/P have been assigned to the project. The staff turnover ratio is not high. Overall, the Center does not have much difficulty in carrying out their tasks as long as they are routine work. On the other hand, however, there are differences in the level of the administrative skills depending on divisions. The staffs of the business division are able to conduct smooth operation, but the capacity to formulate strategic planning needs to be strengthened. As for the staff at the cultural and information division, their strategic planning and marketing skills have to be strengthened, as the participation of the Japanese expert is currently needed depending on the complexity of the events. All divisions have the limited capacity in formulating the strategic plan.

4-5-3. Technical sustainability

LJC has attained a certain level of technical sustainability. As for the business course, most lecturers are from FEBM, so their skill and knowledge have been improving through teaching experience at LJC. As for the Japanese Division, the Lao lecturers are capable of teaching the basic classes; however, they need to train Japanese-language teaching skills to teach the intermediate classes and to design the courses by themselves (making a curriculum, syllabus, etc.) The mutual understanding division can conduct routine events including origami class and fruit curving.

4-6. Contributing factors to the progress

4-6-1. Strong ownership by the Lao government

Since the Project (Phase 1) initially started with another project for FEBM as “a one project”, the Lao government has deeply committed to the implementation of the Project, and

extended assistance by allocating sufficient number of C/P and contributed to expand the coverage ratio of the operating expenses.

4-6-2. Fostering the linkages with the external organizations

Compared with the Phase 1, LJC has expanded activities in each area, most of which have been realized by the close collaboration with the external organizations. These linkages have been fostering effectiveness and sustainability of the effect.

At the business course division, local lecturers invited from LJC/FEBM covers 84% of lecture hours, which enables stable course management and secures technical sustainability. The Japanese language division has a complementary relationship with the Faculty of Letters at NUOL by sharing know-how of the course management and teaching methodology. The mutual understanding division has been actively creating “public-private partnership” by collaborative events with external agencies including “the Study Fair in Japan” or the “Job Fair” with a specific Japanese company.

4-7. The hindering factors to the project

4-7-1. Communication

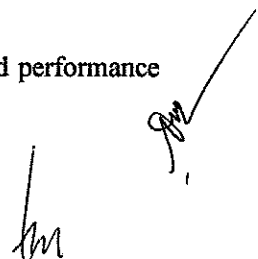
JCC, internal and external divisional meetings, conducted regularly are appropriate opportunity to communication. However, majority of the staff lack in communication skills in either Japanese or English though LJC offers training opportunities to respond to the issue. Further training programs and evaluation system of language proficiency on a regular basis should be introduced.

4-7-2. Quality of the local Lao lecturers of the business course

As for the lectures for business course, it is possible to admit that the high ratio of local lecturers will promote achievement of project purposes and, contribute to technical sustainability. However, this, in turn, causes slight disappointment among a couple of participants as their lectures are focusing on theoretical part. It would be necessary to teach practical business knowledge and know-how, more beneficial to business practices.

4-7-3. Linkages among the divisions

It is necessary to foster linkages among divisions to better functioning and performance of the Center.

Handwritten signatures and initials in the bottom right corner of the page. There are two distinct signatures, one appearing to be 'hm' and another more stylized signature.

5. The conclusion and the recommendations

5-1. The conclusion of the evaluation

Based on the discussions with the Lao authorities concerned and the Japanese Evaluation Team, the both sides conclude that initial objective of the Project has been mostly achieved in accordance with the outputs mentioned in the PDM. Therefore, the Project terminates in August 31, 2010, as initially planned.

Although the Project Purposes were achieved, the Government of Laos requested a new project to develop advanced human resources under the new “Lao-Japan Human Resource Development Institute”, which is planned to be promoted from the current “Center”, in the 1st half of the year 2010.

Understanding the importance of the purpose of the new Project, the Japanese Team promised to convey the request to the Japanese government authorities concerned for the consideration of the next technical cooperation.

5-2. The recommendations

5-2.1. Operation and the Management of the Center:

Improving the Operation and the Management at the new “Institute”

- (1) In order for the Institute to develop the highly advanced human resources, it is critical to increase the number of the competent civil servants. The 10 additional civil servants, for the new Institute need to be hired as early as possible. For the additional 10 civil servants, it is important to consider the promotion of current LJC staff first.
- (2) The success of the operation and the management of the new Institute rely on the administrative functions. At least some of the additional 10 civil servants to the Institute have to be allocated to the administration division. Also, the administration division has to take a lead in promoting the cooperation among the divisions.
- (3) The high percentage of the cost sharing by the Laos is indispensable for the sustainability of the Institute. The Laos side has to maintain and even increase the current cost share (63.8%) of the cost share by the end of the Project period.
- (4) Review the current Center’s financial management system. Find out the best ways to maximize the effectiveness of the overall LJC activities.

5-2-2. Business Course Division:

Clarify the directions of the business course under the new Institute

- (1) One of the goals of the new Institute is to develop the human resources that can deal with the ASEAN integration in upcoming 2015. It is important for the business course division to make a strategy for the new curriculum to fulfill the goal.
- (2) In the Institute, it is important for the Lao lecturers to be able to teach “practical” business knowledge & know-how, which have been undertaken by the Japanese lecturers.
- (3) Leverage the opportunity of “the joint training programs for fostering of entrepreneurs in the Mekong region countries”, which was mentioned in the “Mekong-Japan Action Plan 63” announced at the First Meeting between the Heads of the Governments of Japan and the Mekong region countries last November. Toward the ASEAN integration, the

information exchange and the joint learning experiences through the program are beneficial for the Lao participants.

5-2-3. Japanese Language Course Division:

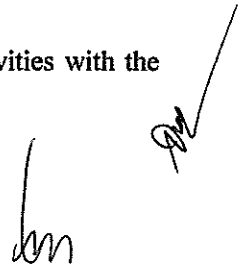
Facilitate the independent planning & management by the Lao staff/lecturers

- (1) The Japanese Division needs to decide what kind of courses to continue after the end of the Project period, taking into account the demand of the participants and the capacity of the Division.
- (2) The Lao lecturers need to be able to become more independent in the planning & the management of the Japanese courses toward the end of the Project period, taking into account the fact that the Japan Foundation's expert will no longer be dispatched to LJC.
- (3) The Lao staff and lecturers need to continue improving their Japanese skills and teaching skills. It will be effective for the Lao lecturers to participate in the Japan Foundation's training program either in Japan or in Thailand, even after the dispatch of the Foundation's expert to LJC is finished. They may receive technical assistance from the Foundation's expert at the Japanese Language Section of the Faculty of Letters at NUOL, at the teacher training seminars for Lao teachers conducted by the expert.

5-1-1. Mutual Understanding Activities Division

More shift to the activities with the "added value" and pursue its sustainable operation

- (1) Further shift to the activities with the "added value" is necessary. The activities with the "added value" may have characteristics such as;
 - 1) May have a positive impacts in networking with the stakeholders of other divisions at LJC (ex. Lao/Japanese companies, Lao/Japanese business associations, Lao/Japanese NGO, etc);
 - 2) May generate an income that can cover the operating cost.
- (2) The Lao staff should enhance their capacity to be able to conduct the activities with the "added value"

Handwritten signatures and initials in black ink, including a large checkmark and several scribbles.

The Evaluation Grid for the Terminal Evaluation
The Project on the Lao-Japan Human Resource Cooperation Center (Phase 2)

Relevance	Evaluation questions		Points of evaluation	Results of Evaluation
	Main questions	Sub-questions		
Conformity of the Project Goal to the National Development Plan of Lao PDR			Conformity and alignment between overall goal and Lao government	<p>The Lao PDR, in its "Sixth National Socio Economic Development Plan (NSED) 2006-2010", has set out basic elements of its measures for its socio-economic development, aiming at (i) accelerating economic growth and improving the people's quality of life, (ii) building the market economy with a socialist orientation, (iii) continuous enlargement and development of external economic relations, (iv) creating breakthrough changes in education and training in terms of quality and quantity, (v) developing culture and society in synchrony with economic growth, (vi) continuous strengthening of the socio-economic infrastructure as fundamentals for development, (vii) maintaining political stability and social security.</p> <p>These goals were identified, based upon "the Socio-Economic Development Strategy for ten-year Period 2001-2010", one of whose targets are (i) to create the foundation for industry and prepare the quality and quantity of human resources to be ready for industrial development, and gradually turn to industrialization (ii) to develop our country to become the central point of transit of the region in the future.</p> <p>Preparing for upcoming establishment of ASEAN community in the year of 2020, Lao PDR needs to train human resource to secure steady process for its integration, as well as to strengthen international competitiveness.</p> <p>"The Tokyo Declaration", announced in the First Meeting between the Heads of the Governments of Japan and the Mekong region countries in November 2009, affirms that the region is one of the priority areas of Japan's ODA, and realized the necessity for further development of both hard and soft infrastructure as well as promotion of public-private cooperation.</p> <p>In its assistance strategy towards Lao PDR, Japan, as one of the priority issues, has promoted the "capacity building and human resource development for strengthening the private sector", to which the Project Purpose is relevant.</p> <p>In the first Japan-Mekong summit meeting, held in November 2009, "the Tokyo Declaration" was announced. It stressed that the Mekong Region was one of priority areas of Japan's ODA, and it accentuated the need for the reinforcement of both soft and hard components of infrastructure development, and strengthening of public and private partnership throughout its effort.</p>
Current situations of ASEAN economies				
Conformity to Japan's official development assistance (ODA) policy	Japan's policy towards Asean Economies	Japanese Aid policy towards Lao P.D.R.	<ul style="list-style-type: none"> Priority of Japan's assistance towards Mekong region Priority of Japan's assistance towards Lao P.D.R. 	<p>At the beginning of 2007, the number of participants of Business courses, run by Lao side, was decreasing. Both Japan and Lao sides have reexamined the curriculum to respond to changing demands of business community, and introduced a couple of unique programs; on-site consultation in 2007 and MBA program in 2008. Since then, each course has been highly appreciated by participants, especially for being composed not just of theoretical part but practical part.</p> <p>The result of the questionnaire indicates high ratio of satisfaction of participants of MBA and general business courses with 88%.</p> <p>【Mutual understanding and information】</p> <p>LJC is the only place accessible to ordinary citizens where active cultural and academic exchange events are conducted.</p>
Relevance of the selection of target groups, conformity with needs of target groups	Needs of target groups are responded by activities?		Needs of T/G	

The Project on the the Lao-Japan Human Resource Cooperation Center. (Phase 2)

The Evaluation Grid for the Terminal Evaluation

Evaluation questions		Results of Evaluation
Main questions	Sub questions	points of evaluation
	Size of target group is appropriate?	<p>• Number of applicants and participants of courses</p> <p>• opinions of specialists and c/p course.</p>
• Duplication of similar activities by other organizations	Similar educational facilities	<p>Recently, the number of participants at LJC has been decreasing, however, Japanese Language Course seems to maintain appropriate level of coverage, judging from the fact that the number of applicants is slightly above the capacity of each course.</p>
		<p>【Business course】 Though some business schools provided business programs including MBA program, they invite LJC is one of the advanced institutions which provide high level evening short business courses, targeted to business people.</p> <p>【Japanese course】 Japanese couple of private Japanese education schools opened in the city of Vientiane. Previously, the LJC was the only institute to provide intermediate level class and above, and teacher training classes: however, the Faculty of Letters of NOUL conducts intermediate classes as well as class on Japanese language teaching method. Due to the relatively low level of tuition fees at the Center, there was a concern of possibility to hinder business of private schools among private schools.</p> <p>【Cultural Exchange】 LJC is the only institute to provide Japanese cultural events.</p>
Effectiveness	Output 1. "The general management of the Center is improved	<p>The JCC (Joint Coordinating Committee) meetings are held twice a year. Its functioning are to discuss LJC's management and to report progress of each activity. These periodical meetings among main stakeholders is beneficial to promote staff member to share the overall goals and progress towards them.</p> <p>Main trainings: counterpart training in Japan (27 persons), Japanese language teacher trainings of the Japan Foundation (5 persons), English language trainings, 5S seminar (all staff member), as well as OJT. Furthermore, a part of tuition fees for a C/P's graduate study is covered with LJC's social welfare fund covers.</p> <p>The staff have improved knowledge and skills related to their own duties through</p> <p>There is a considerable difference of the levels of capacity depending on the area of activities. However, it is observed that in general, the staff does not have enough management skills. Especially, the administrative division is requested to have a stronger function to help other divisions for effective operation.</p>
	• JCC's role and function	<p>• frequency, times</p>
	The number of trainings to the LJC staff, and their ability	<p>• number of trainings, changes of their performance</p>
	Improvement of performance and skills	<p>• "The Human Resource Development Plan of counterpart personnel and national staff"</p>
	Evaluation of performance of the LJC staff	<p>• periodical meetings</p>
	Monitoring system	<p>LJC and The Project team monitor the progress based on the Annual Action Plan, JCC and divisional, rather than PDM.</p>

The Evaluation Grid for the Terminal Evaluation
The Project on the Lao-Japan Human Resource Cooperation Center (Phase 2)

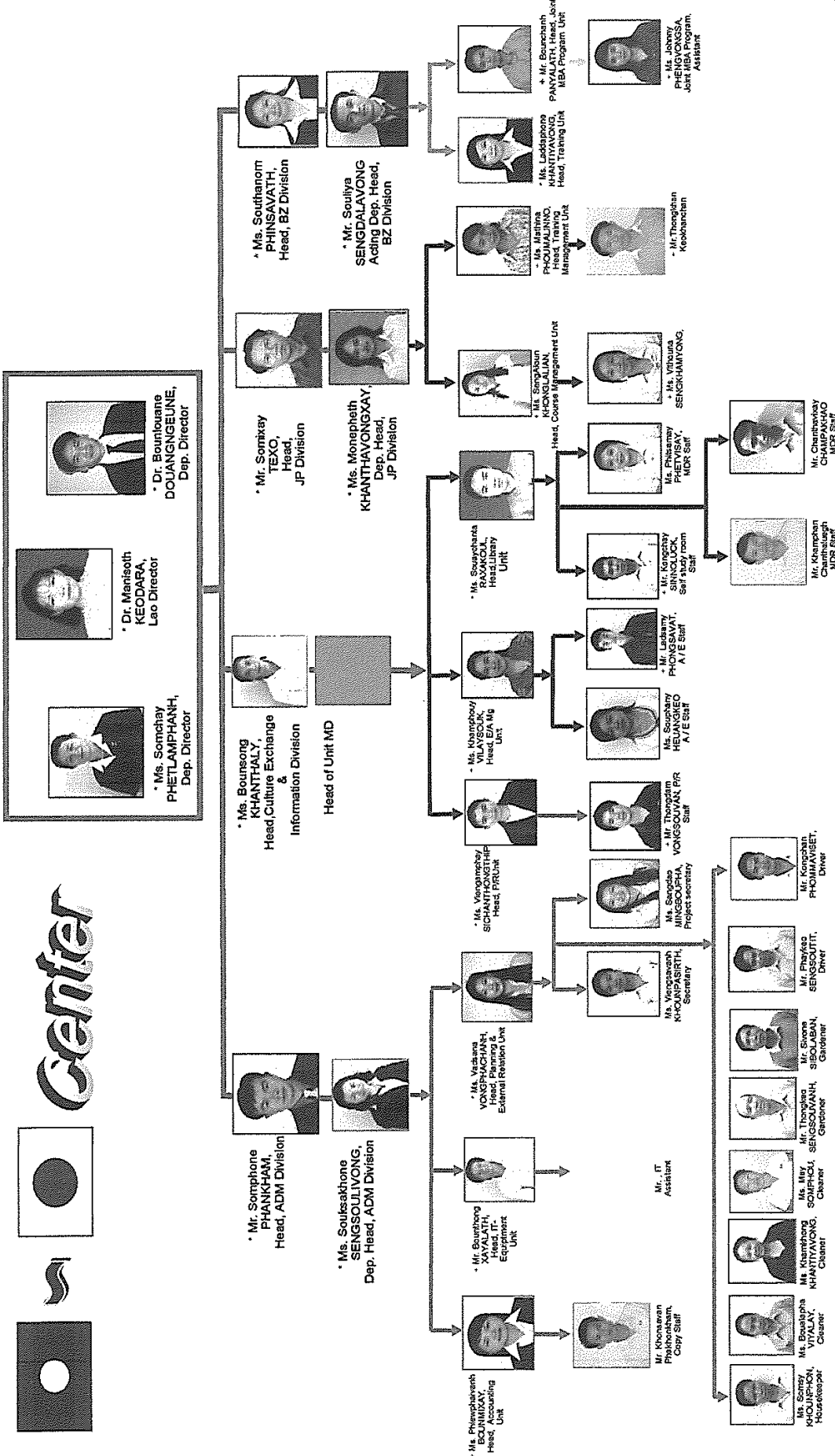
	Evaluation questions		Results of Evaluation
	Main questions	Sub questions	
Effectiveness	Output 2. Practical business courses and business services intended for the business people in Laos are provided	<p>The number of courses and the participants</p> <p>Satisfaction ratio of (ex-)participants</p> <p>Benefit to business practice</p>	<p>A total of approximately 1,600 people participated, and a wider range of courses offered compared with the phase 1 (4 regular courses to changing demands of business society. Only at the beginning of 2007, the number of students decreased due to dissatisfaction with lectures focused on theoretical part. 44 short business courses, the FEBM-LJC Joint MBA program and on-site guidance and consultation (4 subjects)). Especially MBA program has been attractive for young business people to upgrade professional career.</p> <p>The questionnaire conducted by the mission indicates that (ex-) participants are highly satisfied with courses (88% for an MBA program, 84% for regular/short business courses and 100% for on-site guidance and consultation).</p> <p>Participants are highly satisfied with the courses (88% for the MBA program, 84% for regular/short business courses and 100% for on-site guidance and consultation). 84% of samples of the MBA program and regular/short business course responded that knowledge acquired through lectures/consultation is applicable to practical work. 80% of them answered that they are (will be) able to achieve better business performance, increase in income and expansion of employees, etc.</p> <p>The lecture hours by local lecturers comprise 84% of the total lecturer hours. Those lectures, accounting for 85.4% of all lecturers, are mainly invited from FEBM. This ensures high technical sustainability. However, according to interviews by the mission, some participants pointed out local lecturers focus on theory, due to lack in practical experience.</p> <p>MBA program is jointly organized between FEBM and the LJC.</p>
	Output 3. The human resources of Japanese language education are promoted through teachers	<p>Number of Japanese language classes</p> <p>Number of students</p> <p>Satisfaction ratio of (ex-)participants</p> <p>Trainings to local Lao Japanese language teacher</p> <p>Teaching skills of Lao teachers</p> <p>Collaboration with other Japanese language institutions</p>	<p>Basic course: 75 classes, Intermediate course: 21 classes, TOT class: 4 classes, special course:</p> <p>The LJC provided the standard Japanese course, having six levels in basic, and two levels in intermediate elementary level, and the introductory class of teacher training method.</p> <p>Over 2000 students has participated in the regular classes so far.</p> <p>The number fluctuated year by year. The LJC introduced the customized courses for the JENESYS Programs and for the students of the JICE scholarship, among others.</p> <p>Classes by Japanese lecturers are highly appreciated by participants.</p> <p>Apart from the ToT class for newly assigned teachers, the local Lao teachers have been sent to the Japan Foundation's teacher training program in Japan (5 persons), the Foundation's training program in Udon Thani in Thailand, and the exchange programs at the Cambodia-Japan Cooperation Center.</p> <p>The Lao teachers are capable of teaching the basic classes; however, they have a limited capacity in (1) teaching the intermediate classes and (2) designing the courses (making a curriculum, syllabus, etc.).</p> <p>Events e.g. study groups of Japanese teachers, Japanese speech contest and short-term Japanese language lesson for the Party members have been conducted with external organizations.</p>

The Evaluation Grid for the Terminal Evaluation
The Project on the the Lao-Japan Human Resource Cooperation Center. (Phase 2)

Evaluation questions		Results of Evaluation
Main questions	Sub questions	
Output 4. "the system for providing mutual understanding programs and information is established"	Number of the events	A total of nearly 600 events have been constantly implemented during the period between January, 2006, and September, 2009. Some of them have relatively high satisfaction rate according to the questionnaire.
	Satisfaction ratio of (ex-)participant Collaboration with other Japanese language institutions	
The relations of the Outputs to the Project Purposes	Balance between revenue and conditions of facility and machinery	The LJC has conducted collaborative events with external agencies including "the Study Fair in Japan" or the "Job Fair" of a specific Japanese company. These are a good example of public-private partnership. More than 76,000 people registered at the information service desk of the media room. The percentage of the students of NUOL accounts for 89%, ordinary citizens - 9%, and teachers - 2%. The LJC reports its activities once a week nationwide by the weekly radio program started in 2007. Newsletters are distributed to ministries, Japanese Embassy and JICA office. The LJC does not collect feedbacks from readers. Ratio of the total LJC revenue to the total LJC expenditure has increased from 22.4% in 2005/2006 to 64.7% as of Sep.2009. Facility and machinery are properly maintained.
	Contributing/hindering factors to the progress	
Efficiency Appropriateness of Inputs/ achievement of outputs compared with inputs	Quality and Quantity of inputs	Contributing factors: (1) the Lao government showed strong ownership by allocating sufficient number of C/P and contributed to expand the coverage ratio of the operating expenses, (2)the close collaboration with the external organizations have been fostering effectiveness and sustainability of the effect (e.g. the Joint MBA program with FEBM) Hindering factors: majority of the staff lack in communication skills in either Japanese or English. In general, inputs from Japan have been provided as scheduled, and both long term and short term specialists have been dispatched as planned. There seems no problems in terms of quality (specialty, communication skills, capacity to formulate plans, etc) and quantity. Main trainings: counterpart training in Japan (27 persons), Japanese language teacher trainings of the Japan Foundation (5 persons), English language trainings, 5S seminar (all staff member), as well as OJT. The equipment items are properly used for project implementation.
	Inputs of the Lao side	
Appropriateness of Project Management	Functions of JCC meetings	16 C/P have been assigned to the project, exceeding the upper limit of regularly allocated number to the university. Furthermore, a part of tuition fees for a C/P's graduate study is covered with LJC's social welfare fund covers. However, JCC, inter and intra divisional meetings are properly functioning to share information and assess
	Timing and frequency	

The Evaluation Grid for the Terminal Evaluation
The Project on the Lao-Japan Human Resource Cooperation Center (Phase 2)

	Evaluation questions		Results of Evaluation
	Main questions	Sub questions	
Impact	Possibility for achieving the overall goals	Reports to JICA office	LJC has developed a wide range of profit-making events to increase cost share of their own, leading to substantial expansion of cost share of the Lao side from 23% in 2005/2006 to 63.8 % as September 2009. It is observed that the Project team and JICA has smooth communication opportunity. Japanese experts reports the progress to JICA office monthly. Jica staff occasionally visits the Center.
			The LJC, as a pioneer of business education in Lao P.D.R., has trained more than 4,000 business people for the last 10 years, and Japanese language courses and cultural exchange events are also highly evaluated since the LJC is the only place in Lao PDR to enhance mutual understanding between the people in both countries. Nevertheless, the LJC is expected to strengthen capacity of management to for better operation, which will be necessary to achieve the Overall Goals.
Sustainability		Relations to Japanese enterprises expected/unexpected impacts	Some of the graduates are successfully working for Japanese company. India and Vietnam are planning to build similar educational facilities neighbouring places inside the NOUL.
		institutional sustainability	The staff turnover ratio is not high. Overall, there are differences in the level of the administrative skills depending on divisions. The staffs of the business division are able to conduct smooth operation, but the capacity to formulate strategic planning needs to be strengthened. As for the staff at the cultural and information division, their strategic planning and marketing skills have to be strengthened, as the participation of the Japanese expert is currently needed depending on the complexity of the events. All divisions have the limited capacity in formulating the strategic pla
		Financial sustainability	At the Project Phase 1, the LJC was dependent on the subsidy of JICA, and even at the beginning of the Project Phase2 (FY2005/2006), 59.6% of its operating cost was covered by JICA. Currently, however, as a result of profit-making efforts, the Lao side has improved financial sustainability, leading to 63% until the autumn of 2009, compared with 23% in FY2005/2006.
		technical sustainability	LJC has attained a certain level of technical sustainability. As for the business course, most lecturers are from FEBM, so their skill and knowledge have been improving through teaching experience at LJC. As for the Japanese Division, the Lao teachers are capable of teaching the basic classes; however, they have a limited capacity in (1) teaching the intermediate classes and (2) designing the courses (making a curriculum, syllabus, etc.). The mutual understanding division can conduct routine events including origami class and fruit curving.
		facilities/machinery	Equipments are properly maintained so far.



Organization Chart of Lao-Japan Center (As 05. 01. 2010)

1. List of Dispatched Japanese Experts

(1) Long Term Expert

	Name	Title	Term (Y/M/D)
1	鈴木 信一 Mr. Shinichi SUZUKI	Chief Advisor	2002/9/7~2007/3/17
2	佐藤 幹治 Mr. Mikiharu SATO	Chief Advisor	2007/4/18~2010/8/31
3	内田 ナナ Ms. Nana UCHIDA	Advisor of Japanese Language Course	2003/9/15~2005/9/14
4	増田 貴美子 Ms. Kimiko MASUDA	Project Coordinator	2004/9/21~2006/9/21
5	平田 好 Ms. Yoshimi HIRATA	Advisor of Japanese Language Course	2005/9/2~2008/9/1
6	幸喜 仁 Mr. Jin KOKI	Project Coordinator	2006/10/18~2008/10/23
7	花園 千波 Ms. Chinami HANAZONO	Advisor of Mutual Understanding Activities	2006/1/16~2009/1/15
8	岩館 裕 Mr. Hiroshi IWADATE	Project Coordinator	2008/10/2~2010/8/31
9	三好 陽 Mr. Akira MIYOSHI	Advisor of Mutual Understanding Activities	2009/3/26~2010/8/31
10	野村 ゆみ子 Ms. Yumiko NOMURA	Advisor of Japanese Language Course	2008/8/21~2010/8/20

(2) Short Term Expert

	Name	Title	Term (Y/M/D)
1	野本 直記 Mr. Naoki NOMOTO	International Trading and Marketing	2005/08/18~2005/09/04
2	竹山 隼 Mr. Hayato TAKEYAMA	Business Course Management/Production Management/Business Diagnosis	2006/01/08~2006/03/04
3	関 忠夫 Mr. Tadao SEKI	Operational Management/Business Diagnosis	2006/09/23~2006/10/22
4	廣畑 伸雄 Mr. Nobuo HIROHATA	Business Diagnosis/Baseline Survey	2006/09/23~2006/10/07
5	関 忠夫 Mr. Tadao SEKI	Operational Management/Business Diagnosis	2006/12/10~2007/02/22
6	喜多 忠文 Mr. Tadafumi KITA	On Site Guidance/Production Management	2007/01/07~2007/03/12
7	栄 和教 Mr. Kazunori SAKAE	On Site Guidance/Practical Skill	2007/01/12~2007/01/28
8	関 忠夫 Mr. Tadao SEKI	Operational Management/Business Diagnosis	2007/06/03~2007/07/17
9	栄 和教 Mr. Kazunori SAKAE	On Site Guidance/Practical Skill	2007/06/04~2007/06/24
10	中西 哲夫 Mr. Tetsuo NAKANISHI	On Site Guidance/Production Management	2007/07/08~2007/08/26
11	関 忠夫 Mr. Tadao SEKI	Operational Management/Practical Skill (Top Management Course)	2007/09/16~2007/09/30
12	栄 和教 Mr. Kazunori SAKAE	On Site Guidance/Practical Skill	2007/11/04~2007/12/13
13	中西 哲夫 Mr. Tetsuo NAKANISHI	On Site Guidance/Practical Skill	2007/11/04~2007/12/23
14	関 忠夫 Mr. Tadao SEKI	Operational Management/Practical Skill (Top Management Course)	2008/01/10~2008/02/14
15	吉川 晴喜 Mr. Seiki YOSHIKAWA	Simple Baseline Survey	2009/01/05~2009/01/28
16	宇野 茂 Mr. Shigeru UNO	Simple Baseline Survey	2009/01/05~2009/01/28
17	吉川 晴喜 Mr. Seiki YOSHIKAWA	Operational Management	2009/02/15~2009/05/03

18	廣畑 伸雄 Mr. Nobuo HIROHATA	Operational Management for MBA	2009/02/18~2009/03/08
19	福代 和宏 Mr. Kazuhiro FUKUYO	MBA "Management of Technology(MOT)"	2009/02/22~2009/03/08
20	榮 和教 Mr. Kazunori SAKAE	On Site Guidance/ Production Management (for garment industry)	2009/03/01~2009/04/05
21	山本 俊夫 Mr. Toshio YAMAMOTO	Practical Marketing	2009/03/15~2009/04/12
22	清水 剛 Mr. Tsuyoshi SHIMIZU	On Site Guidance/ Production Management (Part I)	2009/03/30~2009/05/03
23	廣畑 伸雄 Mr. Nobuo HIROHATA	MBA "Investment Management"	2009/04/26~2009/05/11
24	福山 哲郎 Mr. Tetsuo FUKUYAMA	Strategic Management (Top Management Course)	2009/05/20~2009/05/31
25	吉川 晴喜 Mr. Seiki YOSHIKAWA	Operational Management	2009/05/20~2009/08/29
26	榮 和教 Mr. Kazunori SAKAE	On Site Guidance/Quality Control	2009/05/31~2009/07/05
27	福山 哲郎 Mr. Tetsuo FUKUYAMA	Business Plan (Top Management Course)	2009/06/24~2009/07/05
28	清水 剛 Mr. Tsuyoshi SHIMIZU	On Site Guidance/Production Management(Part II)/ Production Management(Part III)	2009/07/07~2009/08/30
29	山本 光世 Mr. Mitsuyo YAMAMOTO	MBA "Entrepreneurship"	2009/07/13~2009/08/02
30	廣畑 伸雄 Mr. Nobuo HIROHATA	Operational Management for MBA	2009/07/16~2009/07/26
31	戸田 長作 Mr. Chosaku TODA	MBA "Global Business Environment"	2009/07/23~2009/08/18
32	山本 俊夫 Mr. Toshio YAMAMOTO	Practical Marketing	2009/08/03~2009/08/30
33	廣畑 伸雄 Mr. Nobuo HIROHATA	Operational Management for MBA	2009/08/23~2009/09/02
34	吉川 晴喜 Mr. Seiki YOSHIKAWA	Operational Management	2009/10/21~2009/12/08
35	山本 光世 Mr. Mitsuyo YAMAMOTO	MBA "Project Management"	2009/10/26~2009/11/15
36	清水 剛 Mr. Tsuyoshi SHIMIZU	On Site Guidance/ Production Management (Part I)	2009/11/01~2009/12/06
37	山本 俊夫 Mr. Toshio YAMAMOTO	Practical Marketing	2009/11/02~2009/11/23
38	玉田 光夫 Mr. Mitsuo TAMADA	MBA "Operational Management"	2009/11/10~2009/11/30
39	廣畑 伸雄 Mr. Nobuo HIROHATA	Operational Management for MBA	2009/11/11~2009/11/21
40	廣畑 伸雄 Mr. Nobuo HIROHATA	Operational Management for MBA	2010/01/10~2010/01/20
41	吉川 晴喜 Mr. Seiki YOSHIKAWA	Operational Management	2010/01/10~2010/04/08
42	胡桃沢 利光 Mr. Toshimitsu KURUMIZAWA	Energy Conservation Seminar	2009/11/22 ~2009/11/29
43	岩井 基次 Mr. Mototsugu. IWAI	Energy Conservation Seminar	2009/11/22 ~2009/11/29
44	箕浦 秀樹 Mr. Hideki. MINOURA	Energy Conservation Seminar	2009/11/22 ~2009/11/29
45	宇野 茂 Mr. Shigeru UNO	Energy Conservation Seminar	2009/11/22 ~2009/11/29
46	西田 純 Mr. Jun NISHIDA	Seminar on global economic crisis and manufacturing industry	2010/1/10 ~2010/1/17
47	江崎 秀之 Mr. Hideyuki EZAKI	Economic Crisis Conquest seminar (Non-manufacturing course)	2010/1/10 ~2010/1/17
48	今村 正孝 Mr. Masataka IMAMURA	How to improve your ability to examine loan applications	2010/2/14 ~2010/2/19

The List of the Counterpart Personnel Training Programs in Japan

(1) Business Course

JFY	Name/Organization	Term (Y/M/D)	Objective
2008/2009	Mr. THIPDUANGCHAY Anousone Project Manager of Off-Grid and Power to the poor/Electrical Construction and Installation, State Enterprise, Ministry of Energy and Mining	2009/10/13~11/1	To learn the Japanese-style management and Japanese-style production management (5S, KAIZEN, TQC) through the visits to the active SMEs in Japan.
	Mr. THIPDAVANH Phosy Head of Business Management Department/Faculty of Economics and Business Management, National University of Laos		
	Mr. LUANGPRASEUTH Somvang Sales Executive/Sales Department, DATACOM Co., Ltd.		
	Mr. DOUANGNGEUNE Bounlouane Deputy Director/Lao-Japan Human Resource Cooperation Center, National University of Laos		
	Ms. KHAMPHOUNVONG Phouheuang Deputy Head of Treasury Section/BCEL, Treasury and International Service Division		
2007/2008	Mr. Khamphouy Inthavong Administration Manager, The Pharmaceutical Development Center (Pharmaceutical Factory No3)	2007/9/25~10/16	1. To learn the mechanism of the market economy. 2. To understand the business management and the talent promotion system. 3. To acquire the necessity to lose seven uselessness by the execution of 5S activity.
	Ms. Kittivong Phouthaline Deputy Manager, Pecoteam Electric Engineering Company Ltd.		
	Ms. Laddaphone Khantiyavong Head of Business course Unit, Business course Division, The National University of Laos, the Lao-Japan Center		
2006/2007	Mrs. Manisothe Koodara Director General, Lao-Japan Human Resource Cooperation Center, National University of Laos	2007/2/6~2/27	1. To understand the feature of Japanese Companies 2. To learn didactics and the syllabus of the business course in the similar organization of Japanese center and the organization 3. To understand the realities of the business through the case by the industry-university-government cooperation.
	Mr. Khampeui Phommachanh Deputy Director of Business Management Department, National University of Laos		
	Mr. Thongvanh Sirivanh Vice Dean, Faculty of Economics and Business Management National University of Laos		
	Ms. Phinsavath Southanom Head of Business Course Division, Lao-Japan Human Resource Cooperation Center, National University of Laos	2006/11/19~12/9	To acquire more advanced management technique at business course of Japan center by understanding the realities of Japanese company Management.
	Mr. Southitham Soubanh Deputy Head of Business Course Division, Lao-Japan Human Resource Cooperation Center, National University of Laos		
	Mr. Souliya Sengdalavong Business Course Staff and Computer Training Manager, The Lao-Japan Human Resource Cooperation Center, National University of Laos		
2006/2007	Mr. Khouanetyphong Douanevanh IT Officer, ERP Project Manager Lao Brewery Company Ltd.	2006/10/1~10/14	1. To understand what the market economy is 2. To understand the mechanism of the market economy 3. To learn what kind of effort is made at human-resources development and quality control by the companies under the free competition
	Ms. Pannaly Khothvong Accountant, That Luang tour Company		
	Mr. Boonmeng Siraakoon Deputy Head of Research and Post Graduate Division, Faculty of Economics and Business Management, National University of Laos		
2005/2006	Mr. Manysot Lianepaseuth Deputy Head of Business Management Dept., Faculty of Economics and Business Management, National University of Laos	2006/3/9~3/25	1. To understand the mechanism of the market economy in Japan 2. To raise the entrepreneurship which can challenge new business 3. To improve each one of business plans 4. To improve the management capabilities
	Mr. Southitham Soubanh Deputy Head of Business Division, Counterpart, The Lao-Japan Human Resource Cooperation Center, National University Laos		
	Mr. Khanti Sithisack Business Administrator, Lao Group Proprietary Ltd.		
	Ms. Anoulack Pholsena Assistant Manager, Sekong Handicraft Promotion Enterprise Sekong		

(2) Mutual Understanding Activities / Administration

JFY	Name/Organization	Term (Y/M/D)	Objective
2009/2010	Ms. Vadsana VONGPHACHANH Head, Planning & External Unit, The Lao-Japan Human Resource Cooperation Center, National University of Laos	2009/7/1~7/18	1.Acquisition of Efficient Operation and Management Methods of Administrative Division 2.Capacity Building/ Enlightenment 3.Learning on how a leader should be and Acquisition of Leading Method of Subordinates
	Mr.Somphone PHANKHAM Head, ADM Division, The Lao-Japan Human Resource Cooperation Center, National University of Laos	2010/1/28~2/4	1. Learn Japanese culture and society and to acquire the management know-how 2. Leverage the knowledge at the LJC to manage the activities effectively.
2008/2009	Ms. Khamphoui Vilasouk Head, E/A Management Unit, The Lao-Japan Human Resource Cooperation Center, National University of Laos	2008/11/9~11/28	1. To be able to plan & organize the mutual understanding activities through further understanding of Japan. 2. Understand JICA and the organizations similar to the Japan Center. 3. Understand a scheme to support the foreign students studying in Japan in order to be able to provide the related information at the Center.
	Ms. Souaycharnta RAXAKOUL Head, Library Unit, The Lao-Japan Human Resource Cooperation Center, National University of Laos	2008/12/2~12/18	1. To be able to plan & organize the library activities through further understanding of Japan. 2. Understand JICA and the organizations similar to the Japan Center. 3. Understand a scheme to support the foreign students studying in Japan in order to be able to provide the related information at the Center.
2007/2008	Ms.Viengamphay Sichanthongthip Head, Public Relation Unit, The Lao-Japan Human Resource Cooperation Center, National University of Laos	2007/6/19~7/11	1.To obtain the general knowledge and practical skills on public relations. 2.To understand the PR activity in relevant organizations to JICA and Japan Center. 3 .To deepen understanding of Japan and to establish harmonious and partnership relations with Japanese organizations.
2006/2007	Ms. Somchay Phetlamphan Deputy Director, The Lao-Japan Human Resource Cooperation Center, National University of Laos	2007/1/16~2/3	1. To give an opportunity for each participant to reflect on the management system of their center , so that they can have a clear view on their problems to be solved by joining the training in Japan. 2. To share the knowledge on the job and the problems that the staff of other Japan Center face , so that each participant can apply new ideas to perform more efficiently in their respective post.
	Ms. Souksakhone Sengsoulivong Deputy Head, ADM Division, The Lao-Japan Human Resource Cooperation Center, National University of Laos		
	Mr. Khenthong Phengvongsa Deputy Head, Exchange Activity & Information Division, The Lao-Japan Human Resource Cooperation Center, National University of Laos	2006/10/3~10/18	1. To give an opportunity for each participant to reflect on their own role and performance , so that they can have a clear view on their problems to be solved by joining the training in Japan. 2. To share the knowledge on the job and the problems that the staff of other Japan Center face , so that each participant can apply new ideas to perform more efficiently in their respective post.
2005/2006 (Since Sep 2005)	Ms.Bounsong KHANTHALY Head, ADM Division, The Lao-Japan Human Resource Cooperation Center, National University of Laos	2005/11/7~11/19	To propose future plan for evaluating the effectiveness of Cooperation project between Mutual Understanding Program and Japanese Language Course.
	Ms.Somphou VONGSA Student, National University of Laos		
	Ms.Mathina PHOUMARINO Student, National University of Laos		
	Ms.Bountoum THAMMAVONGSA Head, Exchange Activity & Information Division, The Lao-Japan Human Resource Cooperation Center, National University of Laos		

The Operating Cost of the LJC

2008/2009 Revenue and Expenditure

LJC Revenue		2005/2006	2006/2007	2007/2008	2008/2009	2009(Apr.- Sep.)
	Business Course	21,940	14,086	54,630	54,177	6,316
	Japanese Language	14,250	19,110	18,916	14,076	12,926
	Computer Course	5,861	4,596	8,323	5,966	2,296
	Cultural Exchange	0	449	7,810	32,694	26,360
	Media Room	7,385	5,140	3,394	2,802	1,528
	Room Rental Fee	1,732	1,811	123	1,220	15,188
	Telephone Fee	1	3	3	0	0
	Others	4,822	4,535	7,146	6,551	4,009
	Interest Earned	4,500	4,085	5,316	78	81
	LJC Revenue (A)	\$60,491	\$53,815	\$105,661	\$117,565	\$68,704
	MBA Program				\$55,273	\$62,344
	Total LJC Revenue (B)	\$60,491	\$53,815	\$105,661	\$172,838	\$131,048
LJC Expenditure		2005/2006	2006/2007	2007/2008	2008/2009	2009(Apr.- Sep.)
	NUOL Expenditure (C)	\$46,834	\$49,262	\$47,757	\$48,103	\$25,532
NUOL Expenditure	Emolument	5,668	6,586	8,498	12,348	8,895
	Electricity & Water	41,166	42,676	39,259	35,755	16,637
	Ratio of the LJC Expenditure	17.3%	16.7%	14.4%	11.1%	12.6%
	JICA/Project Expenditure (D)	\$161,020	\$170,996	\$163,149	\$214,678	\$73,251
JICA/Project Expenditure	Ratio of the LJC Expenditure	59.6%	58.0%	49.1%	49.4%	36.2%
LJC Expenditure	Honorarium	19,028	20,412	58,985	69,316	12,151
	Equipment	900	2,359	1,585	6,132	0
	Supplies	9,422	8,883	12,894	11,490	6,154
	Utilities	3,635	8,188	790	652	364
	Transportation	1,823	7,301	5,455	12,492	1,838
	Communication	1,176	1,472	3,035	3,903	1,292
	Printing	6,463	5,391	834	6,956	585
	Rental	0	0	0	512	360
	Employment	18,013	15,546	33,347	24,723	10,438
	Meeting	255	3,697	2,589	4,633	1,270
	Maintenance of Facilities	0	56	125	360	624
	Maintenance of Equipment	1,515	636	1,436	1,611	971
	Others	4	490	409	10,278	21,733
		LJC Expenditure (E)	\$62,234	\$74,431	\$121,484	\$153,059
MBA Program				\$18,792	\$45,903	
	LJC + MBA Expenditure (F)	\$62,234	\$74,431	\$121,484	\$171,851	\$103,683
	Ratio of the LJC + MBA Expenditure	23.0%	25.3%	36.5%	39.5%	51.2%
	Total LJC Expenditure (F)	\$270,088	\$294,689	\$332,390	\$434,631	\$202,466

Ratio	2005/2006	2006/2007	2007/2008	2008/2009	2009(Apr.- Sep.)
Ratio of the Total LJC revenue to the Total LJC expenditure (B/F)	22.4%	18.3%	31.8%	39.8%	64.7%

Ratio	2005/2006	2006/2007	2007/2008	2008/2009	2009(Apr.- Sep.)
Ratio of the Cost share by the Lao side (Ratio of the NUOL Expenditure + ratio of the LJC Expenditure)	40.4%	42.0%	50.9%	50.6%	63.8%

THE BUSINESS COURSE

The Reporting Period: September 2005 ~ February 2010

The regular business courses: Total 4 courses, 466 participants
The short business courses: Total 48 courses, 1,080 participants
The FEBM-LJC Joint MBA Program: Total 6 courses, 35 students (1st Batch)
Total 4 courses, 38 students (2nd Batch)
The on-site guidance & counseling: Total 4 subjects, 54 participating companies

1. The Regular Business Course

No. of Course	Subject	Period	Day/ Time	Number of Participant	Remark
1	13 th Regular Business Course part I	3 Oct ~ 25 Nov, 2005	Mon ~ Thu (22.5 hrs/ subject)	55	Special lectures were organized on some Fridays (by visiting lecturers who have excellent experiences from both governmental and private sectors) (Total: 14 times)
1	13 th Regular Business Course part II	28 Nov, 2005 ~ 3 Feb, 2006		77	
1	14 th Regular Business Course part I	27 Feb ~ 21 Apr, 2006		58	
1	14 th Regular Business Course part II	24 Apr ~ 15 Jun, 2006		113	
1	15 th Regular Business Course part I	5 Sep ~ 21 Oct, 2006		36	
1	15 th Regular Business Course part II	30 Oct ~ 19 Dec, 2006		51	
1	16 th Regular Business Course part I	19 Feb ~ 13 Apr, 2007		37	
1	16 th Regular Business Course part II	23 Apr ~ 15 Jun, 2007		39	
Total courses:				8	courses
Total number of participant:				466	people

2-1. The Short Courses (Sep 2005 – May 2008)

No. of Course	Subject	Period	Day / Time	Number of Participant	Remark
4	Intensive Course for Technical Colleges	Jul – Sep 2003	Mon - Fri 8:30 ~ 16:30	35	The special intensive training program for the business course teachers of the Technical Colleges during the semester holiday seasons (10 Subjects)
		Jul – Sep 2004		32	
		1 Aug -9 sep 2005		33	
		31 July – 1 Sep 2006		29	
2	Business English	March 2006	Sat – Sun 8:30-12:00 (12 Hrs)	12	Organized for general people
		December 2006		15	
		Apr 29 to May 5, 2008		15	
1	Human Resource & Leadership	1 ~ 2 November, 2006	8:30 ~ 16:30	45	Participants were staff of NUOL
1	Challenges in accessing to international market of Lao entrepreneurs	7 November, 2006	8:30 ~ 17:00	42	Participants were business men & civil servant staffs from concerned state organization
2	Practical Skill Course	15 ~ 26 January 2007	Mon, Wed and Fri 17:30 ~ 20:45 (15 hrs)	10	Providing these courses beside consultation and on-site training. Special for garment factory area by expert from Japan
				21	
4	Production Control Course	18 Jul - 5 August 2005	Mon, Wed and Fri 17:30 ~ 20:45 (30 hrs)	35	Providing these courses beside consultation and on-site training for manufacturing companies , Lectured by expert from Japan
		5 Feb ~ 3 Mar 2007		36	
		9 ~ 24 August 2007		36	
		6-21 December 2007		12	

ANNEX 4

1	Quality Control Course	27 Nov ~ 5 Dec 2007	Mon – Fri 17:30 ~ 20:45 (18 hrs)	45	Providing this course beside consultation and on-site training. Special for garment factory area by expert from Japan
2	Intensive Business Management Course * Program 1: Production Management, Marketing & Business Communication skills) ** Program 2: International Trade, Accounting, Finance	27Aug – 1 Sep 2007 12 – 17 November 2007	6 days 8:30 – 16:30 (36 hrs)	25 28	This course was organized in Savannakhet Province, Participants were local business men, technical collage teachers, civil servant staffs from some state organizations
1	Special seminar on "Approach to Productivity, and cost ~Japanese Experience~"	4 September 2007	Morning session (3 hrs)	20	Lectured by Mr. Inoue, expert from Japan Productivity center for Socio-economic development
1	Japanese Style of Production Management	19 – 28 Sep 2007		10	Taught by LJC lecturer
1	Principle of Marketing	1 – 10 Oct 2007		16	Taught by FEMB lecturer
1	General Accounting	31 Oct -9 Nov 2007		13	Taught by FEMB lecturer
2	Training for JOCV	Oct 1 ~ Nov 2, 2007 Nov19 ~ Dec 14, 2007	Day time (80 hrs)	5 1	Lecturers from LJC & FOL
1	Special seminar for the Top Managers of manufacturing company	28 Jan – 1 Feb 2008	Day time & night time (15 Hrs)	7	almost all participants were top managers from manufacturing companies

Total courses: 24 courses
Total number of participant: 578 people

2-2. The Short Courses (April 2008-February 2010)

Subject	Period	Day/Time	Lecturer	Number of Participant	Contents
Business Correspondence	2008/4/29 ~5/6	(Mon~Fri) 17:00 - 20:00	Faculty of Letters	15	Business Correspondence in English
Intensive Course in Savanakheth Province	2008/7/21 ~7/25	(Mon~Fri) 8:30 - 16:15	LJC Staff	17	Organization Behavior Management, Project Management
Business Course	2008/8/25 ~8/29	(Mon~Fri) 8:30 - 16:15	LJC Staff	34	Organization Behavior Management, Project Management
Business Course	2008/8/18 ~8/22	(Mon~Fri) 8:30 - 16:15	LJC Staff	23	Organization Behavior Management
Business Course	2008/9/8 ~9/12	(Mon~Fri) 8:30 - 16:15	LJC Staff	30	Human Resource Management
Business Course	2008/9/1 ~9/5	(Mon~Fri) 8:30 - 16:15	LJC Staff	17	Japanese Style Production Management
Business plan	2008/11/11 ~15	(Mon~Fri)17:30-20:45 (Sat)9:00-12:00	FEBM lecturers	22	
Production Control (for garment industry)	2009/3/16 ~20	(Mon~Fri) 17:30-20:45	Mr. K.Sakae (Japan Economic Research Institute)	25	
Practical Marketing (First time)	2009/3/23 ~27, 30 ~4/3	(Mon~Fri) Evening Course 17:30-20:45	Mr.T.Yamamoto (Excel International Co.)	28	
Production management (Part I)	2009/4/6 ~10, 4/24 ~30	(Mon~Fri) 17:30-20:45	Mr.T.Shimizu (Excel international Co.)	24	5S & Visual management

ANNEX 4

Top Management Course "Strategic Management"	2009/5/25 ~29	(Mon~Fri) 17:30-20:45	Mr. T.Fukuyama (Truspire)	14	Strategic business plan process, Basic of business and entrepreneur, Positioning, Data gathering, Analysis, Operations and Assumptions, and financial appraisal.
Quality Control	2009/6/15 ~19	(Mon~Fri) 17:30-20:45	Mr. K.Sakae (Japan Economic Research Institute)	13	Basic knowledge of QC, Production process and quality management factories, Methods and steps to management quality, 7 QC tools
Strategic Management	2009/6/22 ~29	(Mon~Fri) 17:30-20:45	Ms. Southanom (LJC Lecturer)	8	SWOT Analysis
Top Management Course "Business Plan"	2009/6/29 ~7/3	(Mon~Fri) 17:30-20:45	Mr. T.Fukuyama (Truspire)	25	
Production Management (Part II)	2009/7/13 ~17、27 ~31	(Mon~Fri) 17:30-20:45	Mr.T.Shimizu (Excel international Co.)	34	Field Improvement
Production Management (Part III)	2009/8/10 ~14、24 ~28	(Mon~Fri) Evening Course 17:30-20:45	Mr.T.Shimizu (Excel international Co.)	14	Fundamentals of Production
Practical Marketing (second time)	2009/8/10 ~14、17 ~21	(Mon~Fri) Evening Course 17:30-20:45	Mr.T.Yamamoto (Excel International Co.)	26	
Practical Marketing (Third time)	2009/11/9 ~13、16 ~20	(Mon~Fri) Evening Course 17:30-20:45	Mr.T.Yamamoto (Excel International Co.)	35	
Production management (Part I)	2009/11/9 ~13、23 ~27	(Mon~Fri) 17:30-20:45	Mr.T.Shimizu (Excel international Co.)	17	5S & Visual management
Energy Conservation Seminar	2009/11/125 ~26	9:00-17:00 on 25 9:00-12:00 on 26	Mr.T. Kurumizawa, Mr. M. Iwai and Mr. H. Minoura (Excel international Co.)	43	The global warming issue and the global trend of CO2 reduction. Energy-saving system in Japan and technical know-how of energy-saving diagnosis. Introduction of energy-saving technologies.
Seminar on global economic crisis and manufacturing industry	2010/1/12 ~13	9:00-17:00	Mr. J. Nishida (Japan Development Service Co., Ltd.)	21	Economic cycle and crisis in Japan. Transformation of SMEs, transformation of industrial structure and local government.
Economic Crisis Conquest seminar (Non-manufacturing course)	2010/1/13 ~14	9:00-17:00	Mr. H. Ezaki (Management Assistance Co., Ltd.)	17	Economic situation of Japanese non-Manufacture industries in past crisis. Case study of Japanese industry.
How to improve your ability to examine loan applications	2010/2/16 ~18	8:30-16:30	Mr. M. Imamura (Japan Development Service Co., Ltd.)	TBD	Introduction and Overview of Finance. Practical framework of SME finance. Risk control and Internal rating (Japanese cases). Loan and equity. Case studies

‡Total courses: 23 courses
‡Total number of participant: 502 people

3. The FEBM-LJC Joint MBA Program

First Batch

No. of Cours	Subject	Period	Day / Time	Number of Participant	Lecturer
1	Management of Technology	2009/9/16~	Mon~Fri 17:30-20:45	35	Mr. K. Fukuyo (Yamaguchi Univ.)
1	Investment Management				Mr.N.Hirohata (Yamaguchi Univ.)
1	Entrepreneurship				Mr. M.Yamamoto (JOHNAN Co.)
1	Global Business Environment				Mr. C. Toda (Excel International Co.)
1	Project Management				Mr. M.Yamamoto (JOHNAN Co.)
1	Operational Management				Mr. M.Tamada (Truspire)

Total courses: 6 courses

Total number of participant, 1st batch: 35 people

Second Batch

No. of Cours	Subject	Period	Day / Time	Number of Participant	Lecturer
1	Managerial Accounting	2009/9/19~	Mon~Fri 17:30-20:45	38	Mr. Khamphouy
1	Managerial Economics				Dr. Bounlouane
1	Business Statics				Mr. Thongphet
1	Human Resource Management				Dr. Manisoth

Total courses: 4 courses

Total number of participant, 2 nd batch: 38 people

4. The On-site Guidance & Counseling

Category	Subject	Period	Number of Participant	Remark
Factory Diagnosis & On-Site Consultation	Production management	2007/9/17 ~9/29	7	Mr. Seki
	Production management	2007/6/18 ~7/12	4	Mr. Seki
	Production management	2007/6/18 ~8/22	7	Mr. Nakanishi
	Production management(garment)	2007/6/4 ~6/25 2007/6/18 ~6/25	2	Mr. Sakae
	Production management	2007/6/4 ~6/25	4	Mr. Seki
	Production management	2009/3/1~4/5, 5/31~7/5	2	Mr. K.Sakae
	Production management	2009/3/30~5/3, 7/7~8/30, 11/1~12/6	9	Mr. T.Shimizu
	Marketing	2009/3/15~4/12, 8/3~8/30, 11/2~11/23	18	Mr. T.Yamamoto
	Top management	2009/5/20~5/31	1	Mr. T.Fukuyama

¶Total number of participating companies: 54 companies

Number of Computer Training Course's Participants
September 2005 ~ September 2009

Update: 23-Oct-09

No	Course Description	Course Level	Y. 2005		Y. 2006		Y. 2007		Y. 2008		Y. 2009	
			No. Course	No. Student	No. Course	No. Student	No. Course	No. Student	No. Course	No. Student	No. Course	No. Student
1	Free Course for CIVIL Servan staff - Ministies, NUOL & other organizations	Basic	8	165	5	81						
		Intermediate	8	174								
		Advance	1	20								
	Total		17	359	5	81						
2	Collect tuition fee Course for the Students and Public - Mainly NUOL Students - Intensive Course	Basic	9	188	4	92	5	94	8	119	8	112
		Intermediate	1	24	7	135	2	34	3	45		
		Advance					4	79	8	119		
		Advance	1	22			1	25	1	25		
		Total	11	234	11	227	12	232	12	232	20	308
	Grand Total		28	593	16	308	12	232	20	308	8	112

Remark:

- # Basic course: Microsoft Office 2003 "Word & Excel"
- # Intermediate course: Microsoft Office Power Point and Introduction to Internet
- # Advance course: Maintenance & Troubleshooting, Website design & Photoshop, MS Access & SQL Server

Year	Participants	Total
2005	593	1553
2006	308	
2007	232	
2008	308	
(Jan. ~ Sept.) 2009	112	

The Japanese Course

Total number of the students from September 2005-March 2010: 1,996

Table of the number of Japanese course students for year 2005-2006

The 1st term from 24/9/2005-22/12/2005

class	B1	B2	B3	B4	B5	B6a	B6b	In2	In4	G	Total
Number	18	22	22	15	9	15	24	14	8	6	153

The 2nd term from 9/1/2006-31/3/2006

class	B1	B2	B3	B4	B5	B6	InA	In3	TT	Total
Number	21	22	20	18	14	13	19	6	6	139

The 3rd term from 24/4/2006-21/7/2006

class	B1	B2	B3	B4	B5	B6	InB	TT	Total
Number	18	18	17	16	15	14	19	6	123

Total of student in 3 terms: 415

The other special classes

Class for Invitation Program(High school Essay Contest) on 26/6/2006(3 hou

Times	26/6/2006(3hours)	Total
Number	6	6

Youth Invitation Program Class

Times	1st(19/11/2005)	2nd (1/9/06-15/7/06(2 days))	Total
Number	20	10	30

Class for Software company's officer

Times	7/3/06-25/8/06	Total
Number	3	3

Hiragana Class(BO)

Times	1st(17/2/06-25/3/06)	2nd(9/6/06-15/7/06)	3rd(21/8/06-18/9/06)	Total
Number	29	20	30	79

Total of students in special course : 118

Total of students in Year 2005-2006 : 533

Table of the number of Japanese course students for year 2006-2007

The 1st term from 24/9/2005-22/12/2005

class	B1	B2	B3	B4	B5	B6	InA	InC	TT	Total
Number	24	16	19	14	13	14	10	12	3	125

The 2nd term from 9/1/2006-31/3/2006

class	B1	B2	B3	B4	B5	B6	InA	InB	Total
Number	22	24	22	16	14	11	14	13	136

Total of student in 2 terms: 261

The other special classes

JLPT class(3Q)

3Q	1/3/07-12/7/07	Total
Number	16	16

Hiragana class(BO)

Times	1st(15/12/06-01/2007)	2nd(2/6/07-7/2007)	3rd(13/7/07-18/8/07)	Total
Number	25	18	18	61

Japanese Cooking Class(CC)

CC	19/10/06-10/3/07	Total
Number	5	5

Japanese Short term course(24 hourse) for JDS

JDS	17/3/07-16/6/07	Toal
Number	36	36

Total of students in special course : 118

Total of students in Year 2006-2007 : 379

Table of the number of Japanese course students for year 2007-2008

The 1st term from 24/9/2007-8/2/2008

class	B1	B2	B3	B4	B5	B6	InA	InC	TT	Total
Number	20	19	18	12	8	11	5	10	6	109

The 2nd term from 4/3/2008-11/7/2008

class	B1	B2	B3	B4	B5	B6	InA	InB	TT	Total
Number	20	19	12	9	9	6	9	8	6	98

Total of student in 2 terms: 207

The other special classes**JLPT class (3Q)**

3Q	24/10/07-28/11/07	Total
Number	16	16

Hiragana class(BO)

Times	1st(30/11/07-26/1/08)	Total
Number	23	23

Class for Jenesys Program

BO	10/3/08(3 hours)	Total
Number	30	30

Class for Midori anzen's officer(SPI/SPB)

	30/8/07-31/10/07		Total
Class	SPI	SPB	
Number	1	3	4

Total of students in special course :	73
---------------------------------------	----

Total of students in Year 2007-2008 :	280
---------------------------------------	-----

Table of the number of Japanese course students for year 2008-2009

The 1st term from 29/9/2008-20/2/2009

class	BP	B1	B2	B3	B4	B5	B6	InA	InB	InC	Total
Number	14	29	21	19	7	8	6	6	6	3	119

The 2nd term from 10/3/2009-24/7/2009

class	BP	B1+	B2	B3	B4	B5	B6	In	TT	Total
Number	29	8	27	19	14	5	9	15	4	130

Total of student in 2 terms:	249
------------------------------	-----

The other special classes**Class for Japanese Language ability test(2nd grade)**

Times	1/10/08-5/12/08(1hx2)	Total
Number	16	16

Hiragana Class (BO)

Times	18/8/08-3/9/08(2hx12)	28/7/08-12/8/08(2hx12)	Total
Number	20	28	48

Class for JENESYS Program

Times	29/6/08(2hours)	13/1/09(2hourse)	23/1/09(2hourse)	Total
Number	70	20	40	130

Special class for the SVA trainee

Times	11/8/08-21/8/08(2hx9)	Total
Number	1	1
Total of students in special course :		195

Total of students in Year 2008-2009 :	444
---------------------------------------	-----

Table of the number of Japanese course students for year 2009-2010

The 1st term from 17/8/2009-19/10/2009 and from 4/1/2010-19/3/2010(1st Term 17/8/09-19/3/10)

17/8/2009-19/10/2009

class	BM	B1.1	B1.2	B2	B3.1	B3.2	B4	B5	B6	In3Q	In2Q	Total
Number	31	20	13	33	18	17	10	10	3	4	14	173

4/1/2010-19/3/2010

class	B1a	B1b	B1c	B2	B3.1	B3.2	B4	B5	B6	In A	In B	Total
Number	17	9	23	24	17	15	10	8	3	3	3	132

Total of student in 2 terms:	305
------------------------------	-----

The other special classes**Class for Jenesys Program**

Times	7/2/2010(2 hours)	Total
Number	55	55

Total of students in special course :	55
---------------------------------------	----

Total of students in Year 2009-2010 :	360
---------------------------------------	-----

The Culture Exchange Activity: List of activities 2006
January 2006- December 2006

No.	activity name	activity date	No. participants	To who we organize	Where
1	Fruit carving class	2006/1/7	19	LJC club member	LJC
2	Lao Dance class	2006/1/7	17	LJC club member	LJC
3	Fruit carving class	2006/1/14	17	LJC club member	LJC
4	Lao Dance class	2006/1/14	20	LJC club member	LJC
5	Yukata wearing class	2006/1/15	8	LJC staff	LJC
6	Kimono wearing class	2006/1/21	4	LJC staff	LJC
7	JPN movie show	2006/1/21	59	Lao, Japanese people	LJC
8	Fruit carving class	2006/1/21	13	LJC club member	LJC
9	Lao Dance class	2006/1/21	18	LJC club member	LJC
10	Kimono wearing class	2006/1/28	4	LJC staff	LJC
11	Fruit carving class	2006/1/28	16	LJC club member	LJC
12	Lao Dance class	2006/1/28	17	LJC club member	LJC
13	Kimono wearing class	2006/2/4	4	LJC staff	LJC
14	Fruit carving class	2006/2/4	17	LJC club member	LJC
15	Girls Festival display	2006/2/22-3/3	250	Lao students	LJC
16	Kimono wearing class	2006/2/11	4	LJC staff	LJC
17	JPN movie show	2006/2/11	111	Lao, Japanese people	LJC
18	Fruit carving class	2006/2/11	15	LJC club member	LJC
19	Lao Dance class	2006/2/11	14	LJC club member	LJC
20	Kimono wearing class	2006/2/18	4	LJC staff	LJC
21	Fruit carving class	2006/2/18	14	LJC club member	LJC
22	Lao Dance class	2006/2/18	6	LJC club member	LJC
23	Kimono wearing class	2006/2/25	4	LJC staff	LJC
24	Fruit carving class	2006/2/25	12	LJC club member	LJC
25	Lao Dance class	2006/2/25	12	LJC club member	LJC
26	Fruit carving class	2006/3/4	19	LJC club member	LJC
27	Lao Dance class	2006/3/4	25	LJC club member	LJC
28	JPN cooking class	2006/3/11	15	LJC staff, JPN course students	LJC
29	Fruit carving class	2006/3/11	15	LJC club member	LJC
30	Lao Dance class	2006/3/11	24	LJC club member	LJC
31	Seminar on Laos	2006/3/15	60	LJC club member	LJC
32	Kimono wearing class	2006/3/17	4	LJC staff	LJC
33	Kimono wearing class	2006/3/18	4	LJC staff	LJC
34	Seminar on Laos	2006/3/18	15	Japanese people	LJC
35	Fruit carving class	2006/3/18	11	LJC club member	LJC
36	Lao Dance class	2006/3/18	20	LJC club member	LJC
37	Cooperate to JPN speech contest	2006/3/19	300	LJC club member	National Culture hall
38	Kimono wearing class	2006/3/21	4	LJC staff	LJC
39	Seminar on Japan	2006/3/22	40	JICE essay contest participants	LJC
40	JPN movie show	2006/3/25	124	Lao, Japanese people	LJC
41	Kimono wearing class	2006/3/25	4	LJC staff	LJC
42	Fruit carving class	2006/3/25	18	LJC club member	LJC
43	Lao Dance class	2006/3/25	17	LJC club member	LJC
44	Cooperate to JICAFE opening ceremony	2006/3/31	50	Lao, Japanese people	JICafe
45	Fruit carving class	2006/4/1	10	LJC club member	LJC
46	Lao Dance class	2006/4/2	10	LJC club member	LJC

47	Fruit carving class	2006/4/8	10	LJC club member	LJC
48	Lao Dance class	2006/4/9	10	LJC club member	LJC
49	Fruit carving class	2006/4/22	10	LJC club member	LJC
50	Lao Dance class	2006/4/23	10	LJC club member	LJC
51	Fruit carving class	2006/4/29	10	LJC club member	LJC
52	Children's day display	2006/4/25-5/5	250	Lao students	LJC
53	JPN movie show	2006/4/29	104	Lao, Japanese people	LJC
54	Lao Dance class	2006/5/1	37	LJC club member	LJC
55	LJC 5th year anniversary	2006/5/5	300	Lao, Japanese people	LJC, ITCT
56	Ikebana demonstration	2006/5/4	150	Lao, Japanese people	LJC
57	5th year anniversary: JPN movie(1)	2006/5/13	50	Lao, Japanese people	LJC
58	Fruit carving class	2006/5/13	25	LJC club member	LJC
59	5th year anniversary: JPN movie(2)	2006/5/20	50	Lao, Japanese people	LJC
60	JPN cooking class	2006/5/20	15	LJC staff, JPN course students	LJC
61	Fruit carving class	2006/5/20	20	LJC club member	LJC
62	Seminar on Japan	2006/5/26	10	Youth Union member	LJC
63	5th year anniversary: JPN movie(3)	2006/5/27	30	Lao, Japanese people	LJC
64	Fruit carving class	2006/5/27	19	LJC club member	LJC
65	Karate demonstration	2006/5/30	120	NUOL students, Lao people	LJC
66	Fruit carving class	2006/6/3	20	LJC club member	LJC
67	Lao Dance for Foreigners	2006/6/3	5	Japanese people	LJC
68	Fruit carving class	2006/6/10	21	LJC club member	LJC
69	Fruit carving class	2006/6/10	9	LJC club member	LJC
70	Lao Dance class	2006/6/10	20	LJC club member	LJC
71	Seminar on Laos	2006/6/14	30	Lao people	LJC
72	Seminar on Laos	2006/6/14	14	Japanese people	LJC
73	Seminar on Japan	2006/6/16	5	JICE essay contest winners	LJC
74	Lao Dance for Foreigners	2006/6/17	4	Japanese people	LJC
75	Fruit carving class	2006/6/17	16	LJC club member	LJC
76	Fruit carving class	2006/6/17	5	LJC club member	LJC
77	Lao Dance class	2006/6/17	19	LJC club member	LJC
78	JPN movie show	2006/6/17	134	Lao, Japanese people	LJC
79	Lao Dance for Foreigners	2006/6/24	10	Japanese people	LJC
80	Fruit carving class	2006/6/24	16	LJC club member	LJC
81	Fruit Carving	2006/6/25	10	LJC club member	LJC
82	Lao Dance class	2006/6/26	15	LJC club member	LJC
83	Origami Class	2006/7/1	18	Lao kindergarten, junior school teachers	LJC
84	Fruit carving class	2006/7/1	16	LJC club member	LJC
85	Fruit carving class	2006/7/1	3	LJC club member	LJC
86	Lao Dance class	2006/7/1	12	LJC club member	LJC
87	Tanabata display	2006/7/7	250	Lao students	LJC
88	Orientation, JPN scholarship	2006/7/8	120	Lao students who apply examination	LJC
89	Pre-examination, JPN scholarship	2006/7/8	103	Lao students who apply examination	LJC
90	JPN cooking class	2006/7/15	9	Kumamoto Lao Association member	LJC
91	Cooperation to J-POP concert	2006/7/16	1227	Lao, Japanese people	National Culture hall
92	JPN movie show	2006/7/22	45	Lao, Japanese people	LJC
93	Lao Dance for Foreigners	2006/7/22	5	Japanese people	LJC
94	Tea ceremony demonstration	2006/7/29	11	Women Union member, NUOL	LJC

95	Lao Cooking class	2006/8/5	5	Japanese people	LJC
96	Tea ceremony demonstration	2006/8/19	16	Lao National Front for Construction	LJC
97	Kendo & Karatedo Demonstration	2006/8/22	100	Lao, Japanese people	FEMB, NUOL
98	JPN movie show	2006/8/26	29	Lao, Japanese people	LJC
99	Lao Dance for Foreigners	2006/8/26	8	Japanese people	LJC
100	Seminar on Laos	2006/9/2	20	Youth invitation member	LJC
101	Lao Dance class/JICAFAE	2006/9/2	10	Lao people	JICafe
102	Lao Dance class/JICAFAE	2006/9/3	4	Japanese people	JICafe
103	Yukata wearing class/JICAFAE	2006/9/9	11	Lao people	JICafe
104	Seminar on Japan by JAOL member/JICAFAE	2006/9/9	15	Lao people	JICafe
105	Fruit Carving class/ JICAFAE	2006/9/9	19	Vientiane Capital, Educational dep.	JICafe
106	Lao Dance class/JICAFAE	2006/9/9	11	Vientiane Capital, Educational dep.	JICafe
107	Fruit Carving class/JICAFAE	2006/9/16	3	Lao people	JICafe
108	Fruit carving class/JICAFAE	2006/9/16	6	Japanese people	JICafe
109	Origami class/JICAFAE	2006/9/23	5	Lao people	JICafe
110	Japan Quiz & Game/JICAFAE	2006/9/23	20	Lao people	JICafe
111	Origami class outside(1)	2006/9/22	15	J-LATS workers	J-LATS
112	Flower Arrangement class	2006/9/30	16	NUOL students	LJC
113	JPN movie show	2006/9/30	50	Lao, Japanese people	LJC
114	Kimono wearing class	2006/10/3	5	LJC staff	LJC
115	Origami class outside(2)	2006/10/13	12	J-LATS workers	J-LATS
116	fruit carving class	2006/10/14	11	LJC club member	LJC
117	Lao Dance class	2006/10/14	14	LJC club member	LJC
118	Hair Arrangement class for Yukata	2006/10/18	8	LJC staff	LJC
119	JPN Comic display	2006/10/21	40	Lao, Japanese people	Monument books
120	Lao Dance class	2006/10/21	10	Japanese people	LJC
121	Fruit carving class	2006/10/21	11	LJC club member	LJC
122	Lao Dance class	2006/10/21	11	LJC club member	LJC
123	J P N movie show	2006/10/26	44	Lao, Japanese people	LJC
124	JPN cooking class for trainers(1)	2006/10/28	13	JPN course students, trainees	LJC
125	fruit carving class	2006/10/28	8	LJC club member	LJC
126	Lao Dance class	2006/10/28	10	LJC club member	LJC
127	Opera concert outside	2006/11/1	150	Art Teacher Training School for teachers	Art Teacher training school
128	Fruit carving class	2006/11/4	10	LJC club member	LJC
129	Lao Dance class	2006/11/4	12	LJC club member	LJC
130	Opera concert /NUOL	2006/11/6	200	Lao, Japanese people	FEMB, NUOL
131	JPN cooking class for trainers(2)	2006/11/11	13	JPN course students, trainees	LJC
132	fruit carving class	2006/11/11	19	LJC club member	LJC
133	Lao Dance class	2006/11/11	20	LJC club member	LJC
134	Cooperation to NUOL 10th anniversary	2006/11/8	100	NUOL students, teachers	NUOL hall
135	JPN movie show	2006/11/18	65	Lao, Japanese people	LJC
136	Fruit carving class	2006/11/18	16	LJC club member	LJC
137	Lao Dance class	2006/11/18	20	LJC club member	LJC
138	Cooperation to WIG / ITECC	2006/11/19	80	Lao, Japanese people	ITECC
139	JPN drum concert	2006/11/24	200	Lao, Japanese people	NUOL hall
140	Lao Dance for Foreigners	2006/11/25	8	Japanese people	LJC
141	Fruit carving class	2006/11/25	11	LJC club member	LJC
142	Lao Dance class	2006/11/25	20	LJC club member	LJC

143	Seminar on Laos	2006/11/29	50	NUOL students (FSS)	LJC
144	Seminar on Laos	2006/11/29	20	Japanese people	JICafe
145	JPN cooking class for trainers (3)	2006/12/9	12	JPN course students, trainees	LJC
146	Fruit carving class	2006/12/9	12	LJC club member	LJC
147	Lao Dance class	2006/12/9	20	LJC club member	LJC
148	Seminar on Laos	2006/12/13	80	Lao people	LJC
149	Seminar on Laos	2006/12/14	50	Japanese people	JICafe
150	Special seminar	2006/12/22	270	Sports Teacher Training school for teachers	Sports Teacher Training school
151	JPN cooking class for trainers (4)	2006/12/23	12	JPN course students, trainees	LJC
152	Lao Dance for Foreigners	2006/12/16	3	Japanese people	LJC
153	JPN movie show outside(1)	2006/12/18	250	Vientiane High school students	Vientiane Highschool
154	Christmas Origami	2006/12/20	10	Lao school teachers	LJC
Total:			7,163		

The Exchange activity & Information Division:List activities 2007
January 2007 to December 2007

No.	Activity Name	Activity Date	No.Participants	To who we organize
1	Lao dance Class	2007/1/14	20	Trainers
2	JPN cooking Class	2007/1/20	11	Trainers
3	Fruit Carving Contest	2007/1/20	134	LJC club member
4	Lao dance for foreigner	2007/1/27	6	Japanese people
5	Japanese Monthly Movie Show	2007/1/27	40	Lao & JPN people
6	Japanese New year game	2007/1/23	60	Lao Students
7	Special movie (Jp children school)	2007/1/31	20	Lao Students
8	JPN cooking Class	2007/1/27	9	Trainers
9	Origami and Setsubun Class	2007/2/3	40	Lao Students
10	JPN cooking Class	2007/2/10	12	Trainers
11	Lao dance class	2007/2/10	17	NUOL women
12	Fruit Carving Class	2007/2/10	8	LJC member
13	Lao dance class	2007/2/17	13	NUOL women
14	Fruit Carving Class	2007/2/17	9	LJC club member
15	Girls Festival display	2007/2/22-3/7	250	Lao Students
16	Fruit Carving for foreigners	2007/2/24	10	Japanese people
17	Lao dance class	2007/2/24	7	NUOL women
18	Fruit Carving Class	2007/2/24	7	LJC club member
19	Japanese Monthly Movie Show	2007/2/24	24	Lao & JPN people
20	JPN cooking Class	2007/2/27	10	Trainers
21	JPN cooking Class	2007/2/28	10	Trainers
22	Lao-Japan Friendship Seminar	2007/2/28	70	Lao & JPN people
23	Fruit Carving Class	2007/3/3	7	LJC club member
24	Lao dance class	2007/3/3	8	NUOL women
25	JPN cooking Class	2007/3/3	12	Trainers
26	IKEBANA Demonstration	2007/3/7	50	women union
27	Yukata Class	2007/3/12	9	LJC staff
28	Yukata Class	2007/3/13	10	Trainers
29	Yukata Class	2007/3/14	18	Teacher & Students
30	JPN cooking Class	2007/3/17	12	Trainers
31	Lao dance class	2007/3/17	14	LJC club member
32	Fruit Carving Class	2007/3/17	16	LJC club member
33	Support Cultural Festival	2007/3/17	100	Sunshine school children
34	JICafe opening ceremony(ShowLao dance)	2007/3/23	80	Lao & JPN people
35	Fruit Carving Class	2007/3/31	13	LJC club member
36	Lao dance class	2007/3/24	11	LJC club member
37	JPN cooking contest	2007/3/24	108	Lao Students
38	Fruit Carving Class	2007/3/24	12	LJC club member
39	Fruit Carving for foreigners	2007/3/30	8	Japanese people
40	Japanese Monthly Movie Show	2007/3/31	76	Lao & JPN people
41	Lao dance class	2007/3/31	11	LJC club member
42	Lao dance class	2007/4/7	11	LJC club member
43	Fruit Carving Class	2007/4/7	12	LJC club member
44	Children's Day display	2007/4/23-5/5	250	Lao Students
45	JPN Movie show(khamsavath College)	2007/4/26	40	Lao Students
46	Origami Class	2007/4/28	13	Trainers
47	Lao dance for JDS fellows	2007/4/28	11	Lao people
48	Fruit Carving for foreigners	2007/4/28	6	Japanese people
49	JPN cooking Class	2007/5/2	12	Trainers
50	Yukata Class	2007/5/3	9	JDS fellows
51	Origami Class (children's day)	2007/5/4	13	Lao Teacher
52	JPN cooking Class	2007/5/5	12	Trainers
53	Lao dance for JDS fellows	2007/5/5	11	Lao people
54	Origami Class for trainer	2007/5/12	7	Trainers
55	Origami Class	2007/5/12	16	Lao people
56	Lao dance for JDS fellows	2007/5/12	11	Lao people
57	Fruit Carving for foreigners	2007/5/17	9	Japanese people
58	Seminar on Laos	2007/5/26	13	JICafe
59	Japanese Monthly Movie Show	2007/5/26	176	Lao & JPN people
60	Fruit Carving for foreigners	2007/5/26	6	Japanese people

61	Origami Class	2007/5/19	8	Trainers
62	Lao dance for JDS fellows	2007/5/19	11	Lao people
63	Opera (PINOCCHIO)	2007/5/29	40	Lao artists
64	Opera (PINOCCHIO)	2007/5/30	1200	Lao & JPN people
65	Origami Class	2007/5/30	25	Students & Teachers
66	Lao dance class	2007/6/2	24	Trainers
67	Fruit Carving Class	2007/6/2	16	Trainers
68	Seminar on MEXT scholarship program	2007/6/3	153	Lao Students
69	Lao dance class	2007/6/9	24	Trainers
70	Japan Seminar	2007/6/8	30	Lao people
71	Fruit Carving Class	2007/6/9	15	Trainers
72	Origami Class	2007/6/9	7	Trainers
73	Fruit Carving Class	2007/6/16	15	Trainers
74	Lao dance class	2007/6/16	24	Trainers
75	Origami Class	2007/6/16	5	Trainers
76	Kimono Class	2007/6/18	10	LJC staff
77	JPN cooking class	2007/6/23	40	JPN language festival
78	Fruit Carving for foreigners	2007/6/23	6	Japanese people
79	Lao dance class	2007/6/23	24	Trainers
80	Fruit Carving Class	2007/6/24	13	Trainers
81	Kimono Class	2007/6/26	10	LJC staff
82	JPN Movie show(Faculty of engineering)	2007/6/27	120	Lao & JPN people
83	Lao dance class	2007/6/30	24	Trainers
84	Fruit Carving Class	2007/6/30	11	Trainers
85	Yukata Class for young leader	2007/7/5	15	Lao people
86	Japan Seminar for young leaders	2007/7/5	15	Lao people
87	Tea ceremony Class	2007/7/3	7	Trainers
88	Tea ceremony Class	2007/7/6	6	Trainers
89	Tanabata display	2007/7/7	250	Lao students
90	Fruit Carving Class	2007/7/7	10	Trainers
91	Lao dance class	2007/7/7	24	Trainers
92	Origami Class	2007/7/7	4	Trainers
93	Fruit Carving Class	2007/7/14	10	Trainers
94	Lao dance class	2007/7/14	24	Trainers
95	Tea ceremony Class	2007/7/19	7	Trainers
96	JPN Movie show(NGO)	2007/7/21	60	Lao & JPN people
97	Fruit Carving Class	2007/7/21	10	Trainers
98	Lao dance class	2007/7/21	24	Trainers
99	Seminar on Laos	2007/7/28	10	Japanese people
100	Tea ceremony Class	2007/7/26	7	Trainers
101	Japanese Monthly Movie Show	2007/7/28	48	Lao & JPN people
102	Fruit Carving for foreigners	2007/7/28	6	Japanese people
103	Fruit Carving Class	2007/7/28	10	Trainers
104	Tea ceremony Class	2007/8/2	5	Trainers
105	Fruit Carving for foreigners	2007/8/3	4	Japanese people
106	Fruit Carving for foreigners	2007/8/4	7	Trainers
107	Seminar how to prepare JDS	2007/8/8	20	Lao people
108	Tea ceremony Class	2007/8/9	6	Trainers
109	Origami Class	2007/8/15	55	Lao Students
110	Tea ceremony Class	2007/8/17	5	Trainers
111	Seminar on Laos	2007/8/17	10	Japanese people
112	Tea ceremony Class	2007/8/23	6	Trainers
113	JPN Movie show (SVA)	2007/8/25	50	Lao & JPN people
114	Tea ceremony Class	2007/8/30	5	Trainers
115	Tea ceremony Class	2007/9/6	8	Lao people
116	Tea ceremony Class	2007/9/13	8	Lao people
117	Tea ceremony Class	2007/9/19	8	Lao people
118	Tea ceremony demonstration	2007/9/20	15	Lao Women's union member, JAOL
119	Lao dance for foreigner	2007/9/22	8	Japanese people
120	JPN Movie show	2007/9/29	21	Lao & JPN people
121	Fruit Carving for foreigners	2007/9/29	9	Japanese people
122	Origami Class	2007/10/6	8	Lao Students
123	Yukata Class	9-10-11/10/2007	15	Lao people
124	Seminar on Laos	2007/10/17	10	
125	JPN singing contest (pre)	2007/10/20	100	Lao & JPN people
126	Lao dance for foreigner	2007/10/20	6	Japanese people
127	LamVong & Bonodori dance class	2007/10/23	80	Lao Students

128	Kathong Class	2007/10/21	10	Japanese people
129	Nam Gum Seminar	2007/10/24	80	Lao students
130	Lao culture seminar for JOCV	October	20	JOCV, 4 times
-133				
134	JPN movie festivals	02-11/11/2007	1247	Lao & JPN people
135	Booth Exhibition at ITECC	09-11/11/2008	250	Lao & JPN people
136	JPN singing contest	2007/11/3	1200	Lao & JPN people
137	Yukata wearing at Lao-ITECC	9-11/11/2007	15	Lao People
138	Taiko group(play drum show)	2007/11/10	300	Lao & JPN people
139	Taiko group(play drum show)	2007/11/11	350	Lao People
140	Taiko group(play drum show)	2007/11/11	400	Lao & JPN people
141	LamVong & Bonodori dance	2007/11/11	800	Lao & JPN people
142	Fruit Carving for foreigners	2007/11/11	6	Japanese people
143	Seminar on Laos	2007/11/12	10	Japanese people
144	Judo & Kendo at FEMB	2007/11/17	400	Lao & JPN people
145	Judo & Kendo at Luangprabang	2007/11/18	450	Lao & JPN people
146	JPN Folkdance	2007/11/21	400	Lao & JPN people
147	Lao dance for foreigner	2007/12/1	11	Japanese people
148	Opera concert at National school of music & dance	2007/12/4	300	Lao & JPN people
149-151	Japanese music class	2007/12/6	160	Lao children (5times)
152	Opera concert at National school of music & dance	2007/12/5	350	Lao & JPN people
153	Fruit Carving for foreigners	2007/12/8	5	Japanese people
154-157	Lao culture seminar for JOCV	December	4	JOCV, 4 times
158	Seminar on Laos	2007/12/12	60	Lao people
159	Seminar on Laos	2007/12/22	30	Japanese people
160-180	Introduce JPN music, culture on Radio	September-		Lao people, every Sunday

Total: 11,729

Exchange activity & Information Division:List activities 2009

No.	Activity Name	Activity Date	No. Participants	To who we organize	Place
1	New year game & Mochizuki	1/10/09	50	JPN & Lao people	LJC, Multi 3 and Corridor
2	Teacereemony Class for trainers	1/13/09	3	LJC staff	LJC, Culture room
3	Lao seminar "how to introduce lao culture to JPN people"	1/13/09	20	JENESYS	Lao praza hotel
4	Teacereemony Class for trainers	1/14/09	6	LJC staff	LJC, Culture room
5	JPN cooking class	1/17/09	9	Laopeople	LJC, Corridor
6	Lao dance Class	1/17/09	6	Laopeople	LJC, Multi
7	Field trip	1/21/09	7	JOCVs	Tic restaurant
8	Teacereemony Class for trainers	1/21/09	3	LJC staff	LJC, Culture room
9	Field trip	1/22/09	7	JOCVs	Morning Market Kuadin Market & Bus station
10	Lao cooking class	1/23/09	7	JOCVs	LJC, Corridor
11	Lao seminar "how to introduce lao culture to JPN people"	1/23/09	43	JENESYS	Lao praza hotel
12	Lao dance Class	1/24/09	6	Laopeople	LJC, Multi
13	Field trip	1/28/09	7	JOCVs	Bank & Central Post Office
14	Wearing Lao costume class	1/28/09	7	JOCVs	LJC, Culture room
15	Lao dance Class	1/28/09	7	JOCVs	LJC, Anex2
16	Markbeng Class	1/30/09	7	JOCVs	LJC, Anex2
17	JPN movie show	1/31/09	165	Laopeople	LJC, Multi
18	Lao dance Class	1/31/09	6	Laopeople	LJC, Anex2
19	Fruit Carving Class	2/7/09	6	LJC member	Seminar 1
20	Field trip	2/10/09	7	JOCVs	Medical Collage
21	Fruit Carving Class	2/12/09	7	JOCVs	LJC, Anex2
22	Fruit Carving Class	2/14/09	6	LJC member	Seminar 1
23	Teacereemony Class for trainers	2/11/09	3	LJC staff	LJC, Culture room
24	Teacereemony Class for trainers	2/13/09	3	LJC staff	LJC, Culture room
25	Field trip	2/13/09	7	JOCVs	Friendship Hospital
26	Teacereemony Class for trainers	2/18/09	7	LJC staff	LJC, Culture room
27	Teacereemony Class for trainers	2/20/09	7	LJC staff	LJC, Culture room
28	Lao dance Class for foreigner	2/21/09	2	Japanese people	LJC, Anex2
29	Fruit Carving Class	2/21/09	6	LJC member	Seminar 1
30	Origami & setsuban Class	2/21/09	75	Lao people	Tanmaxay village Community Library
31	JPN Monthly Movie show	2/28/09	265	Lao people	NOUL Hall
32	Fruit Carving Class	2/28/09	6	LJC member	Seminar 1
33	Lao seminar "how to introduce lao culture to JPN people"	2/3/09	20	JENESYS	Lao praza hotel
34	Hina festival display	2/23/2009-3/3/2009	300	Lao & JPN people	LJC, Lobby room
35	Lao dance Class	2009/3/7	6	LJC member	LJC, Anex2
36	Japanese cooking class	2009/3/7	4	Lao people	LJC corridor
37	Culture exchange	2009/3/12	36	JPN technical college and phongsavanh high school students	LJC, Seminar 1
38	Lao cooking class	2009/3/13	2	Japanese people	LJC corridor
39	Lao dance Class	2009/3/14	6	LJC member	LJC, Anex2
40	Judo, Aikido & Karatedo demonstration	2009/3/14	200	Lao & JPN people	FEMB Hall
41	Japanese Dance	2009/3/19	5	LJC member	LJC, Multi
42	Lao cooking class	2009/3/20	2	Japanese people	LJC corridor
43	Lao dance Class	2009/3/21	6	LJC member	LJC, Anex2
44	Origami class	2009/3/24	45	Natom primary school students	Natom primary school
45	Seminar about Youth jpn style in japan	2009/3/25	28	Japanese course	LJC, Seminar 1
46	Lao cooking class	2009/3/27	2	Japanese people	LJC corridor
47	JPN Monthly Movie show	2009/3/28	165	Lao & JPN people	LJC, Multi
48	Lao seminar "how to introduce lao culture to JPN people"	2009/3/28	22	JENESYS	LJC, seminar 1
49	Lao dance Class	2009/3/28	4	Lao people	LJC, Anex2
50	Field trip	2009/4/1	7	JOCVs	Tic restaurant
51	Field trip	2009/4/2	7	JOCVs	Morning Market, Kuadin Market & Bus station
52	Lao cooking class	2009/4/3	7	JOCVs	LJC corridor
53	Field trip	2009/4/6	7	JOCVs	Bank & Central Post Office
54	Lao costume wearing class	2009/4/7	7	JOCVs	LJC, Culture room
55	Lao dance Class	2009/4/8	7	JOCVs	LJC, Anex2
56	Wearing Lao costume	2009/4/8	7	JOCVs	LJC, Seminar 2, Culture room
57	Markbeng Class	2009/4/10	7	JOCVs	LJC, Anex2
58	JPN Monthly Movie show	2009/4/25	35	Lao people	LJC, Multi
59	Field trip	2009/4/27	7	JOCVs	Technical college
60	Yukata class	2009/5/8	18	Faculty of letter students	LJC, Culture room
61	Lao dance Class	2009/5/9	18	LJC member	LJC, Anex2
62	Shodo Class	2009/5/15	17	Faculty of letter students	LJC, Anex2
63	Fruit Carving Class	2009/5/16	9	LJC member	LJC, Seminar 1
64	Lao dance Class	2009/5/16	18	LJC member	LJC, Anex2
65	Tea ceremony Class	2009/5/22	18	Faculty of letter students	LJC, Culture room
66	Fruit Carving Class	2009/5/23	9	LJC member	LJC, Seminar 1
67	JPN Monthly Movie show	2009/5/30	25	Lao people	LJC, Multi
68	Lao dance Class	2009/5/30	11	LJC member	LJC, Anex2
69	Fruit Carving Class	2009/5/30	9	LJC member	LJC, Seminar 1
70	Lao seminar "how to introduce lao culture to JPN people"	2009/5/30	22	JENESYS	Lao praza hotel
71	Lao cooking class	2009/6/1	2	Japanese people	LJC, Corridor
72	Lao dance Class	2009/6/6	8	Lao people	LJC, Multi
73	Lao cooking class	2009/6/8	2	Japanese people	LJC, Corridor
74	JOCVs interview for Radio	2009/6/10	2	JOCVs	JICA lao office
75	Mext examination	2009/6/13	125	NOUL students	
76	Fruit Carving Class	2009/6/13	7	LJC member	LJC, Seminar 1
77	Lao cooking class	2009/6/15	2	Japanese people	LJC, Corridor
78	Fruit Carving Class	2009/6/20	7	LJC member	LJC, Seminar 1
79	Lao cooking class	2009/6/22	2	Japanese people	LJC, Corridor
80	Fruit Carving Class	2009/6/27	7	LJC member	LJC, Seminar 1
81	JPN Monthly Movie show	2009/6/27	210	Lao & JPN people	NOUL Hall
82	Lao cooking class	2009/6/29	2	Japanese people	LJC, Corridor
83	Display Tanabata	1/6/2009-8/7/2009	600	JPN & Lao people	LJC, Lobby room
84	Lao seminar	2009/7/1	31	Lao and foreigners	LJC, Multi 1.2.3 room
85	JPN cooking class	2009/7/4	10	LJC staff and 4 students from outside	LJC, Corridor
86	JOCVs interview for Radio	2009/7/9	3	JOCVs	JICA lao office
87	Seminar "HONDA YES AWARD 2009"	2009/7/8	200	FOE students	NOUL, FOE
88	JPN cooking class	2009/7/14	20	JDS fellow	LJC, Corridor
89	JOCVs interview for Radio	2009/7/16	3	JOCVs	JICA lao office
90	Field trip	2009/7/24	9	JPN high school students	Thongkhanham Market
91	Lao cooking class	2009/7/25	19	JPN & Phonsavanh high school students	LJC, Corridor
92	Yukata & Lao costume wearing class	2009/7/25	19	JPN & Phonsavanh high school students	LJC, Culture room
93	Lao & JPN dance class	2009/7/28	19	JPN & Phonsavanh high school students	LJC, Multi 1.2 room
94	JPN Monthly Movie show	2009/8/1	45	Lao & JPN people	LJC, Multi
95	Yukata wearing and Bonodori dance class	2009/8/6	85	Lao high school students	Capital city Library
96	JPN cooking class	2009/8/8	10	LJC staff & 3 students from outside	LJC, Corridor
97	Exchange activities between Lao & JPN students (JC)	2009/8/12	43	Negoyagakuinn University & JC students	LJC, Multi 1.2 room
98	Fruit Carving Class	2009/8/15	6	LJC member	LJC, Seminar 1
99	Seminar "the history of horkheopadabdin & horkheosalak festival"	2009/8/19	49	Lao & JPN people	LJC, Multi 1.2.3 room
100	Fruit Carving Class	2009/8/22	6	LJC member	LJC, Seminar 1

105	Lao dance Class (1)	2008/8/12	10	Training LJC staff	Anex.1
106	Fruit Carving Class (1)	2008/8/14	10	Training LJC staff	LJC Corridor
107	KIMONO class for Women	2008/8/15	11	Training LJC staff	LJC Culture room
108	Lao dance Class (2)	2008/8/19	10	Training LJC staff	Anex.1
109	KIMONO class for Women	2008/8/20	11	Training LJC staff	LJC Culture room
110	Fruit Carving Class (2)	2008/8/21	10	Training LJC staff	LJC Corridor
111	Lao dance class for foreigner	2008/8/23	7	JPN people	LJC Anex.1
112	Lao dance Class (3)	2008/8/26	10	Training LJC staff	Anex.1
113	JPN Monthly Movie Show (YAMATO)	2008/8/30	19	Lao people	LJC Multi 1.2
114	Support Senshu University field trip at Beer Lao company	2008/8/30	13	Senshu University Students	Beer Lao Company
115	Lao dance Class (4)	2008/9/2	10	Training LJC staff	Anex.1
116	Support Senshu University field trip at Santel Lao	2008/9/3	13	Senshu University Students	Santel Lao Company
117	Survey Library & Self study room	5/9/2008-11/9/2008	40	Lao & JPN people	Self study room & Media room
118	Pratice Bonodori dance (1)	2008/9/6	80	NUOL student and another places	LJC Multi 1.2
119	Lao & JPN language	2008/9/9	34	WS of youth development exchange program	Seminar 1 & 2
120	Seminar about Youth Jpn style in japan	2008/9/9	19	Lao student	Seminar 1
121	Lao & JPN Culture seminar	2008/9/9	34	WS of youth development exchange program	Seminar 1 & 2
122	Yukata & Lao costumes wearing class	2008/9/9	34	WS of youth development exchange program	Seminar 2 & culture room
123	JPN & Lao Cooking class	2008/9/10	34	WS of youth development exchange program	LJC Corridor
124	Fruit Carving Class (3)	2008/9/11	10	Training LJC staff	LJC Corridor
125	Origami Class	2008/9/12	37	Lao primary school students	Noyboun primary school
126	Pratice Bonodori dance (2)	2008/9/13	80	NUOL student and another places	LJC Multi 1.2
127	Fruit Carving Class (4)	2008/9/18	10	Training LJC staff	LJC Corridor
128	Lao dance for foreigner	2008/9/20	2	JPN people	Culture room
129	Pratice of Singing Contest	2008/9/20	70	Lao & JPN people	LJC Multi 1,2,3
130	Pratice Bonodori dance(3)	2008/9/21	80	NUOL student and another places	LJC Multi 1.2
131	JPN Movie festival (Doraemon)	2008/9/25	700	Lao & JPN people	National culture hall
132	Opera concert	2008/9/25	150	Lao & JPN people	National culture hall, Parking area
133	JPN Movie festival (Glass Rabbit)	2008/9/27	150	Lao & JPN people	National culture hall
134	audiences for tents around bonodori	2008/9/27	200	Lao & JPN people	National culture hall
135	Bonodori dance	2008/9/27	450	Lao & JPN people	National culture hall
136	Opera concert	2008/9/27	300	Teacher training school of music and Art student	Teacher training school of music and Art
137	JPN Movie festival (Galaxy Express 999)	2008/9/28	100	Lao & JPN people	National culture hall
138	JPN singing Contest	2008/9/28	400	Lao & JPN people	National culture hall
139	Opera concert	2008/9/29	450	Lao people	Luangprabang province, parukaram hall
140	Field Trip for JOCVs	2008/9/30	4	JOCVs	Tic restaurant
141	Field Trip for JOCVs	2008/10/2	4	JOCVs	Morning Market, Kuadin Market & Bus station
142	Lao cooking Class	2008/10/3	4	JOCVs	LJC Corridor
143	Field Trip for JOCVs	1900/10/6	4	JOCVs	Bank & Central Post Office
144	Lao Costume wearing class	2008/10/8	4	JOCVs	Culture room
145	Lao Lamvong and Salavanh dance class	2008/10/8	4	JOCVs	LJC Anex.1
146	Katong Class	2008/10/13	4	JOCVs	Seminar 2
147	Field Trip for JOCVs	2008/10/17	4	JOCVs	Medical College
148	Lao dance for foreigner	2008/10/18	8	JPN & American people	Seminar 2
149	Fruit Carving Class	2008/10/20	4	JOCVs	Seminar 2
150	Montly Movie show (Sabaydee Luang prabang, Lao Movie)	2008/10/25	1700	Lao & JPN people	LJC, seminar 1 & NUOL Hall
151	Seminar Lao PDR and culture for JENESS	2008/10/26	20	Lao high school students	Loyal HOTEL
152	Field Trip for JOCVs	2008/10/27	4	JOCVs	Friendship Hospital
153	Lao dance show	2008/10/29	200	french and Lao people	French Center
154	Origami Class	2008/10/30	300	Lao primary school students	French Center
155	Awarding ceremony of the Honda young engineer & scientist in Lao pdr	2008/10/31	450	Faculty of engineer teacher, student & VIP guest	Faculty of engineer Hall
156	Markbeng Class	2008/11/1	6	french and Lao people	French Center
157	Seminar about Japan & Shodo	2008/11/5	11	Faculty of Letter	LJC Anex 2
158	Wearing Lao costume	2008/11/5	7	Nara Women' college	LJC Culture room
159	Lao dance Class	2008/11/5	7	Nara Women' college	LJC Anex 2
160	Lao Dance class	2008/11/15	10	LJC club member	LJC Multi
161	Field Trip for student of faculty of letter	2008/11/19	11	Lao people	Santel Lao company
162	Internet Exchange program between Lao & JPN high shool	2008/11/19	32	Phonesavanh high school student	LJC Computer room
163	Lao Dance class	2008/11/22	15	LJC club member	LJC Multi
164	Lao Dance class for foreigner	2008/11/22	1	JPN people	LJC Anex 2
165	Yukata class	2008/11/26	8	Faculty of Letter students	LJC Anex 2
166	Arrangement for donaton stationary	2008/11/27	350	Sathid Primary school students	Sathid Primary school
167	Arrangement for donaton stationary	2008/11/27	50	Dokarao primary school students	Dokarao primary school
168	Arrangement for donaton stationary	2008/11/28	180	Nongboun primary school students	Nongboun primary school
169	Arrangement for donaton stationary	2008/11/28	150	Chomphet primary school students	Chomphet primary school
170	Lao Dance class	2008/11/29	9	LJC club member	LJC Seminar 2
171	JPN movie show	2008/11/29	8	JPN and Lao people	LJC Multi
172	Internet Exchange program between Lao & JPN high shool	2008/12/3	40	Phonesavanh high school student	LJC Computer room
173	Fruit carving class	2008/12/6	12	LJC club member	LJC Seminar 1
174	Teacore mony class	2008/12/10	9	Faculty of Letter students	LJC Culture room
175	Fruit carving class	2008/12/13	12	LJC club member	LJC Seminar 1
176	Lao seminar " Social & cultural Value of Lao textile"	2008/12/17	150	JPN & Lao people	LJC Multi
177	Fruit carving class	2008/12/20	12	LJC club member	LJC Seminar 1
178	Lao dance class for foreigner	2008/12/20	3	JPN people	LJC Anex 2
179	Japanese cooking Class	2008/12/24	11	Faculty of Letter students	LJC Corridor
180	Fruit carving class	2008/12/27	12	LJC club member	LJC Seminar 1
181	Montly Movie show (A father's heart, Lao Movie)	2008/12/27	15	Lao & JPN people	LJC Multi 1.2

Total 10,847

101	Fruit Carving Class	2009/8/29	6	LJC member	LJC, Seminar 1
102	JPN Monthly Movie show	2009/8/29	21	Lao & JPN people	LJC, Multi 1,2,3 room
103	Essay examination HONDA YES AWARD 2009	2009/9/2	10	FOE students	LJC, Seminar 2
104	Interview & select 2 students by ASC (HON YES AWARD 2009)	2009/9/8	10	FOE students	LJC, Seminar 2
105	Lao-Japan youth leader forum 2009	9/9-11/2009	32	Lao & JPN youth people	LJC, Multi 1,2 room
106	Exchange activities between FEBM & Aoyama gakuin University	2009/9/8	26	FEBM & Aoyama gakuin University students	LJC, Seminar 1
107	Exchange activities between JPN course students of LJC & Senshu University	2009/9/11	34	JPN course students of LJC & Senshu University students	LJC, Multi
108	Fruit Carving Class	2009/9/12	6	LJC member	LJC, Seminar 1
109	Exchange activities between FOF & Chuo University	2009/9/16	35	FOF & Chuo University students	LJC, Multi 1,2,3 room
110	Opera concert	2009/9/17	82	National School of Art students	National School of Art
111	Opera concert	2009/9/18	35	JPN course students of LJC	LJC, Seminar 2
112	Opera concert	2009/9/18	100	VIP guest & MBA students of LJC	LJC, Multi 1,2,3 room
113	Fruit Carving Class	2009/9/19	6	LJC member	LJC, Seminar 1
114	Opera concert	2009/9/19	94	Teacher school of Art and Music students	Teacher school of Art and Music
115	Exchange activities between JPN course students of LJC & Meiji gakuin University	2009/9/21	30	JPN course students of LJC & Meiji gakuin University students	LJC, Multi 1,2,3 room
116	Fruit Carving Class	2009/9/26	6	LJC member	LJC, Seminar 1
117	Study in Japan fair 2009	2009/9/30	361	Lao & Japanese people	FEBM Hall, NUOL & LJC

Total: 4,315

The Publicity at the LJC

The Articles on the LJC

No	Date	Title	Name of Newspaper	Field/Category
1	17,18,21 Aug 2006	PR of Kendo and Karatedo demonstration	Vientiane times	Newspaper
2	17,18,21 Aug 2006	PR of Kendo and Karatedo demonstration	Vientiane mai	Newspaper
3	17,18,21 Aug 2006	PR of Kendo and Karatedo demonstration	Sport	Newspaper
4	24 Aug 2006	Ar Japanese demonstrates skillful Kendo	Vientiane times	Newspaper
5	23 Aug 2006	Ar Kendo and Karatedo demonstration	Sport	Newspaper
6	23 Aug 2006	Ar Kendo and Karatedo demonstration	Vientiane mai	Newspaper
7	1 Sep 2006	Pr September 2006 Events	Vientiane mai	Newspaper
8	1 Sep 2006	Pr September 2006 Events	Vientiane times	Newspaper
9	6 Sep 2006	Ar September 2006 Events	Vientiane mai	Newspaper
10	12 Sep 2006	Ar September 2006 Events	Vientiane times	Newspaper
11	12 Sep 2006	Ar JCC Meeting	Vientiane mai	Newspaper
12	15 Oct 2006	Ar September 2006 Events	M+mahaxon	Magazine
13	3 Oct 2006	Ar Ikebana demonstration	Vientiane mai	Newspaper
14	7 Nov 2006	Ar Anniversary of the National University	Vientiane mai	Newspaper
15	8 Nov 2006	Ar Japanese concert portrays traditional lifestyle	Vientiane times	Newspaper
16	29 Nov 2006	Ar Japanese Taiko concert	Vientiane times	Newspaper
17	13 Feb 2007	Ar Fruit carving contest	Vientiane times	Newspaper
18	1 March 2007	Ar Book donation	Vientiane times	Newspaper
19	2 March 2007	Ar Japanese friendship seminar	Vientiane times	Newspaper
20	2 March 2007	Ar Japanese friendship seminar	Vientiane mai	Newspaper
21	8 March 2007	Ar Ikebana demonstration	Vientiane times	Newspaper
22	8 March 2007	Ar Ikebana demonstration	Vientiane mai	Newspaper
23	12 March 2007	Ar Japanese Speech contest	Vientiane times	Newspaper
24	28 March 2007	Ar Japanese Cooking contest	Vientiane mai	Newspaper
25	27 March 2007	Ar Japanese Cooking contest	Vientiane times	Newspaper
26	30 May 2007	Ar Japanese Opera artists skills with Lao singers	Vientiane times	Newspaper
27	1 June 2007	Pinocchio demonstration	Vientiane times	Newspaper
28	9 June 2007	Ar JCC Meeting	Vientiane times	Newspaper
29	6 June 2007	Ar JCC Meeting	Vientiane mai	Newspaper
30	30 Oct 2007	Pr Lao-Japan friendship festival 2007	Vientiane mai	Newspaper
31	31 Oct 2007	Pr Lao-Japan friendship festival 2007	Vientiane mai	Newspaper
32	1 Nov 2007	Pr Lao-Japan friendship festival 2007	Vientiane mai	Newspaper
33	23 Oct 2007	Pr Lao-Japan friendship festival 2007	Vientiane times	Newspaper
34	30 Oct 2007	Pr Lao-Japan friendship festival 2007	Vientiane times	Newspaper
35	1 Nov 2007	Pr Lao-Japan friendship festival 2007	Vientiane times	Newspaper
36	31 Oct 2007	Pr Lao-Japan friendship festival 2007	Pasason	Newspaper
37	1 Nov 2007	Pr Lao-Japan friendship festival 2007	Pasason	Newspaper
38	5 Nov 2007	Ar Japanese Movie Festival Opening	Vientiane mai	Newspaper
39	9 Nov 2007	Pr Japanese Singing contest	Vientiane mai	Newspaper
40	14 Nov 2007	Ar Bon odori dances	Vientiane times	Newspaper
41	14 Nov 2007	Ar Bon odori dances	Vientiane Mai	Newspaper
42	25 Nov 2007	Ar Japanese Singing contest	Vientiane mai	Newspaper
43	23 Nov 2007	Ar Japanese Singing contest	Vientiane times	Newspaper
44	23 Nov 2007	Ar Japanese Folk dance	Vientiane mai	Newspaper
45	26-Nov-07	Ar Japanese Folk dance	Vientiane times	Newspaper
46	20 Nov 2007	Ar Judo and Kendo demonstration	Vientiane times	Newspaper
47	16 Nov 2007	Pr Judo and Kendo demonstration	Sport	Newspaper
48	14 Nov 2007	Pr Judo and Kendo demonstration	Vientiane times	Newspaper
49	8 Deb 2007	Ar Japanese Opera captivates art students	Vientiane times	Newspaper
50	11 Deb 2007	Ar Japanese Opera captivates art students	Vientiane mai	Newspaper
51	24 Deb 2007	Ar Donation book from Meiji University	Vientiane times	Newspaper
52	17 Jan 2008	Ar New year flower arrangements and New year game	Vientiane times	Newspaper
53	29 Jan 2008	Ar New year flower arrangements and New year game	Vientiane mai	Newspaper
54	31 Jan 2008	Ar Special Seminar on Business Management	Vientiane times	Newspaper
55	4 Jan 2008	Ar Special Seminar on Business Management	Vientiane mai	Newspaper
56	12 Feb 2008	Ar Opening JDS Course	Vientiane mai	Newspaper
57	12 Feb 2008	Ar Exchange activity between lao student& Japanese student	Vientiane times	Newspaper
58	13 Feb 2008	Ar Exchange activity between lao student& Japanese student	Vientiane mai	Newspaper
59	4 Mar 2008	Ar Japanese doll for JDS	Vientiane times	Newspaper
60	7 Mar 2008	Ar Japanese seminar	Vientiane times	Newspaper
61	4 Apr 2008	Ar Symposium(Laos, it present situation and future)	Vientiane times	Newspaper
62	7 May 2008	Ar Origami class (Children's day)	Vientiane times	Newspaper
63	12 May 2008	Pr Origami Contest	Pasason	Newspaper
64	19 May 2008	Pr Origami Contest	Pasason	Newspaper
65	16 May 2008	Pr Origami Contest	Vientiane mai	Newspaper
66	20 May 2008	Pr Origami Contest	Vientiane mai	Newspaper
67	27 May 2008	New MBA Program	Vientiane times	Newspaper
68	28 May 2008	Exchange activity Lao & Japanese students (use internet)	Vientiane mai	Newspaper
69	28 May 2008	Exchange activity Lao & Japanese students (use internet)	Vientiane times	Newspaper
70	30 May 2008	New Master Degree	Vientiane times	Newspaper
71	9 Jun 2008	PR MBA Course	Pasason	Newspaper
72	10 Jun 2008	Origami Contest	Vientiane times	Newspaper
73	11 Jun 2008	PR MBA Course	Vientiane mai	Newspaper
74	12 Jun 2008	Japanese Language Festival	Vientiane mai	Newspaper
75	13 Jun 2008	Laos, Japan Further Cooperation	Vientiane times	Newspaper
76	16 Jun 2008	PR MBA Course	Pasason	Newspaper
77	16 Jun 2008	JCC Meeting	Vientiane mai	Newspaper
78	17 Jun 2008	PR MBA Course	Vientiane mai	Newspaper
79	27 Jun 2008	Study in Japan Fair	Vientiane times	Newspaper
80	30 Jun 2008	Study in Japan Fair	Vientiane mai	Newspaper
81	10 Jul 2008	MEXT Scholarship Examination	Vientiane times	Newspaper
82	29 Jul 2008	Japanese Experts Pass on Know Ledge	Vientiane times	Newspaper

83	6 Aug 2008	PR Business Course	Pasason	Newspaper
84	6 Aug 2008	PR Business Course	Vientiane mai	Newspaper
85	11 Aug 2008	PR Business Course	Vientiane mai	Newspaper
86	12 Aug 2008	PR Business Course	Pasason	Newspaper
87	15 Aug 2008	Japanese Language proficiency test	Pasason	Newspaper
88	15 Aug 2008	Japanese Language proficiency test	Vientiane mai	Newspaper
89	18 Aug 2008	PR Japanese singing Contest	Pasason	Newspaper
90	18 Aug 2008	PR Business Course	Vientiane mai	Newspaper
91	19 Aug 2008	PR Japanese singing Contest	Vientiane mai	Newspaper
92	20 Aug 2008	PR Japanese singing Contest	Pasason	Newspaper
93	25 Aug 2008	PR Business Course	Vientiane mai	Newspaper
94	25 Aug 2008	PR Japanese singing Contest	Vientiane mai	Newspaper
95	9 Sep 2008	PR Japanese animation film festival	Vientiane mai	Newspaper
96	9 Sep 2008	PR Japanese animation film festival	Vientiane times	Newspaper
97	10 Sep 2008	Exchange project shares Lao Culture with Japan	Vientiane times	Newspaper
98	15 Sep 2008	PR Japanese Language proficiency test	Pasason	Newspaper
99	15 Sep 2008	PR Japanese animation film festival	Vientiane mai	Newspaper
100	17 Sep 2008	PR Japanese animation film festival	Vientiane times	Newspaper
101	17 Sep 2008	MBA program Launched at NUOL	Vientiane times	Newspaper
102	17 Sep 2008	MBA program Launched at NUOL	Vientiane mai	Newspaper
103	23 Sep 2008	Singing contest features in Japanese festival	Vientiane times	Newspaper
104	1 Oct 2008	Japanese opera captivates local audience	Vientiane times	Newspaper
105	16 Oct 2008	Lao Movie show at Lao-Japan Center	Vientiane times	Newspaper
106	27 Oct 2008	PR Business and Computer Course	Vientiane mai	Newspaper
107	29 Oct 2008	PR Business and Computer Course	Vientiane times	Newspaper
108	29 Oct 2008	PR Business and Computer Course	Pasason	Newspaper
109	30 Oct 2008	PR Business and Computer Course	Pasason	Newspaper
110	30 Oct 2008	Photo essay (JENESYS)	Vientiane times	Newspaper
111	30 Oct 2008	PR Business and Computer Course	Vientiane times	Newspaper
112	3 Nov 2008	PR Business and Computer Course	Pasason	Newspaper
113	4 Nov 2008	Honda YES Award	Vientiane mai	Newspaper
114	4 Nov 2008	PR Business and Computer Course	Vientiane mai	Newspaper
115	6 Nov 2008	Honda YES Award	Vientiane times	Newspaper
116	7 Nov 2008	Photo essay of Honda Yes Award	Vientiane times	Newspaper
117	25 Nov 2008	JCC Meeting	Vientiane times	Newspaper
118	23 Jan 2009	Lao Seminar	Vientiane times	Newspaper
119	27 Mar 2009	Japan lets local business in on marketing tips	Vientiane times	Newspaper
120	7 Apr 2009	Japanese expert offers tailor made solutions for garment industry	Vientiane times	Newspaper
121	30 Jun 2009	PR Japanese Course	Vientiane mai	Newspaper
122	6 Jul 2009	Japanese Lecturer spreads business knowledge	Vientiane times	Newspaper
123	8 Jul 2009	PR Japanese Language proficiency test	Vientiane times	Newspaper
124	16 Jul 2009	PR Japanese Language proficiency test	Vientiane times	Newspaper
125	2 Oct 2009	Study in Japan Fair	Vientiane times	Newspaper
126	12 Oct 2009	Bon Odori	Vientiane times	Newspaper
Radio				
1	2 Sep 2007	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
2	9 Sep 2007	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
3	16 Sep 2007	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
4	23 Sep 2007	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
5	30 Sep 2007	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
6	7 Oct 2007	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
7	14 Oct 2007	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
8	21 Oct 2007	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
9	28 Oct 2007	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
10	4 Nov 2007	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
11	11 Nov 2007	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
12	18 Nov 2007	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
13	25 Nov 2007	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
14	2 Dec 2007	Interview Japanese singer Opera with LJC information	Lao National Radio	Radio
15	9 Dec 2007	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
16	16 Dec 2007	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
17	23 Dec 2007	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
18	30 Dec 2007	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
19	6 Jan 2008	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
20	13 Jan 2008	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
21	20 Jan 2008	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
22	27 Jan 2008	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
23	3 Feb 2008	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
24	10 Feb 2008	Interview Judo Student with LJC information	Lao National Radio	Radio
25	17 Feb 2008	Interview JOCV Student with LJC information	Lao National Radio	Radio
26	24 Feb 2008	Interview Gypsy Queen with LJC information	Lao National Radio	Radio
27	2 Mar 2008	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
28	9 Mar 2008	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
29	16 Mar 2008	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
30	23 Mar 2008	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
31	30 Mar 2008	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
32	6-Apr-08	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
33	13-Apr-08	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
34	20-Apr-08	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
35	27-Apr-08	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
36	4 May 2008	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
37	11 May 2008	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
38	18 May 2008	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
39	25 May 2008	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
40	4 May 2008	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio

126	27 Dec 2009	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
127	3 Jan 2010	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
128	10 Jan 2010	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
129	17 Jan 2010	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
130	24 Jan 2010	Interview JOCV with LJC information	Lao National Radio	Radio
131	31 Jan 2010	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
TV				
1	10 March 2007	On air IKEBANA demonstration	Lao National TV	TV
2	10 March 2007	On air Japanese speech contest	Lao National TV	TV
3	19 March 2007	On air Japanese cooking contest	Lao National TV	TV
4	5 June 2007	On air Ar JCC Meeting	Lao National TV	TV
5	21 Nov 2007	On air Japanese Folkdance	Lao National TV	TV
6	12 Dec 2007	On air Japanese Opera captivates art students	Laos Star channel TV	TV
7	24 March 2008	On air Japanese speech contest	Lao National TV	TV
8	16-May-2008	PR Lao-Japan Center	Lao National TV	TV
9	2-Jun-2008	Interview Evaluation tem	Lao National TV	TV
10	23-Jun-2008	PR Business Division	Lao National TV	TV
11	17-Jul-2008	PR Japanese Course	Lao National TV	TV
12	14-Aug-2008	PR Exchange Division	Lao National TV	TV
13	21-Sep-2008	PR LJC	Lao National TV	TV
14	18-Nov-2008	Honda YES Award	Lao National TV	TV
15	25-Jul-2009	PR Exchange activity between Lao students and Japanese students	Laos Star channel TV	TV
16	25-Nov-2009	JCC meeting	Lao National TV	TV

Note: The records were started to compile since August 2006

3. 第1次調査結果報告書

ラオス日本人材開発センター終了時評価調査

第1次調査結果報告書

目 次

1. 調査概要

- (1) 目的
- (2) 団員
- (3) 日程
- (4) 調査方法

2. 調査結果(要約)「ラオス日本人材開発センタープロジェクト 10年の成果 取りまとめ」

- (1) 成果1. 「ラオスにおけるビジネス人材育成機関のパイオニア的存在であり、市場経済化を牽引する人材を育成」
- (2) 成果2. 「ラオスにおけるビジネス人材育成の基盤を確立」
- (3) 成果3. 「日本的経営を活かし中小企業の活性化に貢献（フェーズ2）」
- (4) 成果4. 「日本・ラオス両国の相互理解促進」

3. 基礎情報

- (1) 現地収集情報
- (2) 面談録

1. 調査概要

(1) 目的

ラオス国では、1986年以降、市場経済移行を推進するための経済改革が行われ、そのための人材育成が重要な課題とされている。1995年には人材育成の一環として、アジア開発銀行の支援によりラオス国立大学の設立、経済経営学部の新設による高等教育人材の育成が行われていた。アジア開発銀行のプロジェクトは2001年に終了され、日本政府に対する技術協力の要請があった。

我が国では、市場経済移行国の人材育成支援の一環として、「日本人材開発センター」設立構想が立てられ、1998年7月に我が国よりラオス国政府に対し、「ラオス日本人材開発センター」設立構想を提示したところ、ラオス国立大学経済経営学部支援及びラオス日本人材開発センター設立への協力をひとつの技術協力プロジェクトとして実施することが合意された。

2000年7月に両国間で締結されたR/Dに基づき、2000年9月、5年間の技術協力プロジェクトが開始された。当初はラオス日本人材開発センター（以下、LJC）プロジェクトとラオス国立大学経済経営学部支援は一つのプロジェクトとして運営されていたが、それぞれの活動が活発化し、規模も拡大したことから、最終年度の2004年度に個別プロジェクトとしての運営が行われるようになった。

プロジェクト終了あたり、C/P機関であるラオス国立大学は、LJCプロジェクトによる協力を高く評価し、JICAによる支援継続の要請を行ったところ、2005年9月から、5年間のプロジェクトとして「ラオス日本人材開発センター（フェーズ2）」が実施されることが合意された。今般の終了時評価第一次現地調査は、フェーズ1及びフェーズ2と計10年間に渡る活動実績、実施プロセスを振り返り、LJCが高度人材育成機関として、ビジネス分野をはじめとする人材育成及び企業振興、相互理解交流等の分野でどのような成果をあげてきたかを取り纏めるものである。

(2) 団員

評価企画	野村 留美子	国際協力機構公共政策部 ガバナンスグループ 日本センター課
評価分析	松下 智子	株式会社 アンジェロセック 人間環境開発部

(3) 日程 (第1次調査)

曜日	時間	面談予定者	同行者
11月9日 (月)	10:00	LJC日本人専門家	
	14:30	マニソットLJC所長	
	16:00	JICAラオス事務所 高島所長	
	16:30	機部所員(民間セクター担当)	
11月10日 (火)	9:30	野村国際交流基金派遣日本語教育専門家	
	11:00	吉川専門家	
	13:00	Bounlounane DOUANGNGEUNE LJC副所長	
	14:00	ラオス国立大副学長 Dr. Saykhong SAYNASINE	
	15:30	岩館専門家(業務調整)	
11月11日 (水)	9:00	三好専門家(相互理解)	
	11:00	教育省国際協力局長 Mr. Sengsomphone Viravouth	吉村所員
	14:00	ラオス国立大経済経営学部(FEBM)学部長Mr. Khamlusa、 准教授 Mr. Thompeth	
	15:30	佐藤リーダー	
11月12日 (木)	10:00	ラオス企業 SINO (中古車販売)	エクセル社山本氏
	15:00	ミドリ安全(安全靴製造)	岩館
11月13日 (金)	9:00	王子製紙(王子Laoプランテーションフォレスト会社)	岩館
	11:00	ラオス企業 Xang Phuan Noodle Factory(生麺製造会社)	エクセル社清水氏
	14:00	ラオス企業 Viengniyom Factory(家具製造会社)	エクセル社清水氏
	16:00	在ラオス日本大使館 宮下大使、田中書記官	武井次長、吉村所員、佐藤リー
	17:00	野村団員帰国前打ち合わせ(佐藤リーダー、吉村所員)	
	夜	野村団員帰国	
11月14日 (土)	10:00	ラオス商工会議所 副事務局長 Ms. Sengdavone BANGONESENGDET	エクセル社吉川氏
		書類整理	
11月15日 (日)		書類整理	
11月16日 (月)	9:00	教育省職業訓練局	吉村所員
	13:30	ビジネスコース受講者	
11月17日 (火)	9:30	日本語コース受講者、相互理解促進事業イベント参加者 3名	
	11:30	Somchay PHETLAMPHANH LJC副所長(相互理解担当)	
	14:00	Mr. Somphene PHANKHAM総務部門長	
	15:00	ラオス企業 Dosavanh Garment(縫製工場)〈先方の事情で取りやめ〉	エクセル社吉川氏
11月18日 (水)	9:00	Lao-India起業家開発センター	吉村所員
	11:30	LJC日本語コース長 Mr. Somixay TEXO	
	16:00	MBA受講生 3名	
11月19日 (木)	10:00	JCC meeting	
	14:00	ラオス企業 Laosavanh (機械修理工場)現場指導見学	エクセル社清水氏
	16:00	総務部門職員	
11月20日 (金)		松下団員帰国前打ち合わせ(佐藤リーダー、ブンルアンビジネスコース長)	

(4) 調査方法

(イ) キーインフォーマント・インタビュー

以下のプロジェクト関係者などとインタビューを行った。

(a) 日本センター事業の受益者

- (i) ビジネスコース受講生
- (ii) 日本語コース受講生
- (iii) 相互理解活動参加経験者

(b) 先方関係者

- (i) 活動全般
 - ① カウンターパート（大学）
 - ② 教育省
 - ③ ナショナルスタッフ
- (ii) ビジネスコース関連
 - ① 現地商工会議所

(c) 現地日本関係者

- (i) プロジェクト専門家
- (ii) 大使館
- (iii) 現地日本企業

(ロ) 既存資料のレビュー、アンケート実施

プロジェクトにより作成された既存の情報・データを収集したほか、以下の項目に係るアンケートを作成、プロジェクトの協力を得て実施した。

(ハ) 直接観察

LJC 施設を見学、ビジネスコースの一部授業を参観した。経営診断／現場指導に同行し、企業を見学した。

2. 調査結果「ラオス日本人材開発センタープロジェクト10年の成果 取りまとめ (案)」

成果1. ラオスにおけるビジネス人材育成機関のパイオニア的存在であり、市場経済化を牽引する人材を育成

1. ラオス唯一の国立大学で、史上初めて設立された経済経営学部の支援を通じ、市場経済化を牽引する人材を4,285人輩出した(2001年から2009年にかけて、経済学部1,730名、経営学部2,555名)。圧倒的にビジネス人材が不足している中、基礎的なビジネス知識を備えた多くのラオス人を育て、送り出してきた)
2. 社会人に対する短期間の、実践面を重視したビジネスコースを通じ、企業で即戦力となる人材を2,677人育成した(ラオス人講師2,039名、日本人による実践的ビジネスコース377名、ラオス人ビジネスコース261名)
3. 経済経営学部と合同のMBAコース設立を通じ、さらに高度なビジネス人材の育成を行った(第1期生35人、第2期生38人)
4. センターの実績がラオス国立大学のみならず、ラオス政府にも評価され、センターから学部と同レベルの「インスティテュート」に格上げされる見込み(来年3月頃予定)。
5. ビジネスコース修了生には、Lao Telecom、UNITELなどのラオスを代表する大企業の社長など産業界の中枢で活躍する人材も含まれる。

2000年、ラオス国内初の経済経営学部であるラオス国立大学経済経営学部(以下、FEBM)に対する支援とのパッケージにより開始されたプロジェクトとして、ラオス日本人材開発センター(以下、LJC)プロジェクトが開始され、LJCはビジネス人材育成機関のパイオニア的存在として、市場経済化に対応する人材育成において重要な役割を果たしてきた。

プロジェクト開始当時、同国の政府機関幹部職員、国営企業幹部職員、経済・経営学部の大学教員等、ある程度の要職にあった世代の多くは、ソ連や東ドイツなど旧ソ連諸国において、社会主義思想に裏付けされた高等教育機関で学び学位を取得していた(LJCラオス側所長・副所長1名も一例)。当時、資本主義に基づく経済理論、経営理論に係る講義を提供できる教育機関はなく、ましてや一般社会人に対する経済学・経営学に係る講義を実施する機関は存在しなかった。そのため、LJCビジネスコースは「ラオス初のビジネス講座」として開設され、市場経済化への道を歩み始めたばかりの同国経済を率いる政府職員や、ビジネス活動を担う国営・民間企業社員に対し、経済の大転換期において緊急に不可欠となった資本主義経済・経営理論の基礎知識を得る手段として唯一無二の機会を提供してきた。

これ以降、LJCは現在まで2,677名の修了生を輩出し、同国ビジネス人材の育成において多大な貢献を果たしている。

プロジェクト初期の受講生は、政府機関の幹部職員、国営大企業の幹部・職員、民間企業の幹部・職員、ならびにパッケージで行われていたラオス国立大学経済経営学部の学生、

が占めていた。調査団が実施したラオス国立大学へのインタビュー等によれば、同大学経済経営学部の卒業後の進路について、ほぼ 100%が卒業後 1 年以内に政府機関や産業界に就職したと回答している。プロジェクト側が行った調査では、これまでの全修了生の中には、受講後約 8 年を経て、産業界あるいは所属企業において重要な地位に就いている者もあり、ラオスを代表する大企業である Lao Telecom や UNITEL 等、大企業の社長を務める修了生もいる。ラオスでは、大企業は国営企業（Lao Telecom や UNITEL など）、国営企業が外資に払い下げられた JV 企業（Lao タバコなど）に限られており、依然、95.5%の企業が中小企業に留まっているが、特にフェーズ 1 の修了生には、政府関係者のほかに国営大企業の幹部・職員が多く、その勤務先にはラオス商工会議所の主要メンバーとなっている企業も多く、同国の産業や投資の牽引役として中心的な役割を担っている。

2001 年のビジネスコース開始当初、現地語（ラオ語）による経営学のテキストは同国内に存在しなかったが、LJC により、独自でビジネスコースのニーズに合わせたテキスト（上級編 8 種類及び基礎編 8 種類、計 16 種類）が作成された。これらテキストは、LJC ビジネスコース使用するために作成されたもので、開講以来、調査団他ドナーによる研修事業においても、LJC ビジネスコースのテキストが使用されたことが確認されている。本テキストは経営学の知識伝搬を促進する不可欠なツールとして認知されている証と言える。その後フェーズ 1 からフェーズ 2 にかけて、進展するラオスの市場経済化の動向に応じ受講生のニーズも大きく多様化し、カリキュラムの見直しが行われ、ビジネスコースは進歩を遂げてきた。

フェーズ 1 よりビジネスコース（基礎、上級）の講義は一貫して、短期間で実践の場で活用できる知識の取得を目指しており、大企業を中心に多数の社員が派遣されるなど、企業人材の育成に大きく貢献してきた。プロジェクト開始後数年経て、より一層実践的な講義を期待する声が高まり、フェーズ 2 ではこうしたニーズを反映したカリキュラムの検討が行われた。特に各企業の経営課題や、起業を目指す若手経営者が抱える課題など、多様化した受講生のニーズを考慮した起業論の講義や、各企業に対する個別の経営診断・現場指導が導入された。これらは日本的経営を重視した内容で、画期的な取り組みとして、受講者から高い評価や関心を集めた。フェーズ 2 の修了生から抽出したサンプルを対象とする満足度調査によれば、「満足している」と回答した受講生は一般コースで 63%、MBA コースで 88%を占め、実際の業務に役立ったとの意見も多く、「就職の機会を得た」、「会社の業績が向上した」、「収入が向上した」など実際的な利益が見られたとの回答は（見込みも含めると）一般コースで 79%、企業診断で 100%に達した。MBA コースで 46%であったが、アンケートの対象者は第一期生と第二期生であり、本年 3 月に第一期生が卒業することからすれば、高い数字であると言え、実践面での高い有用性に対する評価は総じて極めて高い。

2008 年 9 月より、ラオス国立大学との合同でより高度なビジネス人材育成を目的とした 1 年半の正規の MBA コースが開講され、現在一期生 35 名、二期生 38 名が在籍している。

同年 11 月現在、ビエンチャン市内に一部社会人を対象としたビジネスコースを開講する機関は LJC 以外に 3 機関あるが、その講義内容は理論に重点が置かれ、(対象・時間帯も)限られており、LJC の活動の高い実用度・優位性は産業界・学术界から認められている。

かかる LJC ビジネスコースが果たした成果は、同国政府から高く評価されているほか、市場経済化と 2015 年の ASEAN 域内経済統合の加速化に伴い、それに資する人材の育成の必要があることから、2010 年前半に LJC をラオス国立大学の学部と同レベルの「インスティテュート」に格上げすることが見込まれている。

成果 2. ラオスにおけるビジネス人材育成の基盤を確立

1. ラオス側の高いオーナーシップ
2. ラオス側の応分のコストシェア（ラオス側 1：日本側 1）
3. 充実したカウンターパート配置（2000 年 1 人→2008 年 15 人。通常定員 10 人）
4. 低い離職率（フェーズ 1 開始時点から 3 名）
5. 高い現地講師による授業率（時間単位 84%、講師人数 85.7%、2008 年 4 月時点）
6. 積極的な収益事業の多角化による収入の向上（2005 年度比で 3 倍（2008 年度））
7. インスティテュート化による更なる基盤強化

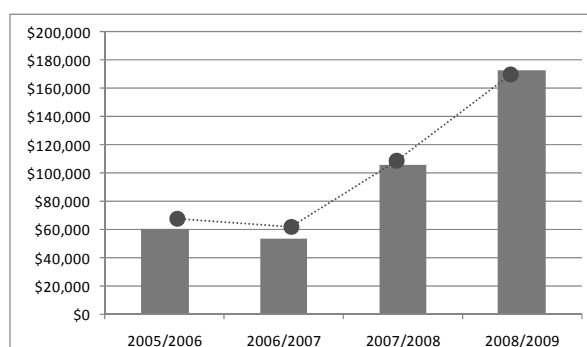
フェーズ 1 開始当初、財政面での自立発展性確保は他国日本センターと共通した課題であった。当初から、LJC の運営に必要な光熱費と通信費等はラオス側が負担し、受講料収入から、ビジネスコースの現地講師への謝金、日本語コースの非常勤講師の講義謝金や少額の消耗品購入費等の費用が賄われてきた。フェーズ 1 時点では主にビジネスコースに自己収入源が集中したが、センター事業の公共性の高さに鑑み、授業料設定は低廉に抑えられていたことで、十分な収入源確保には至らなかった。そのため、2004/2005 年度の事業運営費の JICA 負担率は 70.8%となっていた。

フェーズ 2 が開始してからは、ラオス側のオーナーシップの下、自己収入の多角化を目的として、様々な収益事業が積極的に導入された。特に 2008 年には高まるビジネス人材育成のニーズに対するラオス側の要請により、FEEM との共同による正規の MBA コースが導入された。MBA コース（1.5 年間のコース）の受講料は 2,500 ドル/1 名と、現地物価に比して高額であるものの、受講希望者は定員を上回り、初年度から同コースだけでも受講料総収入は\$55,273 に達している。

そのほかラオス日本留学フェア、日本の大学生のスタディツアー受入、日系企業職員の日本語研修、JOCV の現地語学研修など、利用者の多様なニーズに応えたサービスが、両者の協働の下で提供されている。これら収益事業は、収入の拡大・安定化に大きく貢献し、2008 年度は、フェーズ 2 開始時点の 2.9 倍に当たる約 173 千ドル強の自己収入を得ている。

また、上述の通り、本プロジェクトが FEEM との協働で実施されてきたことで、LJC スタッフの多くが大学から派遣される公務員である。当初 2 名のみの C/P 体制で開始された本プロジェクトであった。しかし 10 年をかけてラオス側の配慮により C/P の配置体制が着実に整い、現在は大学

収益事業多角化による自己収入の推移（2005～2008）



に配置できる上限を超えた人数の C/P を配置しており、職員全体の現地化率は 91%となっている。

講師の現地化率も高く、ビジネスコースは、講義時間全体の 84%、講師の人数の 85.7%を現地講師が行っており、過去 10 年間で現地講師が知識・経験を積み重ねる機会を得るに至っている（2008 年 4 月時点）。なお、これまでの LJC 全体のスタッフで離職者は 3 名に

当初の C/P・スタッフ配置状況 (00 年 12 月時点)

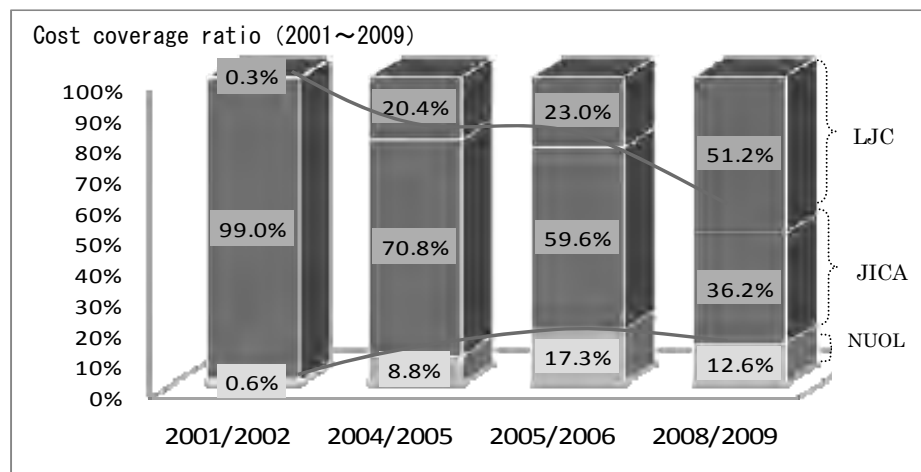


現在の C/P・スタッフ配置状況 (09 年 9 月時点)



留まっている。

こうしたラオス側の自主的なイニシアティブにより、フェーズ 2 終了までに LJC 運営に係る日・ラオス側の負担は 50%ずつとする具体的目標が掲げられていたが、2009 年 9 月末時点で既にラオス側負担（自己収入及びラオス国立大学分）は約 63.6%に拡大し、JICA 側負担は 36.2%に縮小している。



MBA コースの第一期生 35 名は、2010 年 3 月にはラオス国立大学の正規の経営学修士号が授与される予定で、同国の経済界、産業界を率いる国際水準を満たした人材として一層の活躍が期待される。

上述の通り、LJC の財政面、人材面の基盤は順調に確立されつつあり、2010 年 8 月以降は NUOL 内で「センター」から「インスティテュート」へと格上げされることが見込まれ、今後ラオス側のオーナーシップの下、より充実した機能・運営能力を備えた教育・研究施設として更なる組織強化が求められている。

成果 3. 日本の経営を活かし中小企業の活性化に貢献 (フェーズ 2)

1. 経営診断受講企業のうち、受講した内容が実務に役立っているとの回答は 100%
2. 受講の成果として、企業収益、収入向上等に繋がったと回答した受講生の割合も多い

ラオス政府は、第 7 次国家社会経済開発計画 (NSEDP: National Social Economic Development Plan) において、民間セクターの振興が国全体の貧困削減、生活水準向上に資するものであるとして、喫緊の開発課題の一つに位置づけている。世銀によれば、製造業全体のうち、小企業 (家内企業などのマイクロビジネス) は約 97% を占め、国営企業は 15%、中小企業・大企業のうち 35% が民間企業を占め、55% が外国資本との合弁事業である (世銀 (2008) “Lao PDR Economic Monitor”) (産業通商省の定義によれば、大企業は従業員規模が 99 名以上、中小企業は 20~99 名未満、マイクロビジネスは 20 名未満を指す)。同国政府の発表によれば、2009 年 11 月時点で、一日 1 ドル以下で生活する国民の割合が 26% となっており、依然貧困率は深刻な問題の一つである。一次産品に過度に依存し、製造業が未発達であり、工業製品 (建設機械、車両)、石油燃料の輸入依存度が高い脆弱な産業構造となっている。

ラオス政府は、2006 年には「中小企業の振興と発展に係る大統領令」を公布するなど、中小ビジネス活動の活性化を進める施策を図っている。しかし、ラオス国内では未だ許認可手続きの不透明性や煩雑さ、資金調達が困難であることは他の旧社会主義国同様、企業活動を阻む要因として国際機関等から指摘されている。輸出企業に比べ、特に国内市場向けの企業活動に対する高関税、厳しい審査は企業活動を阻む要因としてであり、高税率を避けるため家内企業に留まる企業も多く見られると言われており、依然としてラオス経済は市場経済化が進んだ状態とは言えない。

すなわち中小企業が占める割合が極めて高く、その数も拡大傾向にあることは、手続きの煩雑さ、銀行の融資を得るのが困難などビジネス環境が整っていないことの証左であるとともに、中小企業の育成により、今後、貧困削減のみならず、就労機会の増加において果たしうる役割が期待される。

LJC の受講生に占める中小企業勤務者の割合もフェーズ 1 半ば以降、徐々に増加傾向にあり、フェーズ 2 では比較的高い割合を占めている。LJC は開始当初から、受講者の実質的な経営ニーズに応えるカリキュラム・コースを模索してきており、特にフェーズ 2 からは中小企業を対象とした実践ビジネス講座を企画してきた。ADB の調査では同国内の木造加工業、製造業等の労働集約的な製造業のうち、家内企業・マイクロビジネスの割合が 46% と多く、中規模企業が 22% でそれに続いているが、こうした状況に鑑み、起業を目指す若手経営者を対象とした企業論や、2005 年 12 月から生産管理、品質管理の日本人専門家による中小製造企業に対する経営診断・現場指導が導入された。

中小製造業企業の多くは、職人の技能、個人の勘による判断に頼った経営が行いがちで、データやノウハウの蓄積がなされていない等の課題を共通して抱えている。調査団が行ったインタビューでも、会社として職人の技能向上には比較的積極的に取り組む一方で、儲

けには疎く、事業計画の立案や次年度の受注予測を検討したことがないばかりか、マーケティング戦略や顧客開拓、販売ルートの開拓などの知識は講義で初めて知ったと答える企業が多かった。経営者の年齢が高いとなおさらその傾向は高く、過去の経験を検証し、理論に基づいて利益の追求を重ねたり、モノ作りを改善するよといった市場経済の原理に基づく企業経営からは遠い傾向が見られた。

特に現場指導では知識をただ覚えさせ、反復させるのではなく、日本的な企業風土に基づいた社内のコミュニケーション活性化により、従業員の意欲を引き出したり、中堅管理職の役割を担うスタッフを指名し、他の従業員の指導を行わせ、知識・ノウハウのハンディを解消するような指導の方法を行っている。勤勉でまじめなラオス人気質に日本的な価値観が受け入れられる土壌が存在するからこそ、ラオスでは日本的経営による技術・ノウハウが企業の発展で果たしうる役割が大きいものと思われる。

現場指導が開始されて、まだ日も浅く、現時点では顕著な変化は見られないが、受講者に対するアンケートでは、知識を実践に活用した結果、会社の業績などの変化や、個人昇進などの変化が見られたとの回答は100%に達した。受講した中小企業経営者の多くが競争力のある国内産業や雇用の創出のポテンシャルを活かし、ビジネスを通じた地域振興を志していたり、地元の学生への奨学金の提供を考える経営者もあり、調査団が実施したインタビューによれば、ビジネスが実を結んだ暁には出身地域が抱える貧困や格差是正といった課題を解消に努めたいとの回答も数多く聞かれた。LJC ビジネスコースを通じ、戦略的かつ実務的なスキルを身につけ、社会的課題に対処する次世代のビジネスリーダーの育成が期待されている。

【成功事例①：縫製業 Daosawanh Garment 社長/工場長 Ms. Sigrong THAVIXAY 生産管理、マーケティングコース、経営診断受講】

- 2006年、母親が経営する印刷工場を引き継ぎ、縫製企業を創業。現在は経営者/工場長として2,3名の生産部門、6名の事務員を抱えている。操業当初はミシンが1台しかなく自前で縫製ができず、衣類を販売するに留まっていた。現在は工場として縫製も行っている。
- 学生時代から、縫製業で海外の市場に参入したいと思っており、社会人向けのビジネススクールを探していた。LJCの存在は以前から知っていたが、日本的経営に対する好意的なイメージ、他の機関の講義と比べて実践的な内容を学べることを知り、LJCに応募した。
- コース期間中の2007年6月から、計7回に渡りを受け、日本的経営の特徴である「目で見る生産管理」の概念の導入を図り、経営改善に着手した。
- 日本人専門家の指導により、過去の生産記録の整理により実稼働率を把握し、受注量が2,000枚以上の場合は製造工程分析表を作成し、生産計画や作業配分の効率化に役立てた。また、従業員の熟練度を増す訓練に労力を払い、同時に従業員の定着率を向上させるため、「講」を組織し従業員同士の相互扶助促進を図った。

【成功事例②：日本製中古トラック輸入業 SINO 社長 Mr. Deuanepheng SOUKHOUMALAY マーケティングコース、経営診断受講】

- 受講当時、日本の輸出商社に対して輸入代金前払い送金を行っていたが、持ち逃げや倒産などのリスク回避が困難と言った課題を抱えており、経営指導を受け、L/C ベースの後払い送金へと変更、中古車到着後に品質確認後に支払うシステムを導入した。
- CRM (Customer Relationship Management) の概念を経営に導入し、顧客のニーズにきめ細やかに対応することで長期的な関係を築き、収益率の増大を目指した。同時に、市場需要の推移を業種別、地域別に調査した上で、ターゲットを絞り込み、顧客のニーズ分析に応じた自社の USP (Unique Selling Proposition：独自の売り・特徴) を顧客が共有できるよう、提案書に基づく積極的なアプローチを行うようになった。
- これらの成果として、輸入販売実績は拡大しており、今後の販売目標について「2011 年までの弊社の販売目標は、2008 年時点の 150 台から 2 倍の 300 台を目指している。
- 学んだ知識は、従業員にも徹底するよう努めている。会社全体で、顧客重視の経営 (信頼獲得) を目指しており、潜在的な顧客とも長期的な関係を築けるよう努力するようになった。丁寧な応対・接客を社員が心がけるよう指導しており、他の社員にも徹底できている。
- 顧客の購買欲を刺激するため複数の製品を示し、ニーズや好みに合わせて商品を勧める、適切なタイミングで決断をする等、多くを実践に結びつけている。

【成功事例③：Xang Phuan Noodle Company 経営診断受講】

- 経営診断・現場指導を通じ、従業員に 5S を徹底するよう努めている。しかし従業員間の教育レベルのギャップや、地方出身者の中には衛生観念のギャップが大きい人もいるなど、徹底するには困難な課題もある。現在、社内で 5S 担当者を設置しており、8 月から 12 月に清掃完了の予定。
- 今後は日本的な考え方を軸に経営していきたいと考えている。日本的な考え方には自発的な変化を期待する姿勢があると思う。また学んだ知識は従業員が内部から成長し、やる気を起こさせることを待つという点で、実践的だと思う。
- 今後は機会があればマーケティングについて学びたい。また生麺のパック包装で保存料なしで行う方法を導入したいが技術的に難しい。また輸入のうるち米を使用し、乾燥麺の製造にも着手したいが資金が不足している。ビジネスを拡大するには銀行からの借入れが必要だが、金利は 12～18% で、外国からの支援なしでは実現は不可能。
- 近いうちに FAO 基準に沿って保健省が定めた基準 (GMP, Good Management Practice) で認可される見通しで、安全な食品を製造する工場として認知されるようになると期待している。国際基準に則った食品を製造する工場として、ラオス国内のモデル的な存在を目指している。

【成功事例番外編：大企業でも実践される日本的経営 Lao Tobacco の事例】

- ラオタバコはラオス政府（41%）と Imperial Tobacco との JV による 2001 年設立、前身は Lao タバコ。従業員は 510 名。ラオス国内で最も大きい企業。
- Imperial Tobacco 中国支社の工場長として勤務時代に 5S を推進した経験のある同社幹部が、新聞に掲載された LJC ビジネスコースの広告から 5S が学べると知り、25 名の職員をコースに送った。LJC は最も良いビジネスコースを有する学校として定評が高かった。
- 受講後、修了生 5 名を中心とする 5S 委員会を社内に組織し、各部署から担当者を募るなど、社内で積極的な取り組みを行った。当初は「忙しいから不可能、「時間の無駄」、「清掃婦の仕事」と取り合わない社員も多く、協力者を得ることが難しい面もあり、必ずしもすべての部署が協力してくれたわけではなかった。しかし、徐々に賛同者が増えていった。
- 5S 委員会は週に一度会合を行い、5S プロモーション計画を本年 7 月に作成した。また来年 6 月をめどに、より規模の大きいマスタープランが策定される予定。
- 現在では 5S は浸透しつつあり、必要なもの・不要なものが明確に整理され、道具など全ては片づけられるようになるなど、職場環境がスムーズになり、生産効率が改善されるなどの成果が見られた。
- 「5S 推進」を行ったのは社内で評価され、将来的に昇進に結びつくと期待している。

成果4. 日本・ラオス両国の相互理解促進

1. 日本語学習者の数が2006年493人から2008年540人に増加
2. 国費及びJDSによる日本へ留学するラオス人の数が2000年50人から2008年58人に増加
3. 日本留学フェアを開催し、2005年56人、2008年71人、2009年361人のラオス人が参加
4. 相互理解促進事業の実績（過去4年間に618のイベントを実施し、合計34,951人が参加）
5. 日本企業、日本関連団体（本田財団等）との連携
6. 将来、日本語を活かした故郷の観光開発など、地元への貢献を望む修了生もいる。

同国において、LJCは日本語コース、文化紹介を実施する機関として、最も知名度の高い機関である。2001年に同国で先陣を切って日本語コースが開講され、国内で最も高い授業レベルを誇っている。日本語コースの受講者数は、フェーズ1時点と比較して若干減少傾向にあるが、どの時点においても受講生からの満足度も高いものとなっている。

ラオスには60年代後半より国費留学プログラムが導入され、その後一時中断したものの、80年代後半に再開し、以降様々なプログラムが実施されている。2000年にはJDSプログラムが開始され、留学生数は大幅に増加した。国費及びJDSによる留学生総数は2000年に50名であったが、2008年には58名へと増加しており、全てのプログラムにおいて着実に定員枠が増員されてきている。私費留学生を含む正確な留学生数は公表されていないが、留学生ビザの発行件数も、2006年70件、2007年81件、2008年78件と増えてきている。留学生の主な研修・研究対象分野は、経済・経営学、工学（IT、建築）、教育学が多いほか、NUOL文学部日本語学科創設に伴い、日本語・日本文化及び日本語教授法への進学希望者も増えている。LJCでは留学フェアを開催し、出席者は2008年には71名であったが、2009年には361名へと急増しており、日本留学への関心の高まりが伺える。

国費及びJDSによる日本留学生の推移

	00	01	02	03	04	05	06	07	08
研究留学生	4	5	4	3	3	5	5	5	5
研究留学生（技協枠）	2	1	2	1	1	1	1	0	-
学部留学生	5	5	3	3	1	3	1	1	2
高等専門学校留学生	9	9	10	11	13	15	14	15	17
教員研修	2	3	3	3	3	3	3	2	2
日本語日本文化	-	-	-	-	-	0	1	1	1
AYF	2	2	2	2	2	2	2	1	2
YLP	-	1	2	3	3	3	4	6	3
JDS	20	20	20	20	20	20	25	25	25
合計	50	52	54	56	58	56	55	59	58

相互理解事業も過去4年間に計618回行われたが、内容も文化紹介、学生間交流、JOCV研修など多岐に渡る事業が行われている。いずれも来場者から好評を博しており、参加者は年々増加傾向にある。また、付属の図書館には蔵書やDVDなど日本を紹介する資料が大変充実しているため、利用者数も年々増加傾向にある。その他、LJCは独自のラジオ番組を有し、週に一度LJCの活動や、新任の青年海外協力隊員を紹介するといった内容の番組を全国向けに放映しており、放送局に対し、放映内容に関する問い合わせが月平均で50件程度寄せられるなど、ラオスにおける相互理解促進において果たしている役割は大きい。

また、本田財団との協働によるYES奨励賞(科学技術の発展を担う若手リーダー育成事業)の奨学金オリエンテーション、現地日系企業からの依頼を受けた就職フェアや、企業現地職員の日本語コースの開催、日系企業による日本語コース優秀者へのスカラシップ提供など、官民連携の好例とも言える活動が多数展開されている。

リスト：2009年度LJC相互理解事業（9月末時点まで）

☆は他団体との連携による事業

タイトル	年月日	内容	参加人数	その他備考
★ JOCV研修:ラオス語授業	2009年3月30日～4月29日	ラオス語授業	7	JOCV平成20年度4次隊4名+SV3名対象
★ JOCV研修:ラオス文化紹介セミナー及び課外研修アレ	2009年4月1日～3日、6日、7日、10日、27日	公共施設利用法等	7	同上
★ 日本語学科向け日本文化体験講座	2009年5月8日、15日、20日	浴衣着付け、書道、茶道	19	JOCV平成20年度4次隊4名+SV3名対象
★ ラオスダンス講習会	2009年5月9日、16日、23日、30日	ラオス人を対象としたフルーツカービング講習会を実施。	12	有料 50,000Kip/人
★ フルーツカービング講習会	2009年5月16日、23日、30日	ラオス人を対象としたダンス講習会を実施。	9	有料 60,000Kip/人
★ 日本映画上映会	2009年5月30日	「マリと子犬の物語」上映	35	
★ JENESYS	2009年5月30日	文化紹介法等	22	
★ ラオス料理教室	2009年6月1日、8日、15日、22日、29日	外国人を対象としたラオス料理教室を実施。	2	有料 250,000Kip/時間
★ JOCVインタビュー収録	2009年6月10日	ラジオ向けJOCVインタビュー	2	
★ 留学説明会	2009年6月13日	奨学金の説明	125	
★ フルーツカービング講習会	2009年6月13日、20日、27日	ラオス人を対象としたダンス講習会を実施。	7	有料 60,000Kip/人
★ 日本映画上映会	2009年6月27日	「僕の彼女はサイボーグ」上映	210	
★ ラオスセミナー	2009年7月1日	ラオス大学生及び外国人を対象としたラオス文化紹介	38	無料
★ 日本料理講習会	2009年7月4日	増山SVIによる当センタートレーナーに対する日本料理教室	12	外部者のみ有料 50,000Kip/人
★ 本田奨励賞オリエンテーション	2009年7月8日	本田財団YES奨励賞の説明	200	
★ JOCVインタビュー収録	2009年7月9日、16日	ラジオ向けJOCVインタビュー	6	
★ JDS研修者への事前研修	2009年7月14日	日本文化紹介(日本料理)、アカデミックライティングの研修	20	
★ エッセイコンテスト入賞者研修	2009年7月24日～25日	ラオス文化体験講座(日本料理、民族衣装、ラオス舞踊)	21	
★ 映画上映会	2009年8月1日、29日	「Lの世界」「マリと仔犬の物語」	20	
★ 日本料理講習会	2009年8月8日	増山SVIによる当センタートレーナーに対する日本料理教室	10	外部者のみ有料 50,000Kip/人
★ 学生間交流	2009年8月12日	名古屋学院大学と日本語コース学生の交流	43	名古屋学院大学19名 日本語コース24名
★ 日本文化紹介	2009年8月12日	ピエンチャン特別市内の子供達への日本文化紹介(浴衣着付け、盆踊り)	65	
★ ラオスセミナー	2009年8月19日	ラオス大学生及び外国人を対象としたラオス文化紹介	49	無料
★ フルーツカービング講習会	2009年8月15日、22日、29日	ラオス人を対象としたフルーツカービング講習会を実施。	6	有料 50,000Kip/人

【成功事例：日本語学習者・相互理解事業参加者】

- 現在、日系企業で通訳・翻訳のアルバイトをしながら、LJC において日本語コースを受講している。日本語学習を始めた当初、ガイドとして働くことに関心があった。
- LJC の日本語コースは、他の日本語学校よりも教授法が良いと評判が高い。日本人講師もラオス人講師も大変教授法が優れていて、熱心にユーモアをこめて教えてくれるほか、激励の言葉をかけてくれる。
- 現在の夢は、日本語能力を活かし、故郷の観光開発に貢献すること。そのために日本語学校および日本語ガイド養成学校を開講して、LJC の日本人講師のような先生を目指している。今は、日系企業で働きながらお金を貯めたい。
- 相互理解コースには全て参加してきた。盆踊り、生け花、オペラなどが面白く、これからも相互理解事業への参加を通じ、日本に関する知識を増やしていきたい。

3. 基礎情報

(1) 現地収集情報

仮説	根拠	情報収集方法
1. ラオス国内におけるビジネス人材育成のパイオニア的存在であり、市場経済化を牽引する人材を育成	<ul style="list-style-type: none"> ・FEBM 支援として 4,285 名（経済学部 1,730 名、経営 2,555 名）輩出 ・企業にとって即戦力となる人材を 2,677 人輩出（ラオス人講師 2,039 名、日本人による実践的ビジネスコース 377 名、ラオス人ビジネスコース 261 名） 	<ul style="list-style-type: none"> ①LJC データ ②インタビュー
	<ul style="list-style-type: none"> ・同国初となるラオ語によるビジネス関連テキストを製作（2001 年）テキストの種類は、上級・初級各 8 種類 	<ul style="list-style-type: none"> ①LJC データ ②インタビュー ③類似施設対象の質問票
	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人に対する短期のビジネスコースを設けた施設は同国で初 受講生に対する質問票結果 	<ul style="list-style-type: none"> ①LJC データ ②インタビュー ③類似施設対象の質問票
	<ul style="list-style-type: none"> ・MBA コースの開設により、更に高度なビジネス人材を育成（第 1 期生 35 人、第 2 期生 38 人） 	<ul style="list-style-type: none"> ①LJC データ ②インタビュー
	<ul style="list-style-type: none"> ・ライセンス取得や高税率など企業の活動環境は整備されているとは言えず、民営化など市場経済化進展状況は緩やかなものとなっている。 	WB “Reducing Investment Climate Constraints to Higher Growth” など
②ビジネス人材育成の基盤の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・現地サイドのコストシェアが 51%。 	<ul style="list-style-type: none"> ①LJC データ ②インタビュー
	<ul style="list-style-type: none"> ・C/P の配置が 15 名と充実しており、大学が配置できる定員（10 名）の上限を超えた人数が配置されている ・職員の現地化率は 91% ・ビジネスコース講義時間全体の 84%、講師人数の 85.7%を現地側が行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ①LJC データ ②インタビュー
	<ul style="list-style-type: none"> ・2008 年より、ラオス側の要請で、経営学の正式な学位を与える MBA コースが開設、第一期生 35 名、第二期生 38 名。 	<ul style="list-style-type: none"> ①LJC データ ②インタビュー

	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な収益事業が実施された結果、コース収入が大幅に増加した（フェーズ 2 開始時点の 2.8 倍）。 ・MBA 初年度受講料は\$55,273。 <p>MBA コース以外に、留学フェア、JDS 支援、協力隊員の語学研修、日本の大学のスタディツアー受入、本田財団奨学金説明会、日系企業の現地職員日本語研修等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①LJC データ ②インタビュー
	<ul style="list-style-type: none"> ・ポストフェーズ 2 より、センターのインスティテュート化が見込まれている 	<ul style="list-style-type: none"> ①LJC データ ②インタビュー

③ラオスにおける中小企業の活性化に貢献（主にフェーズ 2）	<ul style="list-style-type: none"> ・経済に占める大企業、中企業、小企業、国営企業、民間企業の割合 	<ul style="list-style-type: none"> ビエンチャンタイムズ 国際機関報告書
	<ul style="list-style-type: none"> ・過去のビジネスコース、経営診断受講者のうち、中小零細企業経営に携わっている人材の割合 	<ul style="list-style-type: none"> ①インタビュー ②アンケート配布

④日本・ラオス両国の相互理解促進に寄与している	日本語教育・相互理解事業を行う施設が皆無であったところに、初めて創設	①インタビュー
	日本語学習者数が 2006 年 493 名から 2008 年 540 名へ増加	①LJC データ
	日本への留学生数は 2000 年 50 名から 2008 年 58 名へ増加した	②インタビュー
	LJC の紹介を通じ、日本企業への就職など日本語関連の職を得たとの事例あり	①LJC データ
	日系企業など、日本関連団体との連携事例	②インタビュー
	図書館、ラジオの広報的役割	①LJC データ
		②インタビュー

(2) 面談録

LJC 日本人専門家との面談	
2009年11月9日(月) 10:30-12:00 場所:LJC	先方:佐藤リーダー、岩館専門家、吉村所員 当方:調査団(野村、松下)
野村団員より、本調査団の訪問目的を述べ、これまで10年間日本センターが果たしてきた役割と成果について問うたところ、概ね以下の通り発言があった。	
<ol style="list-style-type: none">1. 日本センタープロジェクトは、同国内で初めての経済・経営学の高等教育機関であり、フェーズ1は運営の基礎固め期間として、FEBMの大学生を数千名教えてほか、社会人(国営企業)に対してもビジネスの基礎に係る講義を行った。フェーズ2では、理論と実践双方を組み込んだ日本的経営に関するコースを開始し、同時にMBAコースを開設したほか、センター運営の強化を行っている。2. 2001年の最初の卒業生(100名未満)は、現在各省(財務省、商工省)に勤務している可能性もあるが、年齢的には30歳前後と若いため要職に就いているかは疑問。従来、ラオスの大学には就職支援課が存在しないため、卒業生が就職した企業等の追跡調査は行われておらず、既存資料も存在しない。3. LJCは、自己収入確保の取り組みを熱心に行っている。MBAは30ドルという比較的高額の授業料であるが、受講生からの関心は高く、授業料収入は財政的な自立発展性にも大きく貢献している。MBAは、日本の経験の中で、ラオスに導入したら有効と思われるテーマを選び、実践的な講義を行うよう配慮されている点が評価されている。4. 将来的にセンターはInstituteに格上げしラオス国立大学の付属施設となれば、同大学の工学部、情報学部、法学部など他学部からの講師招聘が可能になるほか、各国の研究施設との連携する上でもより有用となる。現在、同大学内でLJCに隣接する土地に、孔子学院の建物が建設される予定だが、同学院はInstituteの名前が付けられている。5. 同国内の日系企業で最大規模の企業は王子製紙であり、ビジネスコースを最高の成績を修めた生徒に対する奨学金(4,000円)を支援している。ミドリ安全は安全靴製造で東南アジアで初の工場を創設し、ミドリ安全の本社に派遣する現地社員の日本語コースを実施していた。また同社の就職説明会、工場説明会をセンターで実施したことがある。	

マニソット LJC 所長との面談	
2009 年 11 月 9 日 (月) 14:30-15:40 場所 : LJC	先方 : マニソット所長 当方 : 調査団 (野村、松下)
野村団員より、本調査団の訪問目的を述べ、これまで 10 年間日本センターが果たしてきた役割と成果について問うたところ、概ね以下の通り発言があった。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. LJC にはフェーズ 1 の頃から関与を続けている。LJC は、日本側の長期派遣の専門家が多数派遣されており、また運営をラオス側に任せるなど、他ドナーによる支援と比較してもユニークなプロジェクトと考えている。 2. 他ドナーによるビジネス人材育成の研修は理論に特化しているケースが多いが、LJC のビジネスコースは理論と実践の両面からのアプローチがとられており、有益である。またセンターによるビジネスコースが 2 か月と比較的長期であるのに対し、UNDP は 1 週間と短かった。LJC は地理的にアクセスが良いとは言えないものの、LJC に受講希望者が多く集まるのは、受講者などからの高い評価を得ていることの証左と言える。 3. 日本センタープロジェクトの成果に感謝しつつも、日本政府も未来永劫にわたり支援可能でないことは十分承知しており、JDS プロジェクトへの支援、JVC に対する語学研修など、収入源を多角化することで、運営費の半分、電気、水道料金負担が可能になっている。 4. 他方、LJC は受講者の定員を限定し、コースの質を維持しており、1 講座あたり 60 名の応募に対し、定員は 40 名程度に設定している。他国による類似プロジェクトとして、中国、ベトナムによる MBA コースがあるが、中国は定員が多く 70 名から 80 名を 1 講座に受け入れているが、またベトナム・中国によるコースは現地人講師のみ。 5. 今後 Institute に格上げされれば、スタッフも増員でき、企画も充実化することが見込まれるため、現在プロポーザルを策定しているところにある。 6. LJC プロジェクト運営の発展段階を分析すると、以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 1-2 年目(フェーズ 1) : <u>日本人専門家中心のセンター運営フェーズ</u> ➤ 3-5 年目(フェーズ 1) : <u>ラオス人スタッフへの知識・技術移転フェーズ</u> ➤ 6 年目以降(フェーズ 2) : <u>ラオス人スタッフ中心の運営フェーズ</u> (ローカルスタッフをセンターの収入で雇用できるようになった) 7. LJC ビジネスコースの発展段階を分析すると、以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ フェーズ 1 : <u>理論重視型</u> (市場経済とは何か、わからないラオス人が多いなか、基本的なことから教える必要があった。また参加者は企業の幹部が比較的多かった。部下を信用することができない幹部が自ら LJC に学びに来ていた) 	

- フェーズ2：実践重視型（市場経済とは何か、基本的なことがラオス人に理解されてきたと考えられたため、理論に加え実践面を重視。フェーズ1期間中に学んだ人が実践面を学ぶため、再度 LJC に戻ってきた。また受講生は比較的若い層が増えた）

LJC ビジネスコース専門家との面談	
2009年11月10日(火) 11:05~12:00	先方：吉川専門家
場所：LJC	当方：調査団(野村、松下)
<p>野村団員より、本調査団の訪問目的を述べ、これまで10年間日本センターが果たしてきた役割と成果について問うたところ、概ね以下の通り発言があった。</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. フェーズ1開始当初、受講者の大半は<u>政府関係者か企業のトップ</u>で、<u>市場経済化以前のマインドを変えることに注力した</u>ようである。フェーズ2の前半は製造業に的を絞ったコースを実施したが、<u>同国企業のうち製造業の割合は15%程度に過ぎず、大半はサービス業であったため、後半はサービス業を含む全産業を対象を拡大したことで、応募者が圧倒的に増えた。</u> 2. またフェーズ2からは<u>比較的若い受講生が増えた。</u>MBAコース受講者の平均年齢も1年次33歳、2年次30歳と若い。マーケティングコースは27歳前後で女性が比較的多い。企業トップに就く年齢層は、依然旧態依然としたマインドが残っており、新しい知識を身に付けることに積極的でない。「<u>トップマネジメント</u>」講座を開講したが、集まった受講者は企業のトップではなく、30歳前後の若手であった。 3. ラオス人は「共生」を重んじる文化で、「競争」には馴染みにくい。これは人口が少ないことによるものと考えるが、市場経済化が進まない要因の一つになっていると思われる。ASEAN統合が近づいているものの、危機感は感じられない。 4. LJCでは若手の起業家をもっと支援すべきと考える。銀行とのタイアップにより資金支援なども出来ると良い。MBA受講生も起業への関心が高いが、サポートを必要としている。 5. またラオス資本の企業を積極的に支援したい。一般的に労働者は学歴が低く、能力が高いとはいえないため、これら人材を監督するマネージャークラスの若手人材を育成したい。例えば衣料品製造業は従業員の雇用人数が最も多いため、支援する価値があると考えられる。 6. ラオス商工会議所は、日本と違い企業が法規制を順守しているかを監督する役割を担っているに過ぎず、企業に対する情報提供サービスを行っておらず、LJCが変わって情報提供を行う機能を担ってはどうかと考える。なおLJCはこれまでも商工会議所と連携した実績があり、2名の職員(過去に吉川専門家がSVとして商工会議所勤務時に育成した職員)をLJCのマーケティングの講師として活用している。 7. LJCのビジネスコースは実践的と言われるが、ケーススタディやシミュレーション(ビジネスプランの作成とプレゼンテーション)、企業訪問、第一線で活躍する企業家による講演を通じてそのような「実践的」なコースを作り上げている。「現場がイメージできる講義」を常に意識している。ラオス商工会議所でSVをしていた際、他のビジネス 	

コースを多く見てきたが、このような実践的なコースを行っているところは他になかった。

LJC 日本語専門家との面談	
2009年11月10日(火) 9:30 ～10:30 場所:LJC	先方:野村国際交流基金派遣日本語教育専門家 当方:調査団(野村、松下)
野村団員より、本調査団の訪問目的を述べ、これまで10年間日本センターが果たしてきた役割と成果について問うたところ、概ね以下の通り発言があった。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. LJCはラオス国内の日本語教育機関の先駆けであり、開設当初は高い期待を集めていたが、現在は日本語学校が数校開講していることもあり、以前ほど高い関心をLJCが集めているとは言えず、受講者は開講当初の10分の1程度。ただし、質の高い日本語教育を受けられる唯一の教育施設として依然意欲のある学生を集めている。 2. LJCはフェーズ1で初級クラスを開講、その後開講した中級クラスに継続学習者が学んでいるが、中級から上級に至るまでは3年要すると言われており、同国内ではまだ中級レベルである(国内の2級以上保有者は20名以上と推測、センター職員は3名が2級を有する、今年度受験者3名のうち2名は基準点に達すると推測) 3. 学生が日本語学習を開始した動機の多くは、日本や日本文化への興味といったものが多いものの、上達するに従い、就職・留学のためといった明確な動機を持つようになる。実際に初級後半の時点で、明確な将来の展望を持って学ぶ学習者は上達が早い。 4. 今後センターがInstituteに格上げされることが検討されているが、一方で国際交流基金は文学部日本語学科を日本語教育の拠点校とし、専門家の派遣を行わない予定である。国際交流基金などの事業申請において、プロポーザル等の書類作成・確認を行う人材が確保できるのか懸念される。 5. 日本語教育は必ずしも日系企業への就職に結びつくものではないため、LJCは特定の企業の要望に応じ、会社説明会やガイド説明会を行っている。日系企業は日本語能力、親日感情、身元がはっきりしていることを採用条件としているようだ。 6. 一般的にラオス人は自らの将来の展望についてのアイディアが乏しい傾向があるが、LJCで学ぶことで自発的に考える習慣を身につけた学習者がいたと聞く。LJCが異文化理解を担う人間を育成する、という役割を担っていける存在であることを望んでいる。 	

LJC 副所長（ラオス側 CP）との面談	
2009年11月10日 13:00～13:50 場所：LJC	先方：Bounlounane DOUANGNGEUNE 副所長 当方：調査団（野村、松下）
<p>野村団員より、本調査団の訪問目的を述べ、これまで10年間日本センターが果たしてきた役割と成果について問うたところ、概ね以下の通り発言があった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本センタープロジェクトには、2005年8月より関わってきたが、フェーズ1からフェーズ2に移行する時期にあたり、設立当初にビジネスコースに対する高い需要が満たされたと言える状況で、受講希望者が減少していた時期であった。 2. こうした状況を受け、フェーズ2では実践的内容のビジネスコースを実施したほか、収益が見込める事業を活動に加えていった。MBA開講、JDSプロジェクト支援が一例で、その結果現在は51%をラオス側が負担している。 3. 日本語コースについても、国際交流基金専門家により運営される唯一の機関で、信頼性の高さを誇ってきた。 4. フェーズ2終了後はInstituteに格上げされることについて、教育省が特段異論を唱えているということはないが、WTO加盟、ASEAN統合など、活発な経済の動きに対応させた人材育成ができるよう両国側で議論の必要がある。 5. これまでの修了生で同国のビジネスを牽引する人材は存在すると思うが、比較的若年層であるため少数であると思う。企業としてはビエンチャンスチール、製薬工場から従業員を受講させてきているため、企業を率いる人材は何人かはいる可能性はる。リピーター企業は小さな企業が多く、レジータなどから数名の受講者を受け入れている。ラオビールは大企業であるが、同社が求める内容はLJCのコースと異なっている。 	

ラオス国立大学副学長との面談	
日時：2009年11月10日 場所：LJC	先方：Dr. Saykhon SAYNASINE 当方：調査団（野村、松下）
<p>野村団員より、本調査団の訪問目的を述べ、これまで10年間日本センターが果たしてきた役割と成果について問うたところ、概ね以下の通り発言があった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本センタープロジェクトは、「ラ」国内で実施される JICA プロジェクトで最も有益なプロジェクトの一つと考えている。「ラ」国が初めて市場経済導入を開始した1986年当初、<u>市場経済化を牽引する人材の不足が深刻</u>であった。 2. フェーズ2では、企業が多く<u>の受講生を送り、理論と実践両面からの経営に関する</u>コースが行われた。また MBA コースも開講し、<u>経済経営学の修士号取得が可能</u>となるなど、<u>人材育成面での貢献は大きい</u>。日本語コースではすでに2,000名以上が学び、日本留学や生活に関する情報提供も行われている。 3. センター運営においては、コストシェアの点でラオス側のオーナーシップが発揮されており、他国の日本センターと比較しても誇らしく思う。経済経営学部と合同での MBA コースはその好例であり、1期生35名の定員に対し100名の応募者を集めた。 4. 今後 ASEAN 統合による何らかの影響は避けられないが、それに備えることは容易ではない。同時に証券市場開設など多様な経済のニーズに合致したコースを充実化させる必要がある。 	

LJC 相互理解専門家との面談	
2009年11月11日(水) 9:00 ～10:30 場所：ラオプラザホテル	先方：三好相互理解専門家 当方：調査団(野村、松下)
<p>野村団員より、本調査団の訪問目的を述べ、これまで10年間日本センターが果たしてきた役割と成果について問うたところ、概ね以下の通り発言があった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. LJCはラオス国内で日本の文化紹介事業を行う唯一の機関であり、この10年間の成果としては、C/Pが自主的にこれら事業の企画・運営を行ったり、日本文化に係る知識を得て紹介する能力を身につけた点である(踊りのレッスン、日本映画の行事など)。開設当初、相互理解の専門家は派遣されておらず、初代専門家の花園氏が相互理解の活動を拡大させた。自分の任期中には活動を広げるよりむしろ、C/Pの能力強化で、ラオス側だけで運営できる規模の活動を行うようにしている。 2. 収益事業は積極的に行っており、留学フェア(9大学受入で9,000ドルの収入、収益1,200ドル)、本田財団奨学金説明会(7,000ドル)の開催、大学のスタディーツアー受入などを行っている。後者ではJAOL(日本留学生会)の紹介で青山学院大学の学生を受け入れたほか、中央大学の要請でNUOL森林学部の学生とエコツアーに関する討論会を行った。アレンジ料は一大学80ドル。また、業務委託型でジェネシス(21世紀東アジア青少年大交流計画(Japan-East Asia Network of Exchange for Students and Youths: JENESYS Programme))を受け入れている。また収益事業の柱の一つにJOCVの語学研修があったが、JDSプロジェクトオフィスを貸すことになり、部屋が不足するため現在は実施していない。 3. 相互理解事業とビジネスコース、日本語コースとの連携を徐々に図っており、ビジネスコースとは盆踊りの場での日系企業の紹介、日本のNGOの紹介などを検討中。日本語コースとはスタディーツアーの企画、留学フェアの企画を行っている。 4. ラオス側は徐々に力をつけ始めているが、日系企業からの提案を受ける際の窓口など日本人の存在が必要な場合もある。 	

教育省国際協力局長との面談	
2009年11月11日 11:00～12:00 場所：教育省国際協力局	先方：Mr. VIRAVOUTH 教育省国際協力局長 当方：調査団（野村、松下）
<p>野村団員より、本調査団の訪問目的を述べ、これまで10年間日本センターが果たしてきた役割と成果について問うたところ、概ね以下の通り発言があった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. LJCは過去10年間にわたり、両国間の友好促進に果たした役割は大きく、プロジェクトが成功に導くため、プロジェクト管理が良好に行われたのはJICAのイニシアティブが発揮されたからである。フェーズ1は市場経済への移行に係る講義が行われ、数千名の受講者が参加した。現在ラオス側所長を務めるマニソット氏は、開設当初から、日本センタープロジェクトに携わることで多くを学び、能力を向上させている。 2. 10年が経過し、LJCは比較的財政面での持続性が確保されていることは評価に値する。またここ数年、日本人専門家の投入により実施されている講義は市場経済化の動向に即したニーズを反映しており、短期間の研修でも受講者の能力向上をもたらしている。 3. 昨今ではLJCプロジェクトをモデルとした類似施設の建設が相次いで予定されており、大学内の敷地に孔子学院、ベトナムのセンターの設立が計画中である。ASEAN統合が迫るなか、グローバルな競争力のある技術を獲得できるかが課題であり、新フェーズでは地元の産業を活性化させる方策に取り組むことができればよいと考える。 4. ラオスの高等教育機関における課題の一つは民間セクターとの連携であるが、LJCはこの点でもモデルとなっていると思う。 5. ラオスでは、労働市場に係るデータベースや統計が整備されていないため明確な数値を得られないが、日本同様中小企業の割合が高く、LJCにおいて中小企業支援を継続して欲しい。特に起業家を志し、国の発展に貢献したいと考える若年層が多い。 	

LJC ビジネスコース受講生との面談（中古車輸入販売会社）	
日時：2009年11月12日10:00 ～11:00 場所：ラオス企業 SINO	先方：Mr. Deuanpheng Soukhoulalay SINO 社長 当方：調査団（野村、松下）、山本専門家
野村団員より、本調査団の訪問目的を述べ、研修受講の成果を訪ねたところ、概ね以下の通り発言があった。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 19歳の時に、田舎の SENO よりビエンチャンに上京し兄の経営する運送業者で働いていた。LJC のビジネスコース受講以前は、Lao-American カレッジで5年間英語とビジネスコースを学んだ。LJC に関心を抱いた理由は、マーケティングの知識が必要であると感じていた矢先、新聞でビジネスコースの広告が目にとまったからである。Lao-American カレッジでも、LJC でも講義では SWOT 分析などが取り入れる等理論面では一致しているが、LJC の講義ではビジネスの実践で、顧客との関係を長期的に維持していく必要性が強調されている点が印象に残っている。 2. 昨年8月に中古トラック輸入販売業を起し、日本製トラックの日本からの輸入販売を行っている。日本製トラックは高品質で当地でも信頼度が高いため、日本製以外は取り扱っていない。ビジネスパートナーは東京と神戸にいる。 3. 東京のパートナーとはタイで知り合い、当初は輸入代金を前払い送金する以外の方法が分からず一回60万程度支払っていた。問題が発生した訳ではなかったが、不安を感じていたため、マーケティングクラス講師の山本氏に講義終了後、支払方法に関し相談したところ、L/C 決済に変更するよう指導を受けた。Lao-American カレッジではかかる相談する相手がなかった。 4. ビジネスコースで学んだ内容で、最も印象的だったことは経営計画の策定方法、顧客管理、顧客とのコミュニケーションの改善である。これらは受講以前には全く考えたことがなかった。特に顧客との信頼関係構築を重視することを学んだ。 5. 先日、日本で行われた中古車のオークションに参加し、ビジネスパートナーの開拓にも努めた。業績も拡大しており、本年は12月までに販売実績は160台となる予定2008年9月から2008年12月期間の実績で30台)。当初は販売目標すらなかったが、2011年は300台に伸ばすことを目指している。 	

LJC ビジネスコース受講生との面談（製麺会社）	
日時:2009年11月13日11:00 ～12:00 場所：Xang Phuan Noodle Company	先方：Xang Phuan Noodle Company 社長 当方：調査団（野村、松下）、清水専門家
野村団員より、本調査団の訪問目的を述べ、研修受講の成果を訪ねたところ、概ね以下の通り発言があった。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 1990年に起業した。設立以前は産業省の職員兼ロシア語教員として働いていたが、経済開放政策により、起業促進が行われた。当時は従業員が5名であったが、現在は18名に増え、うち13名が生産部門で働いている。 2. 他国による研修として、2006年、UNDPによる生産性コース、APOの遠隔教育による輸出促進セミナー、スイスによるCleaner Productionの講義を受けた。APOのセミナーでは5Sも講義内容に含まれていたが、2時間と短期間であり、実践に移すには不十分なものだった。 3. LJC受講を決めたきっかけは、APOのセミナーで知り合った人がLJCの講師になったため、LJCスタッフが受講を薦めてくれたからである。仕事で他のアジアの国を訪問する会があり、ラオスはまだ発展していない部分があると痛感し、勉強の必要があると感じていた。 4. LJCのコースが他の研修と異なる点は、<u>時間外でも指導を受けられ、現場で指導を受けられること</u>、<u>色々な科目に係る知識がアップデートされる点</u>である。<u>受講以前は学んだことを実践する方法が分からなかった</u>。従業員のモチベーションも上がったように思う。 5. 従業員に5Sを徹底するよう努めているが、教育レベルの低さ、読み書きができない人材がいる、秤の使い方を知らないほか、地方出身者の中には衛生観念のギャップが大きい人もあり、難しい点はある。現在、5S担当者を設け、8月から12月に清掃完了の予定。 6. <u>今後は日本的な考え方を軸に経営していきたいと考えている。日本的な考え方には自発的な変化を期待する姿勢があると思う。また学んだ知識は従業員が内部から成長し、やる気を起こさせることを待つという点で、実践的だと思う。</u> 7. 今後は機会があればマーケティングについて学びたい。また生麺のパック包装で保存料なしで行う方法を導入したいが技術的に難しい。また輸入のうるち米を使用し、乾燥麺の製造にも着手したいが資金が不足している。ビジネスを拡大するには銀行からの借入れが必要だが、金利は12～18%で、外国からの支援なしでは実現は不可能。 8. 近いうちにFAO基準に沿って保健省が定めた基準（GMP, Good Management Practice） 	

で認可される見通しで、安全な食品を製造する工場として認知されるようになると期待している。国際基準に則った食品を製造する工場として、ラオス国内のモデル的な存在を目指している。

LJC ビジネスコース受講生との面談（家具製造会社）	
2009年11月13日（月）14:20～15:00 場所：Viengniyom Factory	先方：Mr. Phongpaseuth Lorvanxay Viengniyom Factory 社長ほか2名 当方：調査団（野村、松下）
野村団員より、本調査団の訪問目的を述べ、これまで10年間日本センターが果たしてきた役割と成果について問うたところ、概ね以下の通り発言があった。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 1948年から本工場での勤務を開始し、1996年に工場長（経営者）になった。当座の経営資金を兄から借りたところ、経営は順調だったため、2年で余り元金を帰すことができた。1975年に退職し、1984年に家業を息子に譲ったものの90年代半ばに赤字経営となり、再度第一線に復帰した。現在は家具製造以外に、スチール家具の輸入、不動産業、稲作、金融業などを手掛けており、多角経営による売り上げは月に100万バーツ（約300万円）に上る。 2. 国内市場向けに製造を行う理由は、輸出できるレベルの技術・信頼性を有していないため。乾燥技術の不足、市場での信頼性を獲得し、将来的には輸出できる製品を製造することが希望。可能になれば銀行からの融資を受けられる。 3. 家具協会の副会長を務めている。家具協会には57社が加盟しており、平均で10名以上の従業員がおり、大規模なものは100名や200名を雇用している。Viengniyom Factoryは中規模クラスである。一般的にラオスの家具産業の問題点として従業員の離職率が高く、優秀な人材はヘッドハンティングされる。Viengniyom Factoryも同様の課題を抱えており、高い技術を有する従業員には高い給与を保証する必要がある。 4. 現在は国内市場向けに売れる製品を製造しているが、将来的にはデザインや品質などの面で外国から評価される製品技術を身につけたい。ニトリの話では、5Sを導入していないと日本に輸出できないと言われたことがあるため、LJCのコースで得た知識は即活用できると考えている。 	

日本語学習者・相互理解事業参加者との面談	
2009年11月17日(月) 9:30~12:30 場所：LJC	先方：日本語学習者・相互理解事業参加者 計3名 当方：調査団(松下)
<p>松下団員より、日本語学習及び相互理解事業の感想を問うたところ、概ね以下の通り発言があった。</p> <p>1. 日本語学習について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 図書館を頻繁に利用するため、LJCに通うにつれ日本語コースを知った。 ● 日本語学習は漢字学習が難しく、1年程度で挫折し、2年目は違う言語を始める人が多い。自分は2年間勉強しているが、徐々に面白くなってきている。 ● LJCは日本人もラオス人も大変教授法が優れていて、熱心にユーモアをこめて教えてくれ、励ましの言葉をかけてくれる。 ● 日本語を始めた当初はガイドとして働くことに関心があったが、今は日本語学校および日本語ガイド養成学校を故郷で開講したい。そのために日本留学をし、LJC日本語教師のような先生になりたいと思っている。 ● 大学で観光学を専攻しており、将来は日本語を活かし旅行代理店に勤務したい。将来、国主催の観光セミナーを受講し、ガイドとして政府公式認定されるようになりたい。 ● 現在、大学で経済学を専攻しており、将来はUNDPで地方の開発に取り組みたい。自分はテンパサット県出身であり、将来同県以外にもラオス全土の開発に貢献したい。 ● 現在受講料は適切であると思う。将来的に上がると払えなくなるので、据え置きにして欲しい。 ● 「みんなの日本語」は良い本だと思うが、難しいレベルの本がまだなく、今後上級に進むにつれて、テキストをどう入手すればよいか心配。 ● ラオス国内の他の学校では、LJCで日本語のテキストを購入し、授業に使っている。 <p>2. 相互理解について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 相互理解コースには全て参加してきた。盆踊り、生け花、オペラなどが面白かった。ラオスの踊りやフルーツカービングも面白いと思う。 ● 学習院女子大学の学生と地方でホームステイをした時は、学生との交流で刺激になった。成長したいと思った。 ● 今後、絵を描く、茶道・伝統文化、日本料理、お菓子作りのクラスに関心がある。 ● 日本留学のチャンスがあまりないので、今後欲しい。 <p>3. 図書館について</p> <p>図書館では婦人雑誌、ファッション誌、美容雑誌に関心があるので、頻繁に利用している。</p>	

その他、タイ語に訳された日本に関する図書が豊富なため、利用価値がある。

- 2008年7月に日本ラオス投資協定が発行され、投資自由化、促進及び保護など投資環境の改善に向けた両国間の法的整備が進められることとなった。日系企業にとっては、ラオスの安く比較的優れた労働力が魅力であり、今後進出が拡大することが期待される。
- 日系企業の進出拡大で、MBAコース修了生や各種ビジネスコース修了生などの高度ビジネス人材のニーズは高まり、今後はLJCビジネスコースの役割は大きい。プロジェクト完了後に、日本が完全に撤退してしまえば、これまでの努力が水泡に帰すこととなる。日本大使館としては次期フェーズで自立性を一段と高めつつも完全にラオス側に任せるのは時期尚早と考えている。

ビジネスコース受講者との面談	
2009年11月17日(火) 13:30~18:30 場所:LJC	先方: 当方:調査団
<p>松下団員より、本調査団の訪問目的を述べ、ビジネスコースから受けた印象、受講した成果などについて問うたところ、概ね以下の通り発言があった。</p>	
<p>1. <u>中古車輸入販売会社、SINO 社長 Mr. Deuanepheng SOUKHOUMALAY</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日本はアジア経済を牽引する地域のリーダーとして、アジア諸国からの憧れの的である。日本型経営に対する関心も若手起業家の間では高いものである。受講料はそれほど高いとは感じない。むしろ、得られるものと比較すれば安いものだと思う。 ● 米国のマーケティングと日本のマーケティングは確かに理論上共通しているが、自分が依然在籍したアメリカカレッジとは、教え方が格段に素晴らしい。受講生は皆引き込まれており、内容も理解しやすくなるよう工夫していたほか、授業時間外でも指導をして頂いているので、大変ありがたいと思っている。 ● 学んだ知識は、従業員にも理解して貰えるよう努めている。会社全体で、特に大きな変化が見られたのは、顧客との信頼関係であり、購入して貰えなかった場合にも将来顧客になる可能性を考慮し、長期的な関係を築けるよう努力するようになった。また事務所を訪問した客には、必ず水を出し、ソファに座ってもらい話を聞くなど、丁寧な応対・接客を社員が心がけるよう指導しており、他の社員にも徹底できている。 ● 顧客の購買欲を刺激することも重要で、複数の製品を示し、ニーズや好みに合わせて商品を勧める手法はマーケティングコースで学んだことを実践している。決断を遅れないことを学んだ。 ● より難易度の高いマーケティングコースがあれば受講したい。時折通訳に間違いが見られ、英語を解さない受講生には影響がでるのではないかと危惧される。 ● ビジネスコースで学び、現場指導を受けて、自分のビジネスに自信が持てるようになり、積極的になった。 	
<p>2. <u>ラオタバコ株式会社 製造部社員 Mr.Vongvilay INTHAVONG</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● ラオタバコはラオス政府(41%)とImperial TobaccoとのJVによる2001年設立の企業で、前身はLaoタバコ。従業員は510名。ラオス国内で最も大きい企業の一つ。 ● LJC受講を決定したのは、中国人の上司に勧められたため。上司はImperial Tobacco中国支社の工場長として勤務時代に5Sを推進した経験があり、新聞に掲載されたLJCビジネスコースの案内から5Sが学べると知り、多くの職員をコースに送ってきた。LJCは最も良いビジネスコースを有する学校として自分の周囲には定評があった。 ● 受講して5Sをすぐに実践に移した。最初に、受講生5名を中心とする5S委員会を社 	

内に構成し、自分は事務局として、各部署から担当者を募るなど、中心的な役割を果たした。当初は「忙しいから不可能」、「時間の無駄」、「清掃婦の仕事」と取り合わない社員も多く、協力者を得ることが難しい面もあり、必ずしもすべての部署が協力してくれたわけではなかった。しかし、工場長が支持してくれたため、少しずつ賛同者が増えていった。

- 現在では、5S が浸透しつつあり、必要なもの・不要なものが明確に整理され、道具など全ては片づけられるようになるなど、職場環境がスムーズになったし、生産効率も良くなったように思う。
- また、5S 委員会は週に一度会合を行い、5S プロモーション計画を本年 7 月に作成した。また来年 6 月をめどに、より規模の大きいマスタープランが策定される予定である。
- 5S は職場だけでなく、教育現場、公共の場、家でも当てはめられる素晴らしい理論だと思う。自分の兄は学校を経営しているが、独学で学び導入している。
- 次回は生産管理の受講もしたい。
- 授業料は類似施設と比較して、安いと思う。特に日本人専門家の実務経験を聞くのは大変興味深く、満足している。わかりやすい授業だ。
- パワーポイントのソフトコピーを欲しい。
- 「5S 推進」を行ったのは社内で評価され、将来的に昇進に結びつくと思う。

3. 縫製工場ダオサバン社長 Ms. Sigrong THAVIXAY

- 母親による印刷業者を引きつぎ、2006 年に創業した。現在は工場長として 2, 3 名の生産部門、6 名の事務員を抱えている。操業当初はミシンが 1 台しかなく自前で縫製ができず、仲介業者として衣類を販売するだけだった。
- ラオス国立大学の政治科学を専攻していたため、学生時代から将来は国際的に縫製業を営みたいと思っていた。LJC の存在は以前から知っており、新聞で案内を読み応募した。
- LJC を選んだのは他の機関の研修は基本的なこと以外教えないこと、ラオス人は日本製品への信頼を持っているため。
- マーケティング計画、生産管理を受講したが、授業は大変分かりやすく、工場の様子をビデオ写真で示してくれ、方法を教えてくれた。これまで仲介業者としてオーダーするだけだったが、縫製を開始するようになった。
- これまで GTZ による縫製業に係るマネジメントコースに参加したことがあるが、日本センターで使用したテキストと同じものを使っており、講師は以前、LJC コースを受講した人が務めていた。
- 日本人講師は学生が理解しているかどうか、常に気にかけて講義を行っている。授業時間外にも、惜しみなく時間を指導に割いて頂いている。また学んだことのうち、80% はすぐに実務に活用できており、実践的な内容との評価は大変高い。

4. Pharmaceutical Factory No.3 社員 Mr. Khampheiu INTHAVONG

- 1986年創業の国営の製薬会社。社員は127名。薬品や点滴に使用する薬品を製造しており、ほぼ国内市場向けの製品である。
- 管理部門職員として従業員の指導及び監督を担当している。ビジネスコースのほぼ全てのコースを受講しており、受講した内容を活かし、コストを削減しながら生産向上、質的向上に取り組むよう社内で努めるようになった。従業員規模が比較的大きいため、これら取り組みを開始するにあたり、当初は社員一致で協力するという機運にはならなかったが、最終的には合意を得た。
- 企業訪問を受けた際に、社内の作業効率、稼働率を改善するため、若手人材に自ら発想し、議論をすることが奨励されたが、若手人材のキャパシティビルディングにはよい経験となり、人材の育成に役立っている。

5. Cosco Advertising Company マネージャー Ms. Souksanya KHAYKHAMPHITHOUNE

- 2007年の創業で社員は15名程度。業務内容はCM、印刷、ウェブ制作、雑誌製作。社長、マネージャークラス、受付以外はデザイナーなど。
- LJCは新聞広告で関心を抱いた。以前から知り合いの間で、LJCはレベルが高く質が良いと聞いたことがあった。2週間のコースを受講したが、主にマーケティングが自分の仕事との関連性が深く、すぐに実践に移すことができた。
- 講師の教授法は受講者の関心を十二分にも引き付けるものであった。受講者の理解度を確認しながら、授業を進めていたほか、関心を引き出すような授業を行っていた。
- ラオスでは、タイ、ベトナムと比べての顧客のニーズを把握するという習慣がないため、これまではどのように顧客を探し、ニーズに訴えたらよいのか、考えたことはなかったが、授業では目的を持って、顧客を選び、ターゲットに直接アプローチして営業するという方法を学び、実践に移した。
- 実践の成果として、顧客を絞り込むこと、幅を広げすぎず、営業をすることに重点を置いた。その成果として、従業員数を減少したにも関わらず、営業成績が30%から60%に拡大できた。
- 同社が作成している旅行雑誌があるが、スポンサー企業が増え、20社50社に増えた。

Somchay PHETLAMPHANH L J C 副所長との面談	
2009年11月17日(火) 11:30~12:30 場所:LJC	先方: Somchay PHETLAMPHANH 副所長 当方: 調査団(松下)
<p>松下団員より、本調査団の訪問目的を述べ、これまで10年間日本センターが果たしてきた役割と成果について問うたところ、概ね以下の通り発言があった。</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 1984年よりラオス国立大学の英語教員として勤務していたが、LJC開設に伴いスタッフ不足が問題となり、大学から任命され、2003年にLJC総務部の職員として勤務するようになり、2005年に副所長に就任した。 2. 2008年から相互理解交流の企画・運営に携わっている。2006年に花園専門家が着任して以来、相互理解交流事業は格段に増え、折り紙、フルーツカービング等、多様な活動を行うようになり、同時に仕事の進め方に関する指導を受けられるようになった。 <p>予算の面もあり、雇用できる職員数には限りがあるため、ボランティアの力を借り活動を行っている。現在11名のスタッフがおり、平均年齢も30歳と若いので、少しずつ文化を教え、自らボランティアを利用して事業を運営していけるよう指導している。</p> 3. LJC職員になる以前の日本に対するイメージは、ラオスの一般市民同様、で日本製品の質が良いこと、日本料理はヘルシーである、という程度ものだった。LJC職員になって大変勤勉であることに驚き、効率的な仕事の進め方など学べることは多い。 4. そのため、日本料理への関心にこたえられるような事業も行っており、最も好評を博しているイベントの一つ。 5. LJCの知名度は学生の間では大変高く、地域でもよく知られる存在である。その理由はラジオ番組の放送が週に一度行われることに起因していると思われ、全国レベルでの知名度向上に一役買っている。その他ポスター、新聞広告、2週間に一度アップデートするウェブなど広報活動を積極的に行うよう心がけている(webは1年で平均2,000名の視聴者)。 6. 個人的には、ベトナム、カンボジアなどメコン流域の国々との文化交流に関心がある。特に人の行き来ができると、文化交流を行う必要性も高まるのではないかと思う。 7. 2001年の設立当初、センターの事業費の90%は日本側が負担していたが、2003年~2004年にはビジネスコースの収入が増え、2005年~2007年には50%のコストシェアを達成した。2010年までにはラオス側が60%を負担できると見込んでいる。 8. センターの事業収入確保のため、日本の大学との相互交流プログラムの実施に重点 	

を置くべきだと思っている。分野としてはエコツーリズム、環境など開発問題と相互理解を組み合わせるとより学びの多いプログラムになるのではないか。

9. 類似の文化施設として、フランス文化センター、インド文化センターがあり、頻繁に文化行事を開催している。以前、フランス文化センターが折り紙教室を行って欲しいとの依頼があり、現地職員が訪問したことがある。

Somphene PHANKHAM 総務部門ヘッド との面談	
2009年11月17日(火) 14:00~15:00 場所：LJC	先方：Somphene PHANKHAM 総務部門ヘッド 当方：調査団(松下)
<p>松下団員より、本調査団の訪問目的を述べ、これまで10年間日本センターが果たしてきた役割と成果について問うたところ、概ね以下の通り発言があった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. LJC 勤務以前はラオス国立大学の英語教師をしていた。同大学からの人名により、昨年の初めからLJC スタッフ相互理解コース担当として勤務を開始し、本年5月に総務部長に就任した。現在の職務内容は各コースの管理運営、セミナーやワークショップの準備など多岐にわたる。 2. 当地一般市民は日本人へのイメージが大変良く、自分自身もLJC 勤務以前から大変良いものであった。特に日本人と仕事をすることで、業務計画の立案方法、報告連絡の方法などを学んだのが有益であった。 3. 一番印象的だったのは、相互理解コース担当として着任当初、花園専門家より来年度の事業計画を立案するよう指示を受け、それまで経験がなかったため、イメージすら浮かばなかったことである。現在は、LJC での約2年間の経験により、知識やスキルも身に付き、それほど困難に感じることはなくなった。今後インスティテュート化されることで、総務部門の役割も充実させる必要があり、職員のキャパシティ向上が重要であると思っている。 4. 現地スタッフ間では、週に一度月曜日午前中にスタッフミーティングあり、ラオス人所長に活動状況を報告している。 5. LJC の知名度は学生の間で大変高く、信頼できる教育施設として、ビジネスコースや日本語コースの質の良さは定評がある。一般市民の間での知名度としては、教育を受けている層には知られていると思う。市民はパソコンなど日本製品などの技術レベル、メンテナンスの技術との関連で日本をイメージしている。 	

インド・ラオ起業開発センターとの面談	
2009年11月16日(月) 9:00~10:00	先方：副所長
場所：インド・ラオ起業開発センター	当方：調査団(松下)、吉村所員
<p>松下団員より、本調査団の訪問目的を述べ、教育省職業訓練局の活動とビジネス人材のニーズ等について問うたところ、概ね以下の通り発言があった。</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 2004年に設立。ビエンチャンで開催されたASEANサミットを受けて、インド・ラオス間の経済交流促進を目的として設立された。インドから、アドバイザー1名の派遣、教材提供が行われた。ラオス側はラオス側職員の給与、建物(注：ラオス国立大学工学部の建物の一部)の提供を行い、2005年から2007年までインド政府により支援が行われたが、現在は支援を一切受けていない状態。 2. 事業の対象者及び内容は、主に以下の二つに分類される。①起業家を志す地方出身の若年層。ビエンチャンで学びながら事業興すことを希望する学生。最低限必要な知識として、履歴書の書き方、銀行口座の開設の仕方、銀行からの融資を受ける方法を教えている。②学生に対する職業訓練を、5日~10日間の期間で行い、各コース20名程度の学生がおり、ディプロマを与えている。 3. 現在は、インド政府からの資金提供が途絶えており、専門家の派遣も行われていないため、講師は全てラオス人の講師を雇用している。2004年にラオス政府は中小企業促進のための大統領令を公布しており、徐々に小規模なビジネス環境は改善しつつある。かつてのようなライセンス取得の難しさは軽減する傾向にあると思う。 4. 最近では若年層で家具製造、工芸品の小規模ビジネスを開始することを考える者が増えてきた。昨今は応募者が減少傾向にあるため、より若手の中小企業経営を希望する者に対象を絞ることを検討している。 	

Somixay TEXO 日本語部門ヘッド との面談	
2009年11月18日(水) 11:30~14:30 場所: LJC	先方: Somixay TEXO 日本語部門ヘッド 当方: 調査団(松下)
<p>松下団員より、本調査団の訪問目的を述べ、これまで10年間日本センターが果たしてきた役割と成果について問うたところ、概ね以下の通り発言があった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 当初、物理学の研究者として大学に在籍していたが、1998年に岡山県の奨学金で岡山大学に留学し半導体の研究を行った。帰国後、大学教員として大学で物理学を教える予定であったが、マニソット氏から誘われたのがきっかけでLJCでの勤務が開始された。当時ラオス国内に日本留学経験者がラオスに少なく、C/Pを探していた。 2. 2001年から2003年にLJCの夜間クラスで日本語の初級から勉強し、中級をその後10カ月で終えた。JICAの研修で沖縄に10か月滞在したことがある(7ヶ月日本語、3ヶ月日本語教授法)。2007年国際交流基金浦和センターで2か月研修を受けた。 3. 現地スタッフは平均28歳程度。2級取得者はいない。副主任は日本で修士課程で学んでおり、現在のスタッフ2名は2級を合格した。マティナは北浦和に9月から長期研修、ヒアラポンは日本で修士課程に在籍中。 4. LJC日本語コースは毎年100名程度の学生がおり、今年は172名が受講している。受講者数はフェーズ1から徐々に減少傾向にある。現在、文学部日本語学科から数名の学生がLJC日本語コースで学んでいる。日本語学習者は、学習した知識と将来の目標との関連性が薄いことが難点。初級レベルではガイドや通訳になることもできない。日系企業は3級以上を求めてくる。 5. 民間の日本語学校はビエンチャン市内に5校(チャンペー、ティンリ、シホン、法学部内民間コース、高校(ネップチャンセンター))。 6. LJCはビエンチャンではよく知られた存在。ルアンプラバン(Luang Prabang)やサバナケット(Savannakhet)では日本人ボランティアも多く、知名度が高い。TVニュースやラジオ放送で放送されるのも全国的に知名度が広がるのに貢献している。 	

MBA コース受講者との面談	
2009年11月18日(火) 16:00~18:15 場所: LJC	先方: MBA コース第一期生 3名 当方: 調査団 (松下)
<p>松下団員より、本調査団の訪問目的を述べ、ビジネスコースから受けた印象、受講した成果などについて問うたところ、概ね以下の通り発言があった。</p>	
<p>1. <u>国営企業 Electrical Construction Installation Mr. Anousone THIPDOUANGCHAI</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● LJC を選んだのは、職場と家との帰り道で利便性があるため。コース内容はすべてとは言えないが仕事で実践することができているので、質・レベルともに大変優れていると感じた。企業関係者の中ではベトナムや中国の MBA を有するビジネススクールより人気がある。 ● 知識としては全てが自分にとって新しいものであった。社内で徹底すべきとみな簡単に言うが、実際に全て取り入れることは容易ではない。 ● 講義では、プロジェクトマネジメント、クオリティマネジメント、オペレーションマネジメントは短すぎた。経済理論関連の講義は少し時間を取り過ぎだった。 ● LJC の MBA コースの授業料はリーズナブルな価格設定だと思う。中国ベトナムはもっと高く設定されていると聞く。 <p>2. <u>DATA Com (IT系企業) 社員 Mr. Somvang LUANGPRASEUTH</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● ラオス国立大学の技術学部出身で、卒業後家業の縫製工場に勤務していたが、従業員の削減を行ったため、将来より高度なビジネスの知識を得て、就職するため MBA 取得を考えた。 ● その際、中国やベトナムの MBA の情報収集をしたが、余り関心が持てるような内容ではなかった。昔から日本に対する憧れがあり、特に日本的経営は、正確で丁寧で、システムティックな仕事をもたらすというイメージを持っていた。友人からの勧めもあって、LJC の MBA を受講することにした。 ● コースではトヨタ方式を学んだのが印象的だった。社内で実践しているのは、「時間管理」で、顧客の元に赴く際には、必ず時間より早く出かけ、準備を整えるなど。これ以外に市場調査を学んだのは初めてで、マーケティング戦略を策定したこともなかった。顧客に製品を買ってもらえるよう、興味を刺激するか、考え始めた。こうした試みで職場は少しずつだが改善しているように思う。 ● 5S は ISO 取得のため必要なので、職場では必ずしも最初から賛同を得られなかったが、時間を作り、徐々に理解をして貰えるよう努力したい。 ● アイディア、計画を策定する際、自分自身はまだ若く経験も浅いため限界もあるが、MBA を取得し昇進したら多くの改善の提案ができると思う。より具体的な方法を提案するなど自ら中心になって改善することができるのが日本的経営の強みだと思う。 	

- 5年後にはコーチング、トレーニングのビジネス学校を自分で作るのが夢。
 - 受講料は高額でも、元はとれている。MBAは授業の難易度に差があった。
3. Bank of Lao 社員 Ms. Phouheuang Khamphounvong
- 多くのアジア諸国は日本を憧憬の念を持っており、発展のモデルと考えているので、以前から日本型経営に関心があり、LJCのMBA受講を決めた。MBAコースは現在の業務との関連性が深く、銀行員として顧客への接し方、顧客を引き付ける方法、従業員の管理などを学ぶ必要があると考え、応募した。
 - 現在、中心的に学んでいるのは、マーケティング、ファイナンス、人事、オペレーション・マネージメントである。
 - 他のビジネススクールに所属する友人からは、企業の実態に即した授業が行われていないと聞いており、どう勉強に活かせばよいか分からないようだ。
 - 日本・ラオスは共通点が多いが、日本の終身雇用、昇給制度は大変うらやましい。また従業員の忠誠心、コミュニケーションなど、ラオスは多くを学ぶことができると思う。従業員満足度という言葉は従業員のやる気を引き出す上で、素晴らしく、驚いた。
 - 今後はファイナンス、マーケティング、国際経済の講義を引き続き受講したい。
 - 授業時間が遅いので8時半には終わらせるようにしてほしい。
 - 将来は現在の会社でより高いポジションを目指しながら、自ら起業したいと考える。現在はSPA経営に関心がある。

k

ラオス日本人材開発センター 日本語教育事業 フェーズ2最終報告

2010年1月作成

生田守（国際交流基金 日本語国際センター専任講師）

武田友理（ “ 日本語教育支援部 さくらネットワークチーム）

調査概要

1. 調査期間: 2010年1月18日(月)～1月20日(水)

2. 調査者

・生田守（国際交流基金 日本語国際センター専任講師）

・武田友理（ “ 日本語教育支援部 さくらネットワークチーム）

3. 調査目的

ラオス日本人材開発センター(以下LJC)・日本語コースは、2000年9月から2005年8月までの5年間を第1フェーズとし、2005年9月より第2フェーズ(2005年9月～2010年8月)に入っているJICAの技術協カプロジェクトの一環として、2001年5月に開設された。

第1フェーズにおいては、JICAが日本語教育専門家を派遣し、第2フェーズからは国際交流基金(以下、「基金」)がプロジェクト協力機関として、LJCの日本語教育事業部門に日本語教育専門家を派遣している。今回の調査の目的は、第2フェーズの終了を間近に控え、本プロジェクトの柱の一つである日本語教育部門における事業の評価を実施し、その目標到達度や成果について最終的に報告することである。

4. 調査方法

- ・ 2007年からの研修実施後アンケート評価の分析
- ・ 基金 日本語教育派遣専門家報告書(2005年～2009年)の確認
- ・ LJC 日本語教育関係者(日本語教育専門家、日本語室主任、現地日本人講師、ラオス人講師、ラオス人スタッフ)および受講生へのインタビュー
- ・ ラオス国立大学日本語教育関係者(学科長、日本語教育専門家、ジュニア専門家、JENESYS 派遣講師)へのインタビュー
- ・ 民間学校(チャンパ日本語学校)校長へのインタビュー

成果

本プロジェクトの成果を以下のとおり評価する。

1. ラオス日本語教育における役割

LJC の提供する日本語教育プログラムにより、ラオス日本語学習者の増加がもたらされ、受講生の満足度もきわめて高く、中心的な学習の場となっている。LJC において行われる「日本語まつり」や交流活動を通して、ラオス日本文化交流の場としても中心的な役割を占めている。また、スピーチコンテストや日本語能力試験(以下、JLPT)を通して、学習者のインセンティブを引き上げ、その質を高めている。

2. 現地人講師(ノン・ネイティブ)の質向上と独立性

LJC は目下、センターからインスティテュートへの格上げが模索されており、実現の折には、講師の身分安定につながる可能性がある。

現在、主任のソミサイ氏は修士論文執筆中で、モンペット氏は留学先の日本から近々戻る予定で、マティナー氏は3年後に修士を取得予定と、研鑽を積んだラオス人講師が5年以内にはそろってくる見込みであり、授業や講座運営において力を発揮することが期待できる。

しかしながら、現段階では、ラオス人講師主導による講座運営は難しいといえよう。

課題と提言

1. 技術移転の問題

現地人講師(ノン・ネイティブ)が独立して、講座を運営していく際に必要な「技術」を「移転」する、いわば「現地化」の問題として、中級レベル教授とコースデザイン作成の2点が上げられる。

初級レベルは、教材・副教材とも整い、カリキュラムも一定し、学習者数も安定してきた感があるが、中級は端緒についたばかりで、教材もカリキュラムも指導法も不安定である。

さらに、中級クラス(前半)を教えられるラオス人講師は1名のみで、あとはすべて現地採用の日本人講師が教えている。現地人講師が中級を教えられるようになるには、日本語力と教授能力が必要であり、派遣専門家によれば、この点においては、JLPT1 級取得や、修士号取得のラオス人講師がそろうには5年待たねばならないということである。

コースデザイン作成、つまりカリキュラムやシラバスを作成しコースを運営していく能力を持つラオス人講師はまだいないということで、この点は「現地化」にはさらに深刻な問題である。

日本語講師室の主任はソミサイ氏であるが、現在、修士論文の執筆で執務時間が十分にとれ

ず、派遣専門家から研修を受ける機会がなくなっている。また、コース運営は日本人の先生にやってもらいたいという意識もあり、技術移転はうまく行っていない。

2. 基金専門家派遣終了に対する不安

LJC がようやくラオスの日本語教育において中心的な役割を占めるようになったところで、基金からの専門家派遣を終了するのは、今後の発展にとって、阻害要因になるという危惧が LJC より聞かれた。

これは主に「技術移転」の課題についてであり、現段階で不確定要素の多いシニア・ボランティアに頼るには不安要素があり、引き続き専門家に講座運営と現地講師への指導が必要であるとの意見であった。

もう一つの問題は、JLPT の開催についてである。現在基金はラオス国立大学へ専門家を送っていることから、LJC から専門家が引き上げた後は、実施機関は大学に移行しなければならず、準備業務などで実施が難しくなるとの意見があった。

4. 提言

① 前項 3 のように、専門家派遣終了に際しては不安事項もあるが、「技術移転」と言うものは、「教える」「学ぶ」の関係においてでなければ成立しにくい。現在のように、派遣専門家と主任がカウンターパートという対等な関係にあり、そして「現地化」がラオス人講師主導であるべき以上（基金が後押し）、円滑な「移転」は難しいだろう。従来 LJC で週 1 度、教師のための講座を開いたり、オン・ザ・ジョブ・トレーニングという形で「移転」を試みても、特別に「研修」という場を取り分けられない限り、授業の方法やコースデザインの方法を「教える」ことはできない。

ゆえに、現在と同じ条件で基金から専門家を派遣する意義は小さいと言わざるを得ない。これは決して努力の問題ではなく、教育を「技術」と見た場合、その「移転」に関しては繊細な問題が並立するということである。これは教育が、理念的・哲学的な面と技術的な面の両面を持つところから来ているのだろう。

②今後の LJC への基金のサポートとしては、ラオス人講師の訪日研修への参加などを通じた、教授法知識および日本語力向上のための研修への参加を支援することなどが考えられる。

大切なのはラオス人講師の「意識」である。自分たちでやろうという思いがないところにはどんな支援も成果を見ない。支援する側も「代わりにやってあげられないこと」を見極めていくことだと思う。

③基金派遣専門家終了後の日本語コース運営の現地化を促進するためには、ラオス人講師の

「意識」の育成が最重要であり、フェーズ2終了までの残り半年間にラオス人講師が主体的に日本語コース運営に関与するようLJCの中で働きかけていく必要がある。

④フェーズ2終了後、中級コースを実施するのであれば、ラオス人講師が JLPT1 級もしくは修士号取得に達するまで5年間程度SV派遣及び現地採用の日本人講師の確保が望まれる。

⑤基金派遣専門家終了後の実施体制が不安視されている JLPT については、単に実施機関をLJC からラオス国立大学に移行するのみならず、LJC、ラオス国立大学、在ラオス日本大使館等の日本語教育関係機関が協力して、実行委員会を設置する方法も検討に値すると考える。いずれにしても、ラオスにおける JLPT の継続をLJC及び関係機関が希望するのであれば、関係機関間の現実的な対応の協議を早急に行うことを提言する。

以上

ANNEX I TENTATIVE PROJECT DESIGN MATRIX
Implementing Agency in Japan : JICA
Implementing Agency in Lao P.D.R. : NUOL
Duration : 2005-2010

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification Following all data are collected at Baseline Survey	Important Assumptions
<p>(OVERALL GOAL)</p> <p>1. The Center will perform the core function of human resource development in the field of business area for market-oriented economic reform of Lao P.D.R.</p> <p>2. The Center will be utilized as the key place for mutual understanding between the people in Lao P.D.R. and Japan.</p>	<p>1 % of the sampling number of Vientiane citizens recognizing LJC</p> <p>2 No. of private companies in Vientiane recognizing LJC</p> <p>3 No. of member companies of Chamber of Commerce</p> <p>4 Average income of people with LJC certificate</p> <p>5 No. of students learning in Japan</p> <p>6 No. of Japanese visitors to Laos</p> <p>7 Score on rating-scale assessing the level of mutual understanding</p>	<p>Questionnaire (opinion polls)</p> <p>Questionnaire through Chamber of Commerce</p> <p>Data from Chamber of Commerce</p> <p>Questionnaire for LJC graduates</p> <p>Lao MOE statistics</p> <p>Lao gov. statistics</p> <p>Questionnaire (opinion polls)</p>	<p>Political status of Lao PDR remains stable.</p>
<p>(PROJECT PURPOSE)</p> <p>1. The Center provides services to enhance human resource development for the market-oriented economic reform of Lao P.D.R.</p> <p>2. The information and the opportunities to participate in activities for mutual understanding are provided for people of both countries by the Center.</p>	<p>1 No. of visitors of LJC</p> <p>2 No. of membership issued at LJC in a year</p> <p>3 No. of participants and users of each service</p> <p>4 X% of LJC users and course participants assessing LJC services as satisfactory against rating scale</p> <p>5 No. of participants becoming entrepreneurs</p> <p>6 No. of Lao private companies starting business with Japanese companies</p> <p>7 No. of Lao private companies improving working efficiency and ethics</p> <p>8 No. of participants becoming Japanese teachers</p> <p>9 Score on rating-scale assessing the level of mutual understanding</p>	<p>Records of a counting device</p> <p>LJC data</p> <p>LJC data</p> <p>Questionnaire for LJC users and participants</p> <p>Questionnaire for LJC users, participants and ex-participants</p> <p>Questionnaire for LJC users, participants and ex-participants</p> <p>Questionnaire for LJC users, participants and ex-participants</p> <p>Questionnaire for LJC users, participants and ex-participants</p> <p>Questionnaire for LJC users, participants and ex-participants</p> <p>Questionnaire for LJC users, participants and ex-participants</p> <p>Questionnaire for LJC users, participants and ex-participants</p>	<p>The government of Laos maintains the current policy to promote market economy.</p>
<p>(OUTPUTS)</p> <p>1. The general management of the Center is improved</p> <p>2. Practical business courses and business services intended for the business people in Laos are provided.</p> <p>3. The resources of Japanese language education in Laos are activated through teachers' training, course programs and network among Japanese language teachers.</p> <p>4. The system for providing mutual understanding programs and information is established.</p>	<p>1-1 Baseline survey conducted</p> <p>1-2 General Management system redesigned</p> <p>1-3 No. of staff training based on the long-term human resource development plan</p> <p>1-4 % of staff achieved its targets</p> <p>1-5 Capacity of staff improved</p> <p>1-6 Monitoring and evaluation conducted</p> <p>2-1 Annual implementation plan formulated</p> <p>2-2 No. of type of business area activities</p> <p>2-3 Collaborative services with organizations such as Ministries and Chamber of Commerce delivered</p> <p>2-4 Monitoring and evaluation conducted</p> <p>3-1 Overall strategy and an annual implementation plan for Japanese Language formulated</p> <p>3-2 Type and no. of activities in Japanese language</p>	<p>Results of Baseline survey</p> <p>General Management system</p> <p>Staff training records, Training report</p> <p>Self-evaluation</p> <p>Assessment by LJC directors</p> <p>Monitoring and evaluation reports</p> <p>Annual Implementation Plan</p> <p>Activity reports</p> <p>Activity reports</p> <p>Monitoring and evaluation reports</p> <p>Overall strategy, Annual implementation plan</p> <p>Activity reports</p>	<p>MOE and NUOL cooperate with the LJC</p> <p>Lecturers of FEBM, NUOL teach at LJC</p>

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
<p>(ACTIVITIES)</p> <p>1-1 To conduct baseline survey</p> <p>1-2 To redesign and implement general management system of the Center</p> <p>1-3 To implement staff training</p> <p>1-4 To monitor and evaluate the general management system regularly</p> <p>2-1 To make an annual implementation plan for business area activities</p> <p>2-2 To implement business area activities according to the annual implementation plan</p> <p>2-3 To collaborate with other organizations and provide special courses related to market economy</p> <p>2-4 To strengthen the coordinated function with FEBM</p> <p>2-5 To monitor and evaluate achievements of activities regularly</p> <p>3-1 To establish overall strategy and make an annual implementation plan for Japanese education in NUOL</p> <p>3-2 To implement Japanese courses</p> <p>3-3 To implement teacher training</p> <p>3-4 To form a human network of private Japanese language schools and the Japanese Education person in ASEAN region</p> <p>3-5 To promote mutual cooperation with the Japanese Education person in Laos through the teacher seminars and the development of teaching materials in LJC</p> <p>3-6 To provide learning environment for Japanese course participants by installing the self-study classroom and studying materials</p> <p>3-7 To monitor and evaluate achievements of activities regularly</p> <p>4-1 To implement needs survey for mutual understanding activities</p> <p>4-2 To collect and provide information on both countries</p> <p>4-3 To provide opportunities by utilizing facilities</p> <p>4-4 To strengthen coordination with Business area and Japanese language</p> <p>4-5 To monitor and evaluate achievements of activities regularly</p>	<p>3-3 Level of Japanese proficiency of learners</p> <p>3-4 No. of teacher training conducted</p> <p>3-5 Available level for Lao teachers to teach</p> <p>3-6 Network with other organizations established</p> <p>3-7 No. of meeting and activities together with other organizations</p> <p>3-8 Self-study room for course participants organized</p> <p>3-9 Monitoring and evaluation conducted</p> <p>4-1 Needs survey for mutual understanding activities conducted</p> <p>4-2 No. and type of services provided to promote mutual understanding</p> <p>4-3 Score on rating-scale assessing the level of mutual understanding</p> <p>4-4 No. of access to the LJC homepage</p> <p>4-5 No. of activities implemented in cooperation with Business Area and Japanese language</p> <p>4-6 Monitoring and evaluation conducted</p> <p>(INPUTS)</p> <p>JAPANESE SIDE</p> <p>1. Dispatch Japanese and third country Experts</p> <p>(1) Long-term Experts</p> <p>Japanese Director/ Chief Advisor</p> <p>Project Coordinator</p> <p>Business Advisor</p> <p>Japanese Language Advisor</p> <p>Mutual Understanding Advisor</p> <p>(2) Short-term Experts</p> <p>As necessary</p> <p>2. Provision of machinery and equipment</p> <p>3. Counterparts training</p> <p>4. Budgetary allocation for local activity expense</p>	<p>Results of Japanese tests</p> <p>Activity reports</p> <p>Activity reports</p> <p>Activity reports</p> <p>Activity reports</p> <p>Self-study room</p> <p>Monitoring and evaluation reports</p> <p>Results of needs survey</p> <p>Activity reports</p> <p>Questionnaire for users and participants of each services, Interview</p> <p>LJC data</p> <p>Activity reports</p> <p>Monitoring and evaluation reports</p>	
	<p>(LAO SIDE)</p> <p>1. Assignment of Personnel</p> <p>(1) Counterparts</p> <p>(2) Administrative staff</p> <p>2. Provision of land, buildings and facilities</p> <p>3. Budgetary allocations</p> <p>4. Privileges, Exemptions and Benefits</p>	<p>REVENUE OF THE CENTER</p> <p>1. Running expenses for implementation of the Project.</p> <p>(1) Basic salary of the staff employed by the Center,</p> <p>(2) Honorarium for lecturers for business courses, and part-time teachers for Japanese language courses,</p> <p>(3) Daily use stationeries,</p> <p>(4) Fuel fee for vehicle of the Project</p> <p>(5) Domestic telephone fee and postage fee,</p> <p>(6) General advertisement costs for its activities, and</p> <p>(7) Other maintenance costs of the equipments.</p>	<p>(PRE-CONDITIONS)</p> <p>Budget to recruit LJC counterparts is secured by the Government of Laos</p>

Vientiane Times Feb. 12, 2010

NUOL, JICA to upgrade human resource cooperation centre

Khamphone Syvongxay

The National University of Laos (NUOL) and the Japanese International Cooperation Agency (JICA) have reported their intention to upgrade the Lao-Japan Human Resource Cooperation Centre (LJC).

Representatives of both organisations have agreed the centre will become the Lao-Japan Human Resource Development Institute.

The LJC was established nearly 10 years ago and provides training in the Japanese language and computer studies, as well as promoting Lao and Japanese cultural exchanges. It has given high priority to developing human resources in Laos, particularly business training and master's level degrees.

With phase II of the current agreement due to expire this year a Japanese Terminal Evaluation team came to assess the centre for two weeks last month. The team consisted of JICA Headquarters team leader Mr Senya Mora and two members of JICA.

The team placed high value on Lao-Japanese human resource cooperation and noted that the training

provided by the centre benefits both nations. It is the most successful Japanese run centre of all those set up in neighbouring countries and central Asia.

The centre has grown strongly in many areas such as finance, staffing and management. JICA is committed to continue to provide assistance, especially in the business management division. The aim is to further develop Lao business skills in line with those of other Asean nations.

From 2000-20210, the centre has been a significant symbol and common asset of Laos and Japan, said Project Supervisor and NUOL Vice President, Associate Professor Dr Saykhong Saynasine.

He also hoped that in the remaining months of the current LJC agreement both sides can prepare and build the foundations for new cooperation and wider expansion of duties for the benefit of the people of Laos, Japan and the region.

He reported that at the end of the current agreement, JICA will continue its support by strengthening the business division, and establish the Lao-Japan Cooperation Institute. It will be the first institute at



Dr Saykhong Saynasine (right) exchanges meeting minutes with Mr Senya Mora.

NUOL.

Staff working at institute must be better qualified and more experienced in management, communication and academic research. Some of the comments made by the terminal evaluation team were that staff should plan carefully how to manage the transition smoothly and successfully, said Dr Saykhong.

Agreement on the minutes of the meeting on Japanese Technical Cooperation for the

Project of Lao-Japan Human Resource Cooperation Centre phase II from 2006-2010 was reached by the Japanese Terminal Evaluation Team and the Lao government in Vientiane on Wednesday.

The agreement was signed by Mr Senya Mora and Dr Saykhong Saynasine. The signing ceremony was attended by the Second Secretary from the Embassy of Japan to Laos and included representatives from the relevant sectors in Laos and Japan.

